ISSN 1346-6976

石 川 県 立 看 護 大 学

年 報

第 17 巻

平成28年度

石川県公立大学法人
石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

巻頭言

平成 28 年度は、地方創生が叫ばれるようになって 3 年が経ち、内外の施策が安定し始めた時期でした。それに対し文部科学省発の大学改革の波はさらに大きくなり、この年度は学力の 3 要素を念頭に置いた 3 つのポリシーの見直しが全大学に課せられました。これは、大学改革は日本の教育全体の改革と共にあるようにという考え方を基にしており、具体的には高大接続というキーワードが大変多く使われました。学力の 3 要素は学校教育法第 30 条に明記され、(1) 基礎的・基本的な知識・技能、(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、(3) 主体的に学習に取り組む態度とされています。大学には高等学校及びそれ以前の学校の教育改革と歩調を合わせた 3 ポリシーを整えることが求められ、本学も 1 年かけて取り組みました。

また、この 3 つの学力の要素を育成するためのアクティブラーニングや教員の FD の必要性が強調された年でもあります。本学は早い時期からアクティブラーニングに注目しておりましたが、ここに来て言葉の正確な理解の必要性や多様な取り組みがあることなどに気づかされ、1 から出直した年でした。FD についても学生による授業評価に加えて今後は教育の質保証に発展することが想定され、次年度に向けた課題として残りました。

本学の個別事情としては、法人化の第 1 期中期計画と第 2 期中期計画の挟間の年でした。[平成 28 年度の単年度評価] ＋ [平成 23-28 年度の総合評価] のための資料作成が行なわれ、そして [平成 29-34 年度の中期目標・中期計画] ＋ [平成 29 年度の単年度計画] を策定するという作業がありました。大学運営に携わる立場の人はもちろん、多くの教職員が多大な作業を行ないました。

このような多忙な年であっても本来の教育研究や地域貢献とは真摯に向き合いました。学部教育では初年次教育の一環として情報リテラシーやアカデミックリテラシー教育充実に向けたシラバスの見直し再編が行なわれました。大学院に助産師養成課程を開設する方針が決まり、その準備にも追われました。看護キャリア支援センターでは多方面からの期待を受けて平成 29 年度からの認知症認定看護師教育開始準備に取り組みました。地域ケア総合センターでは、かほく市のイオンモールウォーキング事業に協力し、事業評価を任されました。国際交流面もたくさんの事業が組まれ、例年の事業に加えて、学生の始めてのタイでの研修、MOU を結んだ南京中医薬大学の訪問、ノースカロライナ大学からの客員教授の招聘などを行ないました。このように様々に教職員が活動した 1 年でした。

この年報は、この 1 年の大学全体の様相、教職員一人ひとりの学内外での役割・活躍や、個人で努力したことの成果等が、正直にほぼ網羅的に掲載されています。

加えて大学としての自己点検評価報告書を今回初めての試みとして年報に合体し、1 冊にまとめました。従来、自己点検評価は認証評価に合わせて 7 年ごとに行ってきました。この度の自己点検評価は、今後 2 年ごとに行う取り組みのさきがけとなるものです。

皆様、是非 http://www.ishikawa-nu.ac.jp/ にもアクセスしてみて下さい。本学に対する忌憚のないご意見をうかがえれば幸甚です。

石川県立看護大学　学長　石垣和子

第 17 回入学式
（平成 28 年 4 月 5 日）

夏のオープンキャンパス
（平成 28 年 7 月 16 日）

第 12 回夏期アメリカ看護研修
（平成 28 年 8 月 26 日～ 9 月 8 日）

米国 Family Nurse Practitioner
（平成 29 年 3 月 23 日～ 28 日）

JICA　日系研修
（平成 28 年 7 月 29 日～ 8 月 25 日）

JICA　青年研修
（平成 28 年 11 月 30 日～ 12 月 13 日）

タイ国立チェンマイ大学研修
（平成 28 年 8 月 27 日～ 9 月 11 日）

石川県看護教員現任研修
（平成 28 年 6 月 11 日）

感染管理認定看護師教育課程　微生物検査演習
（平成 28 年 9 月 27 日）

第 13 回卒業式
（平成 29 年 3 月 18 日）

目　次

巻頭言
1.　学事…… 1
1.1　平成 28 年度学事暦 …… 1
1.2　大学組織図…… 2
1.2.1　大学組織図 …… 2
1.2.2　常設委員会構成 …… 3
1.3　オープンキャンパス…… 5

2.　教員・職員紹介…… 6
2.1　教員紹介…… 6
2.2　特任教員等紹介…… 10
2.3　教員組織構成…… 10
2.4　職員紹介…… 12

3.　中期計画…… 13
3.1　第 1 期中期計画（平成 23 年度～ 28 年度）における平成 28 年度計画と実績 …… 13

4.　看護学部看護学科…… 16
4.1　理念・目標…… 16
4.1.1　教育理念 …… 16
4.1.2　教育目標 …… 16
4.1.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）…… 16
4.1.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）…… 17
4.1.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）…… 17
4.2　学部学生の入学・在学・卒業の状況…… 18
4.3　教育・履修体制…… 21
4.4　委員会活動…… 22
4.4.1　常設委員会 …… 22
4.4.1.1　教務委員会…… 22
4.4.1.2　学生委員会…… 24
4.4.1.2.1　学生相談専門部会 …… 25
4.4.1.2.2　進路支援専門部会 …… 26
4.4.1.3　研究推進委員会…… 27
4.4.1.4　学内研究助成審査委員会…… 29
4.4.1.5　石川看護雑誌編集委員会…… 30
4.4.1.6　情報システム委員会…… 30
4.4.1.7　広報委員会…… 31
4.4.1.8　入学試験委員会…… 33
4.4.1.8.1　入試実施部会 …… 35
4.4.1.8.2　入試評価部会 …… 35

4.4.1.9　自己点検・評価委員会…… 35
4.4.1.9.1　教員評価部会 …… 36
4.4.1.9.2　年報編集部会 …… 37
4.4.1.10　FD 委員会 …… 37
4.4.1.11　ハラスメント委員会 …… 38
4.4.1.12　情報セキュリティ委員会 …… 39
4.4.1.13　コンプライアンス委員会 …… 39
4.4.1.14　倫理委員会 …… 40
4.4.1.15　衛生委員会 …… 40
4.4.2　特設委員会 …… 41
4.4.2.1　3 ポリシー見直し WG…… 41
4.4.2.2　英語版 HP 作成 WG …… 43
4.4.2.3　大学改革委員会…… 43
4.4.2.3.1　カリキュラム改定班 …… 44
4.4.2.3.2　大学院・専攻科検討班 …… 44
4.4.2.3.3　教員組織改編班 …… 45
4.5　平成 28 年度　卒業研究論文題目一覧 …… 47

5.　大学院・看護学研究科…… 52
5.1　理念・目標…… 52
5.1.1　博士前期課程（修士）…… 52
5.1.1.1　教育理念…… 52
5.1.1.2　教育目標…… 52
5.1.1.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）…… 52
5.1.1.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）…… 53
5.1.1.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）…… 53
5.1.2　博士後期課程（博士）…… 53
5.1.2.1　教育理念…… 53
5.1.2.2　教育目標…… 53
5.1.2.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）…… 54
5.1.2.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）…… 54
5.1.2.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）…… 54
5.2　大学院生の入学・在学・修了の状況…… 55
5.3　大学院教務学生委員会…… 57
5.4　大学改革委員会　大学院・専攻科検討班…… 58
5.5　平成 28 年度　修士論文題目一覧 …… 59
5.6　平成 28 年度　博士論文題目一覧 …… 59

6.　教員の業績…… 60
6.1　書籍…… 60
6.2　学術論文…… 61
6.3　その他の原稿…… 63

6.4　学会発表…… 64
6.5　社会活動・地域貢献…… 71
6.6　その他（受賞等）…… 84
6.7　研究助成金…… 85
6.7.1　科学研究費助成事業（日本学術振興会）…… 85
6.7.1.1　科学研究費補助金…… 85
6.7.1.2　学術研究助成基金助成金…… 85
6.7.2　学内研究助成費 …… 87
6.7.3　その他助成金等 …… 88

7.　国際交流…… 89
7.1　国際交流委員会…… 89
7.2　ノースカロライナ大学との交流（大学院科目「国際看護特論Ⅰ」）…… 91
7.3　夏期アメリカ看護研修（学部科目「国際看護演習」）…… 92
7.4　韓国 全北大学校看護大学との交流 …… 94
7.5　中国 南京中医薬大学看護学院との交流 …… 94
7.6　中国 吉林大学看護学院との交流 …… 95
7.7　米国 Family Nurse Practitioner 視察研修 …… 96

8.　地域創生…… 97
8.1　地域創生委員会…… 97
8.2　大学間連携共同教育推進事業－ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト－…… 98
8.2.1　大学間連携共同教育推進事業班 …… 98
8.3　能登キャンパス構想事業…… 100
8.3.1　能登キャンパス構想事業班 …… 100
8.4　地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）…… 100
8.4.1　COC プラス事業班 …… 101
8.5　COI 事業 …… 101

9.　附属図書館…… 103
9.1　図書館運営委員会…… 103
9.2　今年度の主な活動概況…… 104
9.3　資料整備状況…… 105
9.4　利用統計 …… 106
9.5　利用者サービス …… 108
9.6　職員研修 …… 110

10.　附属地域ケア総合センター …… 111
10.1　地域ケア総合センター運営委員会 …… 111
10.1.1　人材育成部会…… 111
10.1.2　地域活動部会…… 111
10.1.3　国際貢献部会…… 112

11.　附属看護キャリア支援センター …… 113
11.1　看護キャリア支援センター運営委員会 …… 113
11.2　感染管理認定看護師教育課程 …… 114
11.2.1　受講生の受講・修了状況…… 114
11.2.2　入学試験・入試説明会の実施…… 114
11.2.3　感染管理認定看護師教育課程入試委員会…… 114
11.2.4　感染管理教員会…… 115
11.3　認知症看護認定看護師教育課程 …… 115
11.3.1　教育機関認定審査…… 115
11.3.2　入学試験・入試説明会の実施…… 115
11.3.3　認知症看護認定看護師教育課程　入試委員会…… 115
11.3.4　認知症看護認定看護師教育課程　教員会…… 116
11.4　認定看護管理者 …… 116
11.4.1　教育機関の認定…… 116
11.4.2　受講生の受講・修了状況…… 116
11.4.3　認定看護管理者教育運営委員会…… 116
11.5　石川県委託事業の開催 …… 117
11.5.1　実習指導者講習会（特定分野）…… 117
11.5.2　看護教員研修事業…… 117
11.5.3　管理者経営研修…… 117
11.5.4　認定看護師活動報告会…… 117

12. 大学として取り組んでいる連携事業…… 118
12.1　北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン …… 118
12.1.1　がんプロ企画委員会…… 118

13.　大学施設の開放 …… 121

編集後記…… 122

1. 学事

1.1　平成28年度学事暦

平成28年

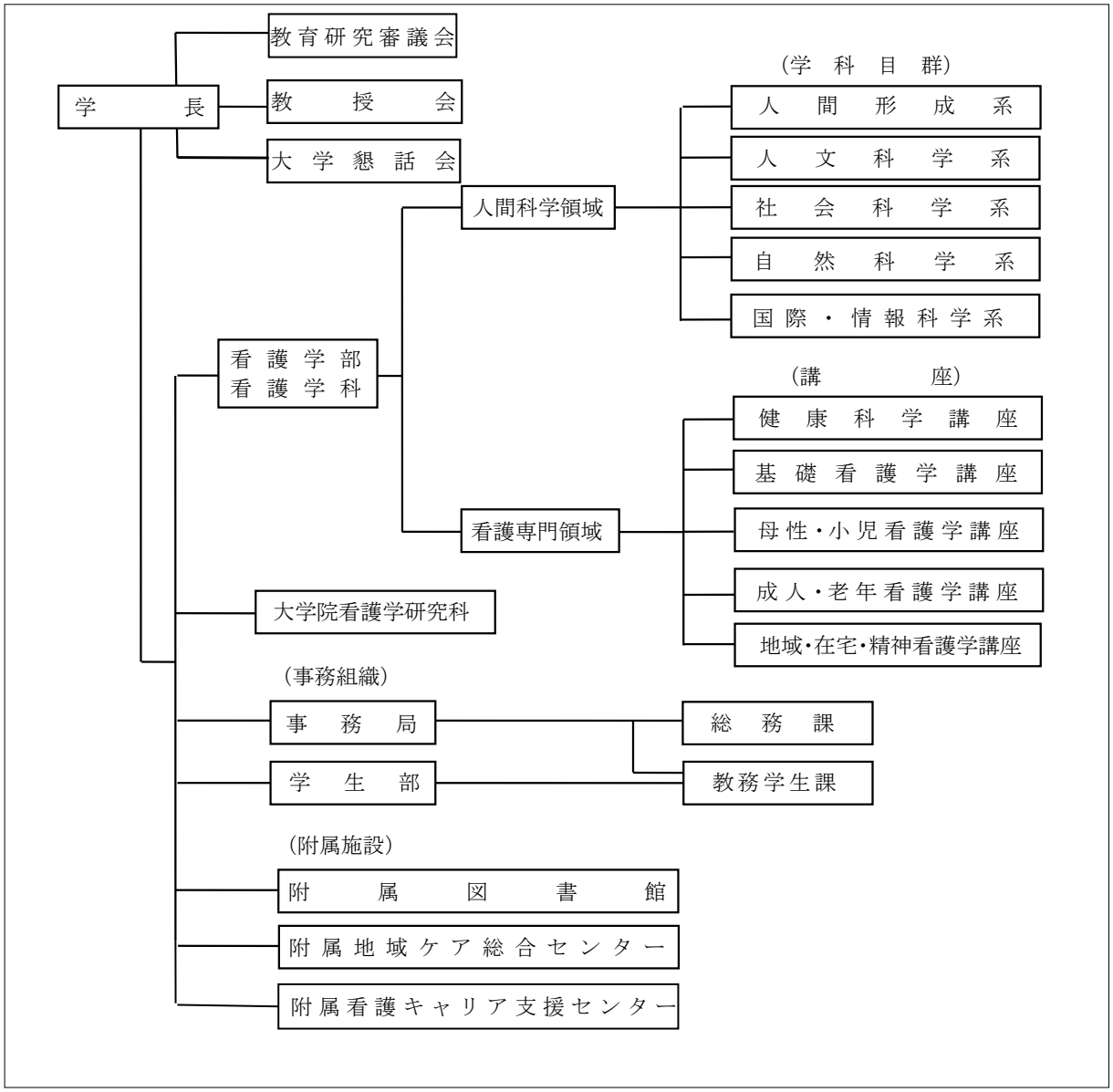
4月 5日（火）	入学式
4月 6日（水）～ 4月 7日（木）	ガイダンス
	学生健康診断
4月 8日（金）	授業開始
4月 6日（水）～ 4月12日（火）	前期履修登録受付
5月29日（日）	開学記念日・開学記念講演会
7月16日（土）	夏のオープンキャンパス
7月29日（金）～ 8月 9日（火）	前期補講・試験
8月10日（水）～ 9月30日（金）	夏季休業
9月24日（土）	入学試験（編入学試験）
	入学試験（大学院博士前期課程・後期課程）
10月 3日（月）	後期授業開始
9月20日（火）～10月 5日（水）	後期履修登録受付
10月29日（土）～10月30日（日）	大学祭　29日(土) 秋のオープンキャンパス
11月19日（土）	入学試験（推薦入試・社会人入試）
12月22日（木）～ 1月 4日（水）	冬季休業

平成29年

1月14日（土）～ 1月15日（日）	大学入試センター試験
1月28日（土）	入学試験（大学院博士前期課程･後期課程（第2次募集）)
2月13日（月）～ 2月21日（火）	後期補講・試験
2月25日（土）	入学試験（一般入試前期日程）
3月12日（日）	入学試験（一般入試後期日程）
3月18日（土）	卒業式・学位授与式
2月22日（水）～ 3月31日（金）	春季休業

1.2　大学組織図

1.2.1　大学組織図



1.2.2　常設委員会構成

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載ページ
教務委員会*	学長の指名	小講座から各1名（講師以上）ただし、基礎･成人からは各2名	22
学生委員会*	学生部長	大講座から各1名以上（講師以上）＋各学年担任から1名	24
学生相談専門部会	学生部長の指名	4名（助教以上）＋学生部長	25
進路支援専門部会	学生部長の指名	看護の小講座から1名（講師以上）	26
図書館運営委員会	附属図書館長	大講座から各1名（講師以上）	
石川看護雑誌編集委員会*	図書館長の指名	4名	30
研究推進委員会*	学長の指名	大講座から各1名（講師以上）	27
学内研究助成審査委員会	学長の指名	5名（教授のみ）	29
情報システム委員会	学長の指名	5名	30
地域ケア総合センター運営委員会*	附属地域ケア総合センター長	小講座から1名（講師以上）	111
人材育成部会		4名	111
地域活動部会		6名	111
国際貢献部会		4名	112
看護キャリア支援センター運営委員会*	附属看護キャリア支援センター長	センターの教員3名 その他学長が指名する者5名	113
感染管理教員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、公益社団法人石川県看護協会の役員1名、その他学長が指名する者2名、医療機関の看護管理者1名	115
感染管理入試委員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、教育経験を有する感染管理認定看護師3名、その他学長が指名する者1名	114
認知症看護教員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、公益社団法人石川県看護協会の役員1名、医療機関の看護管理者2名、その他学長が指名する者1名	116
認知症看護入試委員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、教育経験を有する認知症看護認定看護師3名、その他学長が指名する者1名	115
認定看護管理者教育運営委員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員2名､医療機関の看護管理者4名、その他学長が指名する者1名	116

*委員会運営を助ける助手・助教1 ～ 2名が学長指名で追加される。

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載ページ
国際交流委員会	学長の指名	大講座から各1名（講師以上）＋委員長指名3名	89
広報委員会*	学長の指名	役職者＋HPへの文章登載の役割を担う者	31
入学試験委員会	学長	大講座から各1名（准教授以上）	33
入試実施部会	入試委員長の指名	大講座から各1名以上（助手以上）	35
入試評価部会	入試委員長の指名	5名（講師以上）	35
問題編集部会（非公表）	学長の指名	必要数	
自己点検・評価委員会*	学長	役職者、学長指名4名	35
教員評価部会	学長の指名	3名	36
年報編集部会	学長の指名	3名	37
FD委員会*	学長の指名	大講座から各1名（講師以上）	37
ハラスメント委員会	学長	6名	38
情報セキュリティ委員会	学長の指名	学長指名	39
コンプライアンス委員会	学長の指名	5名	39
大学院教務学生委員会	研究科長	5名	57
倫理委員会	研究科長	6名程度＋学外9名	40
がんプロ企画委員会	学長の指名	学長指名	118
衛生委員会	衛生管理者の資格を有する教員	理事長指名＋過半数代表者推薦	40

*委員会運営を助ける助手・助教1 ～ 2名が学長指名で追加される。

1.3　オープンキャンパス

1.3.1　夏のオープンキャンパス

1. 日　時：平成28年7月16日（土）　10時00分～ 14時00分
2. 参加者：485名
3. 概　要：
   1）大学説明会
      ・オリエンテーション
      ・本学の概要説明
      ・入試説明
   2）模擬授業　　西村教授「子どもと家族とかかわり看護するとは･･:小児看護学の講義より」
   3）保護者セミナー
      ・カリキュラム、国家試験、進学・就職について
      ・学費・奨学金、アパート情報について
   4）学生によるキャンパスライフの紹介
      ・看護学実習、アメリカ看護研修について
      ・サークル・課外活動について
   5）在学生・教職員による相談・交流コーナー
   6）施設見学・看護学実習体験

夏のオープンキャンパス2016では、県内外から高校生、専門学校生、社会人および保護者ら485名の参加があった。

本学の学生広報委員や学生ボランティア、教職員らがキャンパス見学や看護学実習体験、相談・交流コーナー、保護者セミナーなどの各企画を担当し、参加者との交流を行った。

このオープンキャンパスが、参加者にとって本学への理解や関心を深める機会となり、一人でも多く本学への進学を志してもらえることを期待する。

1.3.2　秋のオープンキャンパス

1. 日　時：平成28年10月29日（土）　9時30分～ 12時00分
2. 参加者：140名
3. 概　要：
   1）大学案内
      ・学長からのメッセージ
   2）学生によるキャンパスライフの紹介
   3）入試準備セミナー　林一美教授、牧野智恵教授、武山雅志教授
   4）在学生・教職員による相談・交流コーナー

秋のオープンキャンパス2016では、県内外から高校生、保護者や社会人ら140名の参加があった。

学長からのメッセージに始まり、学生から講義や実習、夏期アメリカ看護研修を含めたキャンパスライフの紹介、また教員からは入試準備セミナーで小論文と面接について具体的なポイントを伝えた。

参加者のほとんどが今年度の受験対象者であり、入学試験に対する心構えや、大学生活や将来の職業観等について考える上で、参考になったことを期待する。

大学祭（看大祭）が同日開催であったことも、大学の雰囲気を知ることに繋がった。

2　教員・職員紹介

2.1　教員紹介

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	准教授	垣花　渉
	人文科学系群	哲学	教授	浅見　洋
		心理学	教授	武山雅志
	自然科学系群	人間工学	教授	小林宏光
	国際・情報科学系群	情報科学	教授	松原　勇
		英語	准教授	加藤　穣
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	教授	長谷川　昇
			教授	今井美和
			講師	市丸　徹
		保健・治療学	教授	多久和典子
			教授	大木秀一
	基礎看護学講座	基礎看護学	教授	丸岡直子
			准教授	中田弘子
			准教授	木森佳子
			講師	林　静子
			助教	田村幸恵
			助教	田淵知世
			助手	三輪早苗
			助手	梶谷有美子
	母性・小児看護学講座	母性看護学	教授	濵　耕子
			准教授	山岸映子
			講師	米田昌代
			助教	曽山小織
		小児看護学	教授	西村真実子
			講師	金谷雅代
			助手	千原裕香
			助手	坂本洋子

研　　究　　課　　題
参加型健康教育が心身の健康に及ぼす影響、初年次教育の実践的研究
日本哲学の研究、医療倫理に関する研究、死生学に関する研究
新日本版MMPIにおける基礎研究、看護学生のコミュニケーションに関する研究、被災地学生ボランティア活動に関する研究
心拍変動（Heart rate variability）および唾液バイオマーカーの分布特性その応用研究
在宅ケア（特に脳卒中既往者）の疫学統計、THP（トータル･ヘルス･プロモーション）の疫学統計、情報処理教育方法の改善研究
医学・看護英語に関する研究、英語圏の医療制度に関する研究、医療倫理に関する研究
認知機能・身体機能の低下予防、機能性食品による更年期症状緩和効果、ロコモティブシンドローム予防のための根拠に基づいた実践、ICTを用いた健康ケアシステムの構築と実践
若年女性の子宮頸がん予防行動に関する研究
生殖機能の調節に関する研究
生理活性脂質メディエーターの生理学・病態生理学的意義の解明、現代のメディカルプロフェショナル育成：新しい教育メソッドの構築、疾患の病態生理に立脚した生活習慣病の予防指導、分子と細胞の機能理解の看護学への応用
ライフコース行動遺伝疫学研究、多胎児家庭に関する包括的な研究、当事者参加型の地域実践研究
在宅療養移行支援（退院支援）に関する研究、看護管理に関する研究、転倒リスクマネジメントに関する研究
基礎看護技術に関する研究、補完代替医療に関する研究、看護用具のデザイン・開発に関する研究
看護技術に関する基礎研究と開発、創傷リスクアセスメント、予防・創傷治癒促進の技術についての研究
看護師の視覚による観察に関する研究、看護技術による生理的反応に関する研究
看護学実習における教員と指導者の連携についての研究、基礎看護教育に関する研究
外国人住民における健康課題の研究、多文化共生のための保健医療サービスの研究
基礎看護教育に関する研究
看護教育と臨床がより近づくことを考察する文献検討
夫婦の親役割適応に関する研究、周産期の健康とQOL評価、女性向け補整下着の開発評価に関わる研究
母乳哺育に関する研究、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する研究、地域における子育て支援に関する研究、国際保健に関する研究
流産・死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族へのグリーフケアに関する研究、周産期のケアに関する研究、子育て支援に関する研究
周産期の看護に関する研究、子育て支援に関する研究、生殖補助医療の看護に関する研究
子どもの虐待予防に関する研究、育児不安･育児困難・虐待に悩む母親への支援に関する研究、子育て支援に関する研究
育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究、子どもへのデスエデュケーション･グリーフケアに関する研究
子育て支援に関する研究、次世代育成教育に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究
子育て支援に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
看護専門領域	成人・老年看護学講座	成人看護学	教授	牧野智恵
			教授	村井嘉子
			准教授	北山幸枝
			准教授	岩城直子
			助教	寺井梨恵子
			助教	川端京子
			助教	松本智里
			助手	大西陽子
		老年看護学	教授	川島和代
			講師	中道淳子
			助教	磯　光江
			助手	渡辺達也
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	教授	石垣和子
			准教授	阿部智恵子
			准教授	塚田久恵
			准教授	織田初江
			助教	曽根志穂
			助教	金子紀子
		在宅看護学	教授	林　一美
			准教授	桜井志保美
			助教	子吉知恵美
			助教	山﨑智可
		精神看護学	准教授	谷本千恵
			講師	川村みどり
			助教	大江真吾
			助教	清水暢子
附属看護キャリア支援センター			准教授	石川倫子
			特任准教授	徳田真由美

研　　究　　課　　題
がん患者の「生きる意味」への支援、治療中および終末期がん患者への支援方法に関する研究
クリティカルケア看護に関する研究、クリティカルケア看護におけるキュアとケアの融合を基盤とした看護実践に関する研究
皮膚・創傷の管理および看護技術に関する研究、栄養不良状態下における創傷発生時皮膚の組織学的検討
がん患者の精神心理的ケアに関する研究、在宅緩和ケアに関する研究
転倒リスクマネジメントに関する研究、看護師の臨床判断における視覚情報の取り込みに関する研究
看護継続教育に関する研究
股関節疾患患者の歩容に関する研究
クリティカルケア看護に関する研究
高齢者施設等の看護と介護の連携に関する研究、看護技術の開発と適用に関する研究、看護理論の実践における検証（優れた実践の理論的検証）
認知症高齢者ケアに関する研究、介護予防に関する研究
認知症を有する高齢透析患者に関する研究
フレイル予防、介護予防に関する研究
保健師活動に関する研究、僻地における看護に関する研究、家族看護に関する研究、異文化看護に関する研究
地域と暮らしと健康に関する研究
保健事業の評価に関する研究、保健事業とヘルスリテラシーに関する研究、介護予防に関する研究
地域看護・公衆衛生看護活動の評価に関する研究、行動変容・地域ケアシステム・介護予防・地域包括支援に関する研究、保健指導能力の育成・評価に関する研究
乳幼児をもつ母親の育児支援に関する研究、難病疾患の在宅療養支援に関する研究、地域における防災・減災活動に関する研究
地域特性を踏まえた子育て支援に関する研究、保健活動に関する研究
慢性疾患をもつ療養者と家族の看護に関する研究、要介護者と家族介護者の在宅ケアに関する研究
在宅療養者と同居する家族介護者の健康支援に関する研究
障害児とその保護者への支援方法の構築に関する研究、重症心身障害児のレスパイト施設の看護師の介護者への援助方法に関する研究、子育て期にある在宅がん終末期療養者に対する訪問看護師による支援
精神科訪問看護に関する研究、地域における専門職間の連携に関する研究
長期入院精神障がい者の地域移行支援に関する研究、精神科病院におけるインシデントに関する研究、精神障がい者の就労支援を目指した園芸プログラムに関する基礎的研究
長期入院を経験した精神障害者に関する研究、精神科看護の教育に関する研究
自閉症スペクトラム障害患者・患児への支援に関する研究
認知機能障害への介入とその効果測定、精神疾患患者における地域移行支援推進のための研究、介護予防教室での効果測定
看護師のキャリア支援に関する研究、看護教育に関する研究
在宅看護に関する研究、認知症看護に関する研究

2.2　特任教員等紹介

職　　位	氏　　名	担　　当	任　　期
特任教授	高 山　成 子	老年看護学	平成28年 4月 1日～ 平成29年 3月31日
特任准教授	徳田　真由美	附属看護キャリア支援センター	平成28年 4月 1日～ 平成29年 3月31日
特任講師	嶋田　由美子	附属看護キャリア支援センター	平成28年 4月 1日～ 平成29年 3月31日
特任助教	北 山　礼 子	老年看護学	平成28年 4月 1日～ 平成29年 3月31日
特任助手	瀧 澤　理 穂	北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン	平成28年 4月 1日～ 平成29年 3月31日
臨時講師	小清水　明子	附属看護キャリア支援センター	平成28年 4月 1日～ 平成29年 3月31日
臨時助手	本 部　由 梨	小児看護学	平成28年 4月 1日～ 平成28年 8月31日

2.3　教員組織構成（平成29年3月現在）

2.3.1　所属領域・講座と職位構成

単位（人）

学部・センター	講座	計	教員	職位構成				
				教授	准教授	講師	助教	助手
人間科学領域		6(0)	6(0)	4(0)	2(0)			
看護専門領域	健康科学	5(2)	5(2)	4(2)		1(0)		
	基礎看護学	8(8)	6(6)	1(1)	2(2)	1(1)	2(2)	2(2)
	母性・小児看護学	8(8)	6(6)	2(2)	1(1)	2(2)	1(1)	2(2)
	成人・老年看護学	12(11)	10(10)	3(3)	2(2)	1(1)	4(4)	2(1)
	地域・在宅・精神看護学	14(13)	14(13)	2(2)	5(5)	1(1)	6(5)	
附属看護キャリア支援センター		1(1)	1(1)		1(1)			
計		54(43)	48(38)	16(10)	13(11)	6(5)	13(12)	6 (5)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.2　職位別年齢構成

単位（人）

職位	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
教　授	16 (10)			1	8	6	1
准教授	13 (11)		1	3	7	2	
講　師	6 (5)			4	2		
助　教	13 (12)		4	9			
教　員	48 (38)		5	17	17	8	1
助　手	6 (5)	2	3	1			
計	54 (43)	2	8	18	17	8	1

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.3　大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員

単位（人）

課程	計	研究指導教員	研究指導補助教員
博士前期課程	25(16)	15(15)	10(1)
博士後期課程	15(15)	8(8)	7(7)

（ ）の数字は内数であり教授の数を示す

2.3.4　博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位（人）

職位	計	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
研究指導教員	15 (10)	1	7	6	1
研究指導補助教員	10 (8)	3	7		
計	25 (18)	4	14	6	1

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2.3.5　博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位（人）

職位	計	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
研究指導教員	8 (8)	1	4	2	1
研究指導補助教員	7 (2)		3	4	
計	15 (10)	1	7	6	1

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2.4　職員紹介（平成29年3月現在）

事務局長	出村邦夫

＜総　務　課＞

総務課長	松田敏広
専門員	澤本保子
専門員	細川智恵
主査	新田嘉一
主任主事	小林一生
主事	田淵幸幾
非常勤嘱託	岸恭子
事務員	山口礼
事務員	架谷眞由美

＜教務学生課＞

教務学生課長	寺訳義人
課長補佐	塚本晃弘
専門員	納橋雅代
専門員	山岸吉輝
専門員	林信隆
非常勤嘱託	井上みなみ
事務員	西野恵理

＜附属地域ケア総合センター＞

センター長	(兼)武山雅志
課長補佐	(兼)塚本晃弘

＜附属図書館＞

館長	(兼)西村真実子
主幹	山本晃暢
非常勤嘱託(司書)	山村徹
非常勤嘱託(司書)	山田美花

＜附属看護キャリア支援センター＞

センター長	(兼)丸岡直子
非常勤嘱託	片山幸美

3. 中期計画

3.1　第1期中期計画（平成23年度～28年度）における平成28年度計画と実績

3.1.1　平成28年度計画の概略（石川県公立大学法人　平成28年度計画　概要版より抜粋）

■平成２８年度は、引き続き「学生満足度の高い教育の提供」「地域貢献活動の充実」「学生確保に向けた広報活動の充実」「弾力的・機動的な法人運営」の４つを柱に掲げ、業務に取り組む。
■平成２８年度は、第１期中期計画（６年間）の最終年度であり、着実に中期計画を達成できるよう当計画を実行するとともに、次期中期計画に向けた取り組みについても準備を進める。

看護大学

今後の中長期的な将来構想の策定

・近隣に看護系大学が増加しており、大学間競争に打ち勝つための更なる魅力向上策や高齢化社会の進展などこれからの時代に即した看護教育のあり方を検討し、将来構想を策定する。
・看護キャリア支援センターの事業の一環として、平成２９年度からの認知症看護認定看護師教育課程設置に向けて、日本看護協会への認可申請や受講生募集等の開講準備を進める。

「地方創生」「地域貢献」に向けた取り組み

・かほく市をはじめとした県内市町との連携のもと、教職員・学生が一体となって地域のニーズにこたえる教育研究や地域活動を行い、学生の社会人基礎力を育成するとともに研究成果を地域に還元する。また、これらの活動を通じて、学生の地域への理解を深めながら関わりを強化し、地元定着を図る。
・ＣＯＣ+ ※参加大学として、奥能登を始めとする各自治体と連携し、地域における学生のインターンシップを介して、地域活性化や地元定着を図る。
※地（知）の拠点大学による地方創生推進事業

学習支援の充実

学生が大学教育へ早期に適応できるよう、アカデミックリテラシー※向上の取り組みを充実させるとともに、生活相談や修学支援情報の周知、図書館による学習支援等、初学年の学習支援を拡充する。
※「調べる」「書く」「意見を述べる」等の大学での学習に必要な基礎的能力

学外組織との連携強化

臨床現場のニーズに合った人材育成に資するため、医療機関等の職員が集まる実習指導者会議や北陸三県看護部長懇談会等を通して情報交換を行い、現場のニーズを把握するとともに、行政・保健所・医療機関等との連携強化を図る。

自己点検評価の実施

認証評価機関による７年ごとの評価だけではなく、社会貢献活動や教育研究活動を含めた大学全体の活動を２年ごとに自己点検するための評価報告書を作成し、外部評価者を交えてこれまでの成果と今後の改善点を検討する。

3.1.2　平成28年度計画の実績の概略

（石川県公立大学法人　平成28年度業務実績報告書の概要より抜粋）

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1　学部課程の充実

（1）サービス・ラーニングの推進

地域で生活する人との関わりを通じて、地域の暮らしや文化等の理解を深めるとともに社会人基礎力を育成するため、能登町と連携し、民泊を取り入れたフィールド実習を実施した。また、かほく市や津幡町と連携した健康増進活動を通して、学生が積極的に地域住民との交流を行った。

（2）国際交流の推進

米国ワシントン大学での看護研修に加え、文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」の一環として、タイのチェンマイ大学での看護研修を実施し、学生が異文化における医療保健福祉システムや看護師の役割等について理解を深めた。

（3）学修支援の充実

学生が大学教育へ早期に適応できるよう、初学年学修支援の一環として、アカデミック・リテラシー向上に取り組むとともに、新たにラーニング・コモンズを設置して学修環境を整備した。

2　大学院課程の充実

（1）高度な看護教育の提供

米国ノースカロライナ大学教授を招聘し、特別講演会の開催や大学院生等に対する指導を行うとともに、「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」事業において、がん看護事例検討会に先進医療機関のがん看護専門看護師を招いて、最新情報や知見を提供した。

（2）臨床現場との連携強化

専門看護師（ＣＮＳ）等の実践能力向上に向け、医療機関等の職員が集まる「大学院教育懇談会」等を通して情報交換を行い、臨床現場におけるニーズを把握するとともに臨地実習の充実を図った。

3　地域貢献及び国際貢献の推進

（1）地域貢献事業の推進

看護キャリア支援センターにおいて、「感染管理認定看護師教育課程」に加え、「認定看護管理者教育課程（サードレベル）」を新たに開講し、看護職者のキャリア形成支援を行った。また、地域ケア総合センターにおいて、看護実践力を向上させるための各種事例検討会を開催し、地域の看護人材育成に努めた。

（2）国際貢献事業の推進

ＪＩＣＡと連携して日系研修及び青年研修を実施し、海外研修員の受け入れを行った。（ブラジル１名、パラグアイ１名、カンボジア15名）

項目別評価の状況

項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
教育	7	55	0	0	62
研究	1	10	0	0	11
地域貢献等	2	13	0	0	15
計	10	78	0	0	88

※Ⅳ…年度計画を上回って実施している。　Ⅲ…年度計画を順調に実施している。
Ⅱ…年度計画を十分には実施していない。Ⅰ…年度計画を実施していない。

業務運営の改善・効率化に関する目標

1　次期中期計画の策定

第１期中期計画の最終年度であるため、在学生・卒業生・高校生等へのアンケート調査、企業へのヒアリング調査及び経営分析を実施し、大学の将来を見据えて第２期中期計画を策定した。

2　大学間連携等の推進

・看護大学・県立大学連携強化

教職科目や外部委員において、大学間で教員の相互派遣を継続して実施した。

また、両大学の合同研究発表会及び教育方法の改善に関する合同 FD セミナーを開催することで、教育・研究面で交流を行った。

3　社会・経済情勢の変化を見据えた教育研究組織の点検

医療環境等の変化を見据えて、学部カリキュラム検討班、大学院カリキュラム検討班、教員組織検討班に分かれて検討を行い、看護系講座組織や大学院構成の見直しに着手した。

財務内容の改善に関する目標

1　外部資金の獲得

積極的に外部資金の獲得に努めた。

2　志願者の増加に向けた取り組み

受験生の更なる取り込みに向け、推薦入試に受験生を出している高校へ訪問説明を行うとともに、高校からの申し込みに応じて模擬授業や大学訪問を受け入れるなど、積極的に広報活動を行った。

北陸新幹線開通を踏まえ、長野県で新聞広告等の広報活動を実施するとともに、認知度向上の観点から、一般県民を対象とした公開セミナーを開催し、広く大学の研究成果を発信した。

3　施設・設備の定期的な点検

良好な教育研究環境の維持のため、施設・設備の定期点検を行うとともに、空調設備等の更新を実施した。

自己点検評価及び当該状況に係る情報提供に関する目標

1　自己点検評価・認証評価機関が行う大学評価

認証評価機関による７年ごとの評価だけではなく、社会貢献活動や教育研究活動を含めた大学全体の活動を２年ごとに自己点検することとし、新たに大学独自の自己点検評価報告書の作成に着手した。

その他業務運営に関する目標

1　地域連携の推進

メールマガジン「石川県立看護大学ニュースレター」の配信を開始し、地域住民や医療従事者に大学の事業案内を行うとともに、今後、医療機関等のニーズ把握に活用していくこととした。また、かほく市や能登町、津幡町等で実施した学生参加プログラム（体力測定、防災訓練等）に積極的に参画し、地域住民との交流を図った。

2　法令遵守の強化

(1) 個人情報保護の強化

マイナンバー制度の開始やサイバー攻撃の脅威増大に伴い、特定個人情報保護規程等を遵守するとともに、セキュリティ対策の点検やネットワーク機器の更新によりセキュリティ機能の強化を図り、個人情報保護に努めた。

(2) ハラスメント防止の促進

ハラスメント委員会を開催し、規定に従い適切に対応し、ハラスメント防止に努めた。

4. 看護学部看護学科

4.1　理念・目標

4.1.1　教育理念

人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する。

4.1.2　教育目標

1. 豊かな人間性と倫理観を備えた人材の育成
   人間の生命、生活を尊重し、人の痛みや苦しみを共に分かち合える温かい心、豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育成する。
2. 看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材の育成
   看護専門職として必要な知識、技術を修得し、人々の健康と生活に関わる諸問題に対して、科学的な根拠に基づく判断力と問題解決能力及び看護学研究に関する思考力と創造性を涵養し、看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材を育成する。
3. 調整・管理能力を有する人材の育成
   保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協力して行われる看護実践を通して、調整・管理能力を有する人材を育成する。
4. 国際社会でも活躍できる人材の育成
   国際的な視野から、健康問題や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる人材を育成する。
5. 将来の看護リーダーの役割を担う人材の育成
   社会状況の変化を踏まえ、看護が担うべき役割を展望し発展させるため、自らの研鑽を重ねながら、その資質向上に努め、看護学の発展に寄与し、将来の看護リーダーとなることができる人材を育成する。

4.1.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験として、一般入試（「前期日程」「後期日程」）、推薦入試、社会人入試に加え、3年次への編入学試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 大学で学ぶ上で必要とされる基礎的学力を身につけている人
2. 主体的にものごとを考え、行動できる人
3. 自らの意見を表現でき、他者と積極的なコミュニケーションができる人
4. 看護分野の発展に貢献することを志す人

4.1.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

教育理念・教育目標を受け、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。

1. 看護職として必要な豊かな人間性と倫理観を育成するために、人間科学領域の科目と看護専門領域の科目を統合して学べるように、両者の科目を並行して配置する。
2. 看護職として必要な知識・技術およびそれらの科学的根拠を学ぶことができるように、看護専門領域の科目を健康・疾病・障害の理解、看護の基本、看護援助の方法、看護の実践、看護の発展の順に配置する。
3. 多様な場での多様な対象の健康レベルにあわせた看護実践能力を身に付けるために、人間の成長・発達段階別、健康の維持増進期から終末期にいたる健康段階別、施設内・地域・在宅という看護の提供場所別の看護を段階的に学べるように設定する。
4. 個人・家族・組織・地域の健康課題を解決する能力を育むために、大学の位置する石川県、能登地域を題材にして、文化や自然・暮らしを学ぶ科目、地域の保健・医療・福祉を学ぶ科目、地域の課題を解決しながら学ぶ科目を配置する。さらに、他の地域への応用力を養う看護専門領域の実習科目を配置する。
5. 複雑な状況に対応する能力と、多職種と連携・協働しながら看護の専門性を発揮できる能力を育むために、統合科目を設定する。
6. 将来の多様なキャリア発展の可能性を涵養するために、国際看護、看護マネージメント、政策形成に関連する科目を配置する。
7. 生涯学習能力を養うために、自学自習や討論する機会を積極的に取り入れる。

4.1.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

卒業までに所定の単位を修得し、看護の基盤を備え、個人・コミュニティ・社会の健康課題の発見と解決に貢献するために、様々な知識や技術を応用し援助する能力と、社会の要請に応じて新たな知識や技術を探求し創造していく意欲や能力を有する者に、学士（看護学）の学位を授与する。

このような能力を修得するためには、以下の学習成果をあげることが求められる。

1. 看護の対象となる人の人権を尊重する姿勢や共感的態度を通して援助関係を形成できる。
2. 人の命や暮らしを理解し、健康課題を科学的根拠に基づいて総合的にアセスメントし、課題解決に向けて適切な看護が実践できる。
3. 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。
4. 看護専門職としての価値観・専門性を生涯にわたり発展させる素地を身につける。

4.2　学部学生の入学・在学・卒業の状況

(1) 入学の状況

①入学定員・収容定員

単位（人）

入学定員	3年次編入学定員	収容定員
80	10	340

②試験実施日

	実施日
3年次編入学試験	平成28年 9月24日（土）
推薦入試・社会人入試	平成28年11月19日（土）
一般入試前期日程試験	平成29年 2月25日（土）
一般入試後期日程試験	平成29年 3月12日（日）

③受験状況等

単位（人、倍）

	募集定員 A	志願者数 B	志願倍率 B/A	受験者数 C	受験倍率 C/A	合格者数 D	実質倍率 C/D	入学者数
3年次編入学	10	24	2.4	13	1.3	9	1.4	8(7)
推薦入試	30	60	2.0	60	2.0	31	1.9	31(30)
社会人入試	若干名	4	—	4	—	1	4.0	1(1)
一般入試前期	40	118	3.0	108	2.7	44	2.5	44(40)
一般入試後期	10	216	21.6	73	7.3	10	7.3	9(9)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 在学の状況（平成29年3月1日現在）

単位（人）

学　　年		1年次	2年次	3年次	4年次	計
在学者数	男性	5	3	6(0)	3(0)	17(0)
	女性	78	80	80(5)	95(6)	333(11)
	計	83	83	86(5)	98(6)	350(11)

（ ）の数字は内数であり編入学者の数を示す

(3) 卒業の状況

①卒業者数　第14期生

単位（人）

区　分	計	入学年度別卒業者数		
		平成24年度以前 入　学　者	平成25年度 入　学　者	平成27年度 編入学者
卒業者数	91(89)	8(7)	77(76)	6(6)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

②卒業後の進路状況　第14期生　（平成29年3月31日現在）

単位（人）

区　分		県内		県外		合計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
就　職	看護師	47	51.6%	27	29.7%	74　(73)	81.3%
	国公立病院（独立行政法人を含む）	39	42.9%	12	13.2%	51　(50)	56.0%
	上記以外の病院	8	8.8%	15	16.5%	23　(23)	25.3%
	保健師	1	1.1%	2	2.2%	3　(2)	3.3%
	その他	1	1.1%	0	0.0%	1　(1)	1.1%
	計	49	53.8%	29	31.9%	78　(76)	85.7%
進　学	大学院博士前期課程	4	4.4%	0	0.0%	4　(4)	4.4%
	養護教諭特別別科	5	5.5%	1	1.1%	6　(6)	6.6%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0　(0)	0.0%
	計	9	9.9%	1	1.1%	10　(10)	11.0%
未　定		2	2.2%	1	1.1%	3　(3)	3.3%
合　計		60	65.9%	31	34.1%	91　(89)	100.0%

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す；割合は、総数91人を100％としたもの

③主な就職先　第14期生　（平成29年3月31日現在）

県　　内	県　　外
石川県立中央病院	富山県立中央病院
金沢大学附属病院	富山大学附属病院
金沢医科大学病院	国立病院機構　敦賀医療センター
国立病院機構　金沢医療センター	高山赤十字病院
金沢赤十字病院	信州大学医学部附属病院
公立松任石川中央病院	国立国際医療研究センター
公立能登総合病院	がん研有明病院
浅ノ川総合病院	NTT東日本関東病院
国立病院機構　七尾病院	京都大学医学部附属病院
金沢こども医療福祉センター	神戸市立医療センター中央市民病院
加賀市医療センター	富山県黒部市、入善町保健師　など
公立羽咋病院	
石川県保健師　など	

4.3　教育・履修体制

本学の教育は、人間科学領域の5学科目群と看護専門領域の5講座に属する教員が担当します。

領域	学科目群又は講座	科目群	教育内容
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	自己の健康・体力づくりを生涯にわたり実践していくための理論と方法を修得させるとともに、看護の対象者の健康獲得を目指すための知識と技術について教授する。
	人文科学系群	哲学	哲学・心理学的な思考を通して、人間の本質と存在の意義について理解を深めるとともに、看護識者として悩める人を理解し援助するための知識と方法、態度について教授する。
		心理学	
	社会科学系群		人々の生活を支える社会のしくみと人間と社会環境との関わりについて理解を深めさせるとともに、社会科学的視点から保健・医療・福祉・看護が抱える諸問題について教授する。
	自然科学系群	人間工学	人々の生活と環境との関わりや人間と環境との共生について理解を深めさせるとともに、人間の日常生活行動や看護現場での諸問題について人間工学的側面から教授する。
	国際・情報科学系群	英語	国際的な視野から健康や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる思考力と語学力を教授する。また、高度情報社会に対応できる基礎力と看護情報の統計処理能力を教授する。
		情報科学	
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	人間の生命現象や身体の構造・機能と心身の健康の保持・増進、疾病・障害の発症と回復のしくみに関する理論と知識、技術を科学的根拠に基づいて系統的に教授する。
		保健・治療学	
	基礎看護学講座	基礎看護学	「看護とはなにか」という看護の概念・本質と看護の基本となる理論と知識・技術、及び看護識者として必要な態度について教授する。
	母性・小児看護学講座	母性看護学	ライフサイクルのうち、妊娠・分娩・出産から思春期にわたる母子とその家族に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		小児看護学	
	成人・老年看護学講座	成人看護学	ライフサイクルのうち、成人期から老年期にわたる対象に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		老年看護学	
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	地域で生活する個人・家族・特定集団・地域住民全体を対象とした地域看護の特徴を踏まえ、活動の場(学校、職場、在宅、地域全体）とその対象の特性に応じた看護援助、及びライフサイクル各期のメンタルヘルスの課題や精神的な健康問題をもつ対象への看護援助に必要な知識や理論と実践の方法を教授する。
		在宅看護学	
		精神看護学	

4.4　委員会活動

4.4.1　常設委員会

4.4.1.1　教務委員会

委 員 長：村井 嘉子　教授
委　　員：長谷川教授（学生部長）、林教授、垣花准教授、中田准教授、木森准教授、
山岸准教授、北山准教授、織田准教授、谷本准教授、金谷講師、中道講師、
寺訳教務学生課長
委員補助：曽山助教、大西助手
事 務 局：山岸専門員
活動内容：

1. フィールド実習において、課題解決型学習（学生が地域に出て自ら課題を発見し、解決策を提案すること）を継続することで、地域に関する理解を深めるとともに広い視野と人間性の育成を図った。

　フィールドワークを通して地域の人々の暮らしや仕事、生活文化、環境を理解する事と共に、スタディ・スキルをゼミの事前学習や現地実習で活用することを意識した結果、実習先での聞き取り調査や質問紙調査を実施したグループが増加した。これによって地域の暮らしを理解するための基礎力を使って思考力を鍛え、自らのフィールドワークを通して実践力を育み、自らの学習課題を明らかにすることができたと考えられる。

2.「情報リテラシー」科目に初年次教育の試みを継続した。

　学生のレポート添削や他授業との関連においてレポートに記載形態、論述内容において発展的成果が見られた。また、学生からは大学生として重要で基本的な事柄が学習できたと言う反応が聞かれた。

3. 様々な科目や活動（フィールド実習、表現学、看護学演習、看護学実習、卒業研究等）において、自身の学びをまとめ、それを他者に伝え、その反応や評価を得て改善していくことで、プレゼンテーション能力の向上の試みを継続した。

　フィールド実習報告会は6月21日、ヒューマンヘルスケア報告会は4月5日及び6月21日に実施した。フィールド実習報告会では、各ゼミでに意見交換によって浮かび上がった疑問点について自分で調べ、それを基に実習を通して明らかにすべき内容を実習計画に掲げた。当初の疑問や課題、その結果を発表会で報告し他のグループの仲間より意見を聞いた。また、ヒューマンヘルスケアにおける発表では、海外研修、学童期において学習に課題のある子ども達への学習支援を通して、自分自身の学びや経験、人との関わりの体験の蓄積によって学びを深めたこと、学生個々の取り組みを通して当初の課題から状況理解を深め、自己成長と学びに繋がった報告が多数あった。

4. 異学年の学生グループによるサークル活動や地域ケア総合センター等における実践活動を

通して、自主的な問題解決能力や行動力を育むことに努めた。

宝達志水町特定健診・がん検診での骨密度測定（6月18日）、宝達志水町健康づくり推進員研修会での骨密度測定（8月23日）196名参加、かほく市民体力テスト（10月19・20日）に学生を引率し、地域住民との交流を行いながら、地域の人々の健康チェック、健康への動機付け関わりを行っている。保健医療職として人との関わり方、住民の多様性を学び、考える機会となっている（大学HPで公開していている）。

5. 各実習科目において市町・保健所・医療機関等との実習指導者と連絡・協働し、看護現場の実態に即した教育を実践する。また、引き続き実習指導者会議を開催した。

保健師教育課程における地域看護学実習について、実習指導者との意見交換を平成28年11月28日県庁会場、及び能登空港会場の2ヶ所において実施した。県庁会場では9施設10名、能登空港会場では5施設5名が出席した。また､産業看護学実習報告会では5施設6名の出席があった。教育方法として地域と職域の関連について具体的なモデル事例を提示し、その展開を学習する、そのモデル事例について考察する視点について教授する等に取り組んだ。この取り組みによって考察内容が深まる傾向が見られた（単年の取り組みでは成果判定は難しい）ことより、今後も継続する。

6. 臨床教授等の任命を継続し、臨床実習をさらに充実させるとともに、看護現場の実態に即した教育を行った。

本学教員と臨床教授等称号付与者との意見交換会を2月21日に実施した。昨年度の意見交換会で出された現場の課題に対するその後に取り組みについて意見交換を行った。また、本年は同日に千葉大学教育センター長　舟島なをみ教授を招聘して『看護学実習再考』をテーマに教育講演会を行った。Ⅰ部意見交換会には77名、Ⅱ部教育講演会には95名が参加した。

7. 英語教育充実に取り組んだ。

授業の中でTOEIC公開テストの予告、また定期・随時試験においては音声を重視した試験を取り入れている。今年度の報告のあったTOEIC受験者は、昨年同様5名であった。報告はないが、他にも受験者はいることが推測される。TOEIC受験料が5000円であることが、受験において高いハードルとも考えられる。学生のTOFELやTOEIC等受験支援として、授業外で英語の英語試写会、TOEICのミニ模試等を検討している。

8. 学内カリキュラム改訂班による会議を充実させ、カリキュラム改訂の基本方針や現行カリキュラムの課題抽出および対応策を検討し、新たなカリキュラム策定作業を実施した。

開学後16年を経過して、当時は斬新であった教授内容（科目）がスタンダードとなり、経年的に教授時期が早くなることで科目の学年配当の時期、それらの内容について修正が必要になっている。また、科目間の重複が一部みられること、本学の学生気質を考慮することで、科目の配当年次の再検討、統合実習の在り方、教授内容について修正が必要であることが明らかになった。現在、次年度の早い時期をめざして、重複内容、検討すべき内容と科目を抽出する作業を継続している。

9. 今年度入学生より成績評価方法（GPA制度）を導入し、学生個人の成績、学年集団の学修状況を客観的に把握できるようになった。次年度も継続し学内全体の教育評価につなげる予定である。

4.4.1.2　学生委員会

委 員 長：長谷川 昇　教授（学生部長）
委　　員：松原教授、木森准教授、岩城准教授、織田准教授、市丸講師、米田講師、
　　寺訳教務学生課長
委員補助：子吉助教、三輪助手、渡辺助手
事 務 局：納橋専門員
活動内容：

1. 学修意欲の向上・学修支援の充実
   1）学生表彰：H27年度は、開学記念式典と卒業式において、それぞれ団体と個人を対象とした学長表彰を行った。H28年度も引き続き、開学記念式典では、いきいき交流サークル興津チームの地域資源を生かしたむらづくり活動に対して学長表彰を行った。卒業式では、上述した活動の中心的役割を果たした2名を表彰した。H29年度も同様に、成績優秀者や社会貢献などにおいて模範となった団体や個人を表彰することにより、勉学や地域活動などに対する意欲の向上を図る。
   2）学修環境の整備:H27年度は、入学の動機、学生生活、学修環境に関するニーズ調査を行った。H28年度は、同時に、Wi-Fi環境の必要性とPC環境に対するニーズ調査を行った。その結果に基づいて、大講義室、食堂、図書館にWi-Fi環境を整備し、食堂の喫茶コーナー前にラーニングコモンズの設置を行った。H29年度は、これらの利用方法について、さらに検討していく予定である。

      大学生活についてのアンケート結果から、学年が進むに従って大学祭への参加率が低下していることが明らかとなった。大学祭の運営には、学生の企画・立案に対する助言が必要であり、H29年度も学生委員会として引き続き支援を行う。

      奨学金の貸与率が、1,2年次は50%を超え、3,4年次は40%程度であった。H29年度は、給付型奨学金や授業料免除などの情報収集および拡充に向けた具体的な方策を検討する。

      H27年度に引き続き、自治会との座談会を行った。その結果、授業準備、試験日程の早朝掲示、食堂・売店などの整備について要望が出された。これらの要望は、委員会で検討を重ね、改善案などを自治会に提案していく予定である。

      学生相談に関しては、学生相談専門部会で新たな支援を構築予定である。

2. 自学自習能力と自立的な判断力・行動力の育成
   1）異学年・卒業生との交流：H27年度は、新入生歓迎会、学習ガイダンスを通し、異学年交流が実施されてきた。H28年度も引き続き、3年生が主体となり、4年次の臨地実習に関するアドバイスを聞く目的で、学生セミナーが行われた。卒業生との交流では、開学記念式典において「輝く先輩の話を聞いて進路を考えよう」と題して、全体交流会を実施した。看護師管理職、専門看護師、認定看護師、助産師、保健師、大学院生という立場を生かし、

それぞれ1期から8期の卒業生に10分程度の講演をお願いし、質疑応答を行った。3月16日の学生セミナーでは、地域創生委員会と合同で能登、白山、南加賀で活躍している卒業生との交流を行った。H29年度も引き続き、学生が早期にキャリアイメージを形成できるよう、全学生を対象とした学生セミナー等を開催し、卒業生等との交流の機会を設ける。

2）自治会・課外活動への助言：H27年度は、自治会・課外活動・大学祭において学生の自主性を重視しながら自律的に意思決定するように促してきた。H28年度も、引き続き方針を踏襲し、10月29日（土）と30日（日）に、「スマイリンピック～笑顔がつなぐ地域と学生の心～」と題して大学祭が行われた。準備段階からの支援として、学生委員の中の自治会・サークル活動担当教員が中心となって、大学祭の企画・立案の会議に同席して助言を行った。さらに、大学祭の充実をはかるため、教職員による企画を募集したところ9件の応募を得た。

3．幅広い教養を深める機会の提供

1）石川コンソーシアムの活用：H27年度は、コンソーシアム石川の活動を紹介し、参加を促した。H28年度も引き続き、入学式ガイダンスや、各学年のガイダンスにおいて、シティカレッジでの単位取得やグローカル人材育成プログラムについて参加を促した。ステップ1の民泊型フィールド実習に本学学生18名と県立大学大学院生が1名参加した。ステップ3のタイランド国立チェンマイ大学研修（8月）に、本学学生7名と金沢大学学生2名が参加した。本学教員が講師を務める、シティカレッジでの単位取得者は、前期1名、後期5名であった。

2）外部講師による出前講座：ワクワクコミュニケーション講座、自殺予防ゲートキーパー研修、警察による自己防衛研修、DV予防研修、賢い消費者をめざしてなどの研修を行い、幅広い教養の習得と安全な学生生活が送れるよう支援した。

4.4.1.2.1　学生相談専門部会

部 会 長：長谷川 昇　教授（学生部長）

部 会 員：武山教授（附属地域ケア総合センター長）、川端助教、大江助教、三輪助手、
寺訳教務学生課長、井上嘱託

活動内容：

1．学生支援体制の整備：

1）学生への周知：H27年度から、リーフレットを活用して学生への周知を行ってきた。H28年度も引き続き、リーフレットを活用した学生への周知を目的とした。具体的には、4月のガイダンスで、「学生支援教職員相談窓口」のリーフレットを学生に配布した。学生委員会委員、各学年担任・副担任、学生相談部会員、ハラスメント相談員の研究室と内線番号、保健室担当者と事務担当者の部屋番号と内線番号を記載し、学生のメンタル面と健康管理を強化した。入学時には、保護者に対しても本体制について説明した。

2）学生の相談状況の把握：H27年度から、保健室を通じた健康管理体制の強化を行ってきた。H28年度も引き続き、保健室教員には学生相談専門部会に所属してもらい、修学上課題のある学生の保健室での相談状況について把握を試み、学生相談専門部会員間での情報共有を行った。また、学生相談専門部会員には、実習担当教員も含まれており、臨地実習

に課題を持つ学生を把握し、情報を共有した。さらに、必要に応じて、学生委員会で修学上の課題を抱える学生の情報共有も行った。

3) オフィスアワー:H27年度に引き続き、H28年度も学生相談専門部会員が、オフィスアワーの時間を提示し、学生のメンタル面での相談に応じる体制を整えて周知した。しかし、実際の相談件数は0件であった。そこで、富山大学での学生支援状況を視察し、H29年度から新しい2つの学生支援体制を構築予定である。1つは、コミュニケーション面で不安を抱える学生を対象としたランチラボを行う予定である（詳細な実施要領は検討中)。もう1つは、多重課題の不得意な学生を対象に、スケジュール管理を助言し、講義・実習に対して柔軟に対応できるための支援を行う予定である。さらに、障がいをもつ学生への合理的配慮も考慮し、月1回程度ではあるが専門家に来学を依頼し、支援体制を充実させることも計画中である。また、学生相談に関する研修への教職員の参加を促し、学内の学生支援体制を整備してきたい。

4.4.1.2.2　進路支援専門部会

部 会 長：織田 初江　准教授

部 会 員：丸岡教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長)、岩城准教授、桜井准教授、米田講師、金谷講師、中道講師、川村講師

活動内容：

1. 進路支援

1) 4年生に対する進路支援活動は、H27年度までの成果を踏まえて、8名のアドバイザー教員による担当制で行った。主たる支援内容は、進路決定への助言や情報提供、履歴書の書き方や面接上の注意点、小論文等の就職・進学等への助言・指導である。結果、91名全員が就職先の内定や進学先の合格を得た。

2) 同窓会との連携により、卒業生の交流会を開催した。新4年生に対して、具体的な就職・進学先の情報を生の体験談とともに得て、希望進路の具体化を助けるように支援した。

3) H27年度までは、2,3年生への進路支援活動としては、クラスアワーなどを利用して、保健師などの公務員試験を必要とする進路希望者への試験対策などについて指導を行っていた。しかし、近年、看護師という職業が自分の進路として実感しにくくなってきているためか、2,3年生になってから進路に悩み、休学や退学をする学生が少数ではあるが、出てき始めたことに鑑み、これまでの公務員試験対策の説明に加えて、2,3年生にも早期からのインターンシップ等への参加を促し、将来の職業像を描く助けとなるように、情報の入手方法や申し込み・参加時の注意事項などについて説明を行った。

4) 低学年生へのインターンシップの県内受け入れ病院を開拓する可能性を探るため、H30年度の求人に来学された医療機関に相談を開始した。現在、1医療機関から受け入れに前向きな回答を得ている。H29年度は、県内医療機関との連携を強化し、低学年生への進路支援体制の強化を図っていく予定である。

2. 国家試験対策

1) 学生の希望を基に、夏期休暇期間に補講を行い、学生の基礎的な理解力の強化を図った。

2) H27年度までは、個別の模試結果を教員が確認することができず、学生からの報告結果に

ゆだねられていたが、H28年度は、学生の同意のもとに、8名のアドバイザーが担当学生の学内の模擬試験結果等を基に、得点の伸び率等を確認しながら、グループおよび個別指導を行った。その結果、看護師国家試験の合格率は97.6%（全国平均94.3%）、保健師国家試験は91.2%（全国平均94.5%）であった。看護師試験の不合格者に対しては、引き続き、進路アドバイザーおよび教務学生課が相談に乗りつつ支援を図る予定である。

3) H29年度に向けて、学生への試験対策への動機づけの強化と、勉強方法へのヒントを得る機会を拡大するため、試験対策業者による無料出張講義の導入の是非について、検討を行った。その結果、H29年度の4月ガイダンス期間中に業者による出張講義を計画し、実施予定である。

4) H28年度は、保健師国家試験の合格率が全国平均を下回る結果となったが、不合格となった学生の5割は、1月時点での看護師模擬試験の得点率が伸びず、看護師資格の取得に絞ったため、保健師国家試験の合格に至らなかったと考えられる。また、近年の保健師教育は、多くの大学等で選択制が導入されており、受験者自体が事前に成績優秀者に絞り込まれている傾向が高く、本学のように全学生に保健師資格までの取得を目指している大学においては、相対的に全国平均よりも合格率が低くなりやすい。多重課題に対して、優先順位を適切に判断し、計画的に学習する習慣を身につけていくように、学生への支援方法が今後の課題である。

4.4.1.3　研究推進委員会

委 員 長：大木 秀一　教授
委　　員：松原教授、村井教授、桜井准教授、林講師、米田講師
委員補助：田淵助教、千原助手
事 務 局：田淵主事
活動内容：

1. 教育・研究推進に係るフォーラムなどの開催

平成28年度は、研究フォーラムを7月と2月に開催し、学内における研究遂行状況を教員・大学院生等に紹介した。他の教員の研究発表を聞き、質疑応答を通して自身の研究を振り返り新たな着想を得る機会を提供し、研究の活性化をはかった。以下は平成28年度に本委員会が主催となり開催した学内集会である。そのすべては本学Webサイトに掲載されている。

1) ウエルカムセッション

1回目開催日時　：平成28年5月 9日(月)　17：30 ～ 18：30　参加者：45名
2回目開催日時　：平成28年9月23日(金)　10：40 ～ 11：15　参加者：46名
場　　所　：1回目　管理棟1階　地域ケア総合センター研修室
　　2回目　教育研究棟1階　大講義室
内容および講師　：
1回目：
「生殖中枢制御機構の調節に関する研究」
　市丸徹講師（健康科学）
「産婦人科女性医師が働きやすい職場づくりを目指した
勤務環境改善の推進に関する研究」

濵耕子教授（母性看護学）

2回目：

「療養者を同居して介護する家族介護者の健康支援－睡眠・ストレス・血圧管理－」

桜井志保美准教授（在宅看護学）

2）研究フォーラム

1回目開催日時　：平成28年6月22日(水)　16：55 ～ 18：00　参加者：31名

2回目開催日時　：平成29年2月23日(木)　16：30 ～ 18：00　参加者：32名

場　　所　：1回目　教育研究棟1階　大講義室

2回目　教育研究棟2階　中講義室4

内容および講師　：

1回目：

「抗酸化物質の機能性」

長谷川昇教授（健康科学）

「精神科病院入院患者の自傷･自殺企図に関する研究 - インシデントレポート分析より-」

谷本千恵准教授（精神看護学）

2回目：

「糖尿病の予防及び自己管理に係る尺度開発の取り組み」

織田初江准教授（地域看護学）

「看護学生のコミュニケーション・スキルの特徴と変化」

武山雅志教授（人間科学）

3）研究サポート集会

対　象　者　：学内教員および大学院生

1回目開催日時　：平成28年6月22日(水)　16：30 ～ 16：55　参加者：31名

2回目開催日時　：平成29年9月23日(金)　11：15 ～ 12：00　参加者：46名

場　　所　：1回目　教育研究棟1階　大講義室

2回目　教育研究棟1階　大講義室

内容および講師　：

1回目：石川看護雑誌への論文投稿について　　小林宏光教授（人間科学）

2回目：本学における科研費取得の動向　　大木秀一教授（健康科学）

科研費申請の事務手続きについて・今年の申請のポイント

田淵幸幾主事（事務局総務課）

科研申請者による申請のポイントと獲得後の研究遂行について

松本智里助教（成人看護学）

4）平成27年度学内研究助成成果報告会の開催

19課題の発表がなされた。

開催日時　：平成28年7月20日（水）13:00 ～ 15:00　参加者：41名

平成28年8月 4日（木）13:00 ～ 15:00　参加者：36名

場　　所　：1回目　教育研究棟1階　大講義室

2回目　教育研究棟2階　中講義室4

5）石川県立大学との研究交流会の開催

石川県立公立大学法人2大学の学術交流を目的とした研究交流会を実施した。
開 催 日 時：平成28年8月8日（月）16:30 ～ 18:00　参加者：61名
場　　所：ホテル金沢5階　アプローズ
演題・講師：
「子どもへのグリーフケア･デスエデュケーションに関する研究
-支援者と保護者への調査結果から得た実践への課題-」
金谷雅代講師（小児看護学）
「新奇プロバイオティクス乳酸菌の探索から応用まで」
松﨑千秋先生（石川県立大学生物資源工学研究所助教）
「HIV/AIDSの検査に関する倫理的議論の変遷：海外文献の調査をもとに」
加藤穣准教授（人間科学）
「寒天由来のオリゴ糖を用いた大腸がん予防に関する研究」
東村泰希先生（石川県立大学食品科学助教）

2. 大学全体の業績評価

過去5年間にわたる科研費の取得状況、業績（学術論文、学会発表等）数の推移を調べ、その課題点を検討した。科研費の申請割合は増加したものの、助手・助教の採択割合が低下し、また獲得金額も減少傾向を示した。業績数は年度により増減はあるものの、一定範囲内で推移した。

3. 次年度以降の向けた課題

1）科学研究費補助金や受託研究費をはじめとする外部研究資金に関する情報を収集するとともに外部資金獲得に向けて積極的な応募を奨励し、学内外資源を活用した支援体制を整備する。具体的には研究サポート集会において専門業者などによる研修会を検討する。また、科研費申請書の添削指導に向けた準備をする。
2）教員個々の研究活動・成果の公表を阻害する要因を把握し、その対策を検討する。若手教員の研究時間の確保のため、教育と研究の両立に向けた体制整備を検討する。研究推進委員会において教員にアンケート調査を実施し、研究体制の現状と課題を把握し、教育研究審議会に提言する。
3）地域社会、行政、医療機関等の課題解決につながり、かつ成果を社会に還元できる研究プロジェクトを組織的に形成する。研究テーマの拡充を目的に他大学との学際的研究交流の可能性を検討する。

4.4.1.4　学内研究助成審査委員会

委 員 長　：大木 秀一　教授
委　　員　：小林教授、長谷川教授（学生部長）、丸岡教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長）、濵教授
事 務 局　：田淵主事
活動内容　：

本委員会は昨年度までは研究推進委員会の部会として位置づけられていたが、本年度から独

立した委員会となった。本委員会は、学内研究助成全般のあり方の検討と実際の申請書類の審査、報告書の評価方法の検討、学内研究助成に関する予算案の提案を主たる活動とする。

平成28年度は4回の委員会を開催した。その他、研究成果公表の申請がある場合は随時審査を実施した。平成28年3月に平成28年度学内研究助成（研究プロジェクト）の2次募集を行い、平成28年4月の委員会で2件の課題を採択した。平成28年12月に平成29年度学内研究助成（研究プロジェクト）の1次募集を行い、平成29年2月の委員会で16件の課題を採択した。

以上の他に、平成29年度に開催される学会に対する学会開催助成2件、平成28年度内の研究成果公表助成（海外渡航費助成9件、学術論文等掲載費助成2件）を採択した。

4.4.1.5　石川看護雑誌編集委員会

委 員 長：小林 宏光　教授
委　　員：浅見教授（学長補佐）、大木教授、牧野教授（研究科長）
委員補助：松本助教、大江助教
活動内容：

石川看護雑誌第14巻の編集を行った。総説2編、原著論文4編、研究報告5編、資料3編の計14編の論文を掲載した。本年度は投稿規定の一部変更も行った。

4.4.1.6　情報システム委員会

委 員 長：谷本 千恵　准教授
委　　員：加藤准教授、山岸准教授、市丸講師、林講師
事 務 局：小林主任主事（松田総務課長、山岸専門員）
開催頻度：随時
活動内容：

本委員会は本学情報システムの管理･運営、および本学における情報環境の改善を担当している。

1. 第1回情報システム委員会　5月26日(木)　14:40-16:00

委員会の活動方針について検討し、「最新情報システムを活用した教育方法の検討ならびに情報提供を行う」ことに決定した。委員間で最新情報システムを活用した教育方法についてフリーディスカッションを行った。

2. 第2回情報システム委員会　12月8日(木)　14:40-16:20

1) メール転送について

現状と課題を整理し、今後の対策案を情報セキュリティ委員会に提案した。

2) 外部から当学メールアドレス宛へのメール送信エラーについて

対策として開通許可登録（ホワイトリスト登録）を行った（事務局→業者（ICC））。

3) Wi-Fi利用状況について

学生の利用促進について検討した。

3. 石川県公立大学法人情報ネットワークシステム保守委託業務の作業実績報告会議への出席（委員長、事務局）

開 催 日：4月20日(水)、7月15日（金)、10月21日（金)、1月26日(木)
開催場所：石川県立大学
石川県立大学と合同で石川県公立大学法人情報ネットワークシステム保守委託業務の作業実績報告を受け、その際に法人本部・両大学・業者の間で意見交換を行った。

4. 新任教職員に対する情報システムの説明（事務局)
4月の新任教職員オリエンテーション時に学内ネットワークシステムの概要とメール設定方法についての説明を行った。

5. メールサーバー更新(9月18日)について
更新前に必要な作業について全教員への周知ならびに更新後のトラブルに対して、教員・法人本部との調整を行った（事務局、委員長)。

4.4.1.7 広報委員会

委 員 長：川島 和代　教授（学長補佐)
委　　員：武山教授（附属地域ケア総合センター長)、長谷川教授（学生部長)、
丸岡教授(学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長)､濵教授(国際交流委員長)、
西村教授（附属図書館長)、牧野教授（研究科長)、中田准教授、出村事務局長
委員補助：山﨑助教、北山特任助教（平成28年4月～平成29年3月)
三輪助手（平成28年4 ～ 9月)、梶谷助手（平成28年10月～平成29年3月)
事 務 局：塚本課長補佐
活動内容：
1. オープンキャンパス
1）第17回　平成28年度　オープンキャンパス2016の企画立案・準備・実施
夏：開催日時　平成28年　7月16日（土）10：00 ～ 14:00　参加者485名
新たに、人間機能学実習・実験室の紹介も企画に盛り込んだ。
相談コーナーは昨年に引き続き、学生主体で企画した。
秋：開催日時　平成28年10月29日（土）10：00 ～ 12:00　参加者140名
昨年同様、入試準備セミナーを実施した。
2）第18回　平成29年度　オープンキャンパスの検討
日程　夏　平成29年7月15日（土)、秋　10月28日（土）午前　開催予定

2. キャンパスネット　IPNU（大学新聞)
1）第30巻　2016.10の企画立案・編集・発行
メインテーマは新役職者（研究科長、学生部長、図書館長、地域ケア総合センター長）の紹介とし、開学記念行事や国際交流活動（MOU締結等）をトピックスとした。
2）第31巻　2017. 3の企画立案・編集・発行
メインテーマは「看護大学の新たなステージへ」（石垣学長）とし､「助産師養成課程（大学院）の新設に向けて」（濵教授）や事務局紹介をトピックスとした。

3．ホームページの充実

1）ホームページの運用・・・各委員会や事業担当者の中でHP担当を定め、随時、事業内容をHPアップに努めた。

2）新着情報コーナーの変更・・・昨年に引き続き、新着情報を見えやすい工夫を行った。

3）教員用HPの立ち上げ　武山研究室、母性・小児看護学講座、成人看護学講座

4）大学案内DVDに関するコンセプトの検討・・・ワーキンググループを立ち上げたが、作成には至らなかった。テレビ金沢による「ぶんぶんセブン」に本学の学生や教員により≪石川の大学～県立看護大学と県立大学～≫に紹介番組制作に協力した。平成28年7月5日午前7:00 ～ 7:30に放映された。

5）英文ホームページ修正の検討・・・英文HPのワーキンググループの活動を通して英文HP作成した。

4．大学案内（学部・大学院）

1）2017（学部・大学院）の企画立案・編集・発行

2）2018（学部・大学院）の企画立案・編集

主な変更点は、卒業生や大学院修了生の原稿を新たに取り入れ制作している段階である。

5．大学コンソーシアム石川

1）情報発信専門部会　第1回　平成28年5月10日（火）広報委員長出席

第2回　平成28年11月14日（月）代理出席　事務局

第3回　平成29年1月31日（火）広報委員長出席

第4回　平成29年3月8日（水）代理出席　事務局

2）事業内容

(1)広報事業：「大学コンソーシアム石川概要」、「石川の大学ガイドブック」等、発行協力

(2)石川県高大連携セミナー事業

(3)出張オープンキャンパス事業　担当講師の調整と依頼、実績は県内5校、県外5校

(4)学都石川情報発信事業

県外進学説明会

高校訪問　本学は受験生や在学生のいる高校訪問　栃木県、茨城県、神奈川県の3校

6．学生広報委員活動のサポート

1）オープンキャンパス　　学生の意見を取り入れた運営に取り組む、アンケート実施

2）ナース･ステーション(医心発行)　入学式や韓国研修を取り上げる､その後､ナース･ステーション廃刊となる

3）石川大学のガイドブック　本学の学生広報委員会の学生を起用

7．メールマガジン登録システム構築

メールマガジンへの登録を呼びかける。1月末現在74名登録

引き続き、メールマガジンの内容充実が課題

8. 海外研修時の受け入れ先やMOU締結大学等への訪問時用の大学広報のためのGoods制作
1) かほく市高松町在住の加賀友禅作家金津五雄氏作による風呂敷兼タペストリーの制作
2) 金箔製品制作・販売「箔一」のフォトスタンド　発注、次年度納入

9. 平成28年度広報委員会活動総括

平成28年度は平成27年度の活動計画に沿って運用したが、新規のDVD制作には至らず課題として残った。しかしながら、夏のオープンキャンパス2016は全学の協力体制の下、参加者が過去最高を更新、教員用ホームページの新規立ち上げ3領域・講座、大学広報用Goodsの制作等取り組むことができた。

今後、高校生や保護者、卒業生・修了生向けにより有効な大学広報に努めるためにはメールマガジンやSNS活用などITの活用を図り、新規の広報戦略が必要と考える。

4.4.1.8　入学試験委員会

委 員 長：石垣 和子　教授（学長）
委　　員：武山教授（附属地域ケア総合センター長）、長谷川教授（学生部長）、濵教授、
牧野教授（研究科長）、林教授、垣花准教授、中田准教授、出村事務局長
事 務 局：林専門員
活動内容：

1. 前年度の実情および問題点・課題等

前年度の各入学試験の募集、実施準備、当日運営、合格発表にいたる一連の事務作業はほぼ円滑に実施できた。大学独自の試験問題作成・採点において、面接試験の採点を点数積み上げ方式から段階評価に変更した。

センター試験にて試験区域内に部外者の立ち入りがあり、管理体制の見直しの必要性が顕在化した。

2. 今年度の目標
1) 各入学試験の募集、実施準備、当日運営、合格発表にいたる一連の事務作業を確実・円滑に実施する。
2) 県内及び近隣県に看護系大学の増加が見込まれることから、受験生の確保に努力する。
3) 課題となっているセンター試験における試験区域の管理体制を改善する。
4) 作問体制について作問委員に周知し、適切な作問、採点を保証する。
5) 高大接続改革に伴う入試改革を行うための情報を収集する。
6) 3ポリシー見直しに伴う入学者受け入れ方針を明文化する。
7) その他の入試委員会が担当する作業を確実に行う。課題を発見し、その解決につなげる。

3. 今年度の活動内容･その評価
1) 各入学試験の募集、実施準備、当日運営、合格発表にいたる一連の事務作業はほぼ円滑に実施できた。委員及び部会長が変更になったため（2年任期の1年目）、すべての入試の実施体制を委員会にて審議した（前年度は入試実施部会にて審議）。前年度委員会で審議していた合格者決定に向けた事前審議は入試委員会ではなく縮小した体制で行った。

2）県内及び近隣県に看護系大学の増加が見込まれることから、受験生の減少が心配されたがほぼ前年度並みの受験生が得られた。オープンキャンパスは前年度と同様に7月と10月に行い、来場者は増加した。北陸新幹線開通に伴い、首都圏からの受験生確保対策として埼玉県、東京都に石川コンソーシアムの助成を受けて高校訪問を行った（広報委員会が担当）。

3）課題となっているセンター試験における試験区域の管理体制は試験区域の境界を1か所にする（前年度までは2か所）という改善策を実施した。一応成功した。

4）作問体制について作問部会長が試験ごとの作問委員長と接触しながら作問にあたった。問題作成期限、問題印刷時期、封入時期など計画通り進まず、作問部会長にしわ寄せが集中した。

5）入試評価部会では、面接評価を段階方式にした効果等について検討した。まだ1学年分であるため、明確な評価はできず、今後の推移を見て行くことになった。

6）高大接続改革に伴う入試改革を行うため、高校の進路指導教員との意見交換会を開催し、有意義な意見交換ができた。

日　時：2016年8月9日

場　所：石川県立看護大学

参加者：17校の高校教員。大学の入試委員、3ポリシー検討ワーキングメンバー

7）3ポリシー見直しに伴う入学者受け入れ方針を明文化については、3ポリシーのほぼ完成を見た2017年2月に行った。石垣入試委員長、武山委員、中田委員、垣花委員でワーキング体制をとり、2回の話し合いでほぼ固め、教授会、教育研究審議会にて審議の後確定させた。

8）その他の入試委員会が担当する作業を確実に行う。課題を発見し、その解決につなげる。

4. 次年度以降に向けた課題・発展

1）作問部会長の負担軽減の必要性が生じたこと:推薦（小論文2問）、前期日程（小論文2問）、後期日程（小論文2問）、大学院博士前期一次、二次（英語各2問）、大学院博士後期一次、二次（英語各2問）合計14問題の作問を管理することとその後の印刷、封入、採点後の入力確認の負担は大である。前年度までは複数体制であったが今年度は一人体制としたため、次年度は複数に戻す必要がある。

2）入試実施体制における教員の協力意識を高めること：大学院入試を省力化して行ったところ、午前午後ともに役割のある教員が多忙のため、ミスの出る恐れを感じる状況が生じた。次年度は教員の協力を十分に頼む方針をとる必要がある。

3）文部科学省の主導のもと、高大接続改革に伴う入試改革が具体化されようとし始めているため、さらなる情報収集が必要である。

4）次年度は、平成30年度開設予定の助産師大学院の入試が初めて行われることから、慎重に実施体制を組む必要がある。

4.4.1.8.1　入試実施部会

部 会 長：非公開
部 会 員：非公開
活動内容：
1. 看護学部入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
2. 研究科入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
3. 大学入試センター試験の会場準備・実施体制およびそれに付随する業務

4.4.1.8.2　入試評価部会

部 会 長：非公開
部 会 員：非公開
活動内容：
以下について検討した。
1. H27年度卒業生の選抜方法と入学後の成績との関係に関すること
2. H28年度入学生の選抜方法と1年前期の修学状況との関係に関すること
3. H27 年度の面接評価方法とH28年度入学生の1年前期の修学状況との関係に関すること
4. 全国の国公立看護系大学の入試の選抜方法に関すること

4.4.1.9　自己点検・評価委員会

委 員 長：石垣 和子　教授（学長）
委　　員：浅見教授（学長補佐）、武山教授（附属地域ケア総合センター長）、多久和教授（年報部会長）、大木教授（公大協研究員・研究推進委員長）、長谷川教授（学生部長）、丸岡教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長）、西村教授（附属図書館長）、牧野教授（研究科長）、村井教授（教員評価部会長）、川島教授（学長補佐）、林教授（FD委員長）、出村事務局長
委員補助：田村助教、金子助教、寺井助教
事 務 局：田淵主事
活動内容：
1. 前年度の実情及び問題点・課題
   1）前年度は自己点検に必要な主題ごとにその評価に役立つ指標や経年推移を得ることについて審議した（教育、研究、社会貢献等）。また、自己点検した結果を公大協のピア評価にかけることを決定した。教員の個人評価については、ほぼその方法（記載のシート様式、一次評価者、二次評価者、評価時期等）を決定した。
   2）ピア評価にかける内容の記載や時期の決定が次年度に持ち越しとなった。
   3）教員の個人員評価の進行管理に遅れが生じた。

2. 今年度の活動とその評価
   1）計画的に議題を調整し、隔月に委員会を開催した。
   2）休止中であった部会（教員評価部会、年報部会）を復活させ、委員及び部会メンバーを

充実させた。年度途中からFD委員長を委員として召集した。

3）前年度からの申し送りである公大協によるピア評価は中止した。その理由は、H28年度は法人の中期目標の切り替え時期と重なり（第1期はH23からH28、第2期はH29からH34）委員の負担が過大となることである（今後の受評も未定扱いとした）。

4）教員評価部会は、前年度までの課題を整理して評価者(一次、二次)の明確化と評価班構成の是正を行い（3班から2班へ、残り1班は不服申し立て対応班）、タイミングよく注意喚起を行って進行管理を改善した。

5）自己点検評価報告書作成（2年ごとの発行方針を平成26年度に決定：今回の評価年はH27年度）、章立て（学位授与機構の基準に沿う）、各章の執筆責任者、タイムテーブルを決定し、原稿の依頼を行った（原稿の最終締め切りはH29年5月）。

6）年報の章立てを見直し改善した。H28年度年報に5）の自己点検評価報告書を合本して発行することを決定し、最終編集は年報部会が行うことになった。

7）FD推進の方針を確認し、科目ごとの授業評価結果及び科目群の評価方法について検討を開始した。

3．次年度以降に向けた課題

1）自己点検評価報告書の完成（評価年H27年度、発行年H29年夏）とその課題の洗い出し及び改善方法の検討

2）次の認証評価受評の準備（評価年H29年度、資料執筆と提出H30年度、現地調査H31年度）（大学基準協会による受評を予定）

3）学生による授業評価の活用の検討

4）職位ごとの教育力、研究力の標準化の検討開始

5）複数年にわたる教員の個人評価方法及びそのフィードバック方法の検討開始

4.4.1.9.1　教員評価部会

部 会 長：村井 嘉子　教授

部 会 員：今井教授、林教授、松田総務課長（適宜参加）

活動内容：

本委員会では、平成27年度教員評価の実態と作成されている教員評価要領（案）が合致しているかを精査した。教員評価要領（案）の記述において用語の定義が曖昧であり、共通理解が不十分な箇所があること、また評価において不服申し立てが生じた場合、再評価が適正かつ円滑に実施される必要ある等が明らかとなり、教員評価要領（案）の見直しと修正に取り組んだ。

教員評価における用語の定義の修正、年次計画が判りやすい教員評価年間タイムスケジュールを提示し、その具体について教員全体会議で周知した。その後、教員評価年間タイムスケジュールに準拠して平成28年度教員評価、および平成29年度教員活動計画提示を学内周知した。

教員評価における複数年評価の在り方について、本学と同規模の公立看護系単科大学18校に依頼して質問紙調査を行った。今後、その結果を踏まえて本学の複数年教育評価について検討する予定である。

4.4.1.9.2　年報編集部会

部 会 長：多久和 典子　教授
部 会 員：塚田准教授、川村講師
事 務 局：田淵主事
活動内容：

平成27年度の年報 第16巻を発行した。また、平成28年度年報の編集作業を迅速化するため、教員研究活動記録の記入にあたっての留意事項を改訂し、委員会報告等のフォーマットをわかりやすく表示して周知した。

4.4.1.10　FD委員会

委 員 長：林 一美　教授
委　　員：多久和教授、加藤准教授、木森准教授、山岸准教授、北山准教授
委員補助：曽山助教、松本助教
事 務 局：山岸専門員
活動内容：

1．FD研修会

FD研修会は前期2回、後期2回の計4回開催した。そのうち、1回は「第1回石川県立大学との合同FD研修会」を学外で開催した。

1）学内FD研修会

第1回FD研修会は、「FDの最新トレンドと本学の初年次教育の取り組み」として、第1部：金谷雅代　講師「大学コンソーシアム京都第21回FDフォーラム報告　大学教育を再考する～学ぶきっかけをつかめない学生にどう向き合うか？～」、第2部：北山幸枝　准教授「本学における初年次教育の取り組み～ 2年目の経過報告～」として、学内教職員による情報共有と意見交換を目的に開催した。第2回FD/SD研修会は、「公立大学における今日的課題」について、中田晃　先生（一般社団法人 公立大学協会 事務局長）に講演をしていただいた。第3回研修会は、「大学におけるアクティブラーニング」について、授業への活用を考えることを目的に、藤本元啓 先生（崇城大学　総合教育センター教授）に講演をしていただいた。参加者は、第1回目は教員33名、職員2名、学部生1名、第2回目は、教員29名、職員3名、第3回目は教員32名であった。

2）学外FD研修会

（1）第1回FD合同研修会

石川県立看護大学と石川県立大学との第1回目の合同FD研修会を「しいのき迎賓館（大学コンソーシアム石川）」にて開催した。「プレイフルラーニングで学びをROCKしよう！」というテーマで、上田信行 先生（同志社女子大学 現代社会学部現代こども学科特任教授）、曽和具之先生（神戸芸術工科大学 准教授）を招いて開催した。研修会は、ワークショップ形式で行われ、「アクティブラーニング」の具体的なツールやスキルを増やし体感（マインドセット）することや、県立大学の教職員と情報交換し交流を深めることを目的におこなわれた。参加者は本学教員26名であった。

(2) FDに研修に関する出張

創価大学教育フォーラム「高大接続とアクティブラーニング」に教員2名が参加し、FD委員会時に伝達講習をおこなった。大学コンソーシアム石川教職員研修事業第2回FD/SD研修会「講義科目のファシリテーション」に教員3名、大学コンソーシアム石川教職員研修事業第3回FD/SD研修会「講義科目のファシリテーション」に教員1名の参加があった。

2. 授業評価アンケート結果の検討

学生による授業評価アンケート結果の活用については、教員個々の裁量に任されている点が多く、組織的な実施に至っていないことは課題であった。本年前期より、授業評価アンケート結果を学内し、組織的な教育改善の取り組みとして授業評価アンケート結果を活用することになった。前期分の授業評価アンケート結果を検討した結果、低い評価が多い「発言・質問の機会」、「予習・復習の量」、「内容の理解」について授業の工夫・対策が必要であることがわかり、教員全体会議で周知し、各教員の教育改善の一助とした。

3. 新任教職員オリエンテーション

28年度新任教職員　9名(教員5、職員4)に対し、2回にわたりオリエンテーションを実施した。

4.4.1.11　ハラスメント委員会

委 員 長：石垣 和子　教授（学長）

委　　員：小林教授、長谷川教授、丸岡教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長）、西村教授（附属図書館長）、阿部准教授、谷本准教授、出村事務局長

相 談 員：武山教授（附属地域ケア総合センター長）、川島教授（学長補佐）、中田准教授、塚田准教授

活動内容：

1. 前年度の実情及び問題点・課題

前年度は委員会への申し立てもなく、問題点・課題の申し送りはなかった。

2. 今年度の目標

1) ハラスメント防止に関する意識啓発を図る。ハラスメントを予防するような学習環境、職場環境を醸成する。
2) ハラスメント事案が発生した場合には、ハラスメント防止規定に従い、適切に対応する。
3) ハラスメント防止規定の見直しを行い本学にふさわしいハラスメント防止規定を作成する。

3. 今年度の活動内容・その評価・次年度に向けた課題

1) ハラスメント防止に関する意識啓発は今年度は中止し（事例発生を連想させるため）、事例を念頭に置きながら日を置いて行う方がよいと判断した。
2) 10月にハラスメント事案が発生した。申し立者には、ハラスメント防止規定に則り、適

切な支援を迅速に行い対応した。また、委員会を招集し3回（10月17日、10月31日、2月14日）会議を開催した。ハラスメント防止規定に則り調査した上で時間の経過に添って推移を見守り、それをもとに審議して「グレーゾンである」という結論を導いた。今後、対応の改善が必要とされる事案であり、申し立てを受けた当事者には改善の要求を申し入れ、申立者には経過を説明して支援を継続して行った。今後、ハラスメント事案の報告を職員全体会議で行い教職員の意識変革へとつなげていく。次年度への問題点・課題の申し送りを行っていく。

3)「石川県立看護大学キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程」の見直しについて会議を2月14日に持った。今後審議を続け、本学にふさわしいハラスメント防止規定を作成していく予定である。

4.4.1.12　情報セキュリティ委員会

委 員 長：今井 美和　教授
委　　員：加藤准教授、北山准教授、川村講師、嶋田特任講師、曽根助教、渡辺助手
事 務 局：小林主任主事
活動内容：

1. 情報セキュリティに関する研修の実施
   1) 新任教職員対象　4月1日
      「石川県公立大学法人情報セキュリティーポリシー（平成24年1月）」「情報セキュリティに関する10ヶ条　2009.6.11」について説明をした。
   2) 全教職員対象　9月28日
      「石川県公立大学法人情報セキュリティーポリシー（平成24年1月）」「情報セキュリティに関する注意事項」「不審メールの取り扱い」について説明をし、「Windows　Updateの自動更新」を依頼した。

2. 情報セキュリティに関する注意事項の検討
   1) 日常的に教職員や学生の情報セキュリティ対策の意識を高める目的で、「石川県公立大学法人情報セキュリティーポリシー（平成24年1月）」に基づいて標語の作成を検討した。

4.4.1.13　コンプライアンス委員会

委 員 長：多久和 典子　教授
委　　員：松原教授、牧野教授（研究科長）、林教授、木森准教授、出村事務局長
事 務 局：小林主任主事
活動内容：

昨年度確認された倫理委員会との連携の重要性に鑑み、研究倫理研修会を両委員会共催により7月20日に開催した(参加者は教員40名、職員2名、大学院生7名、計49名)。CITI Japanによる研究倫理推進の拡大、受講の必要性、来年度から組織・運営がAPRIN に引き継がれること、文科省からの周知事項（研究倫理にもとる過去の事例）などの情報を共有し、さらなる研究倫理推進を確認した。なお、今回は初めて大学院生の参加を得た。

4.4.1.14　倫理委員会

委 員 長：牧野 智恵　教授（研究科長）

委　　員：今井教授、長谷川教授（学生部長）、加藤准教授、中田准教授、塚田准教授、
外部委員（9名）

事 務 局：澤本専門員

活動内容：

1．活動内容

1）平成28年度は学長が委嘱する学識経験者として9名の外部委員の参加を得て、計11回の委員会を行った（1回の委員会に2名の外部委員が出席）。

2）昨年修正した様式の内容をもとに、記入漏れの多い箇所について、例を記載しYフォルダーに掲載し、学内教員に周知し申請者がより申請しやすい環境を整えた。

3）平成28年度の申請数（付議不要を含む）は、教員 22件、前期課程生 7件、後期課程生 1件、卒業論文14件(2件減)、付議不要15件(3件増)で合計 59件であった（昨年75件)。審査の結果は、承認9%（昨年21%)、条件付き承認84%（昨年73%)、変更の勧告7%（昨年2%)、不承認0%（昨年0%)、非該当0%（昨年5%）であった。条件付承認は、修正された申請の再審査で、100%承認となった。

4）平成28年7月20日（水）にコンプライアンス委員会と合同研修会を開催した。本委員会は、倫理申請書を正しく記載することが研究倫理の遵守に繋がると考え、昨年度の申請書修正に加え、今年度記入漏れの目立つ箇所を示し、記入例を付け加えたことを本学教員および大学院生に説明した（合同研修会の概略は4.4.1.13コンプライアンス委員会を参照のこと)。

5）卒業研究の場合の「条件付承認に対する倫理審査申請書の補正」の様式の変更について、指導教員の捺印を追加し、申請用紙を変更し、メールで教員に周知した。また、以下の点について審議した。

(1) 卒業研究の研究対象者が学生であった場合の制限をかけるか否かについて、制限はかけないこととした。

(2) 付議不要確認申請の書式の検討

付議不要確認と迅速審査は違うものであり、本審査、迅速審査、付議不要確認の3種類が必要ではないかという意見になり、名称、様式の変更を行った。また、「無記名調査における倫理的配慮用紙（卒業研究用)」は新しい倫理審査申請様式と内容が重複することから削除することになった。「付議不要確認結果通知書」を申請者にわかりやすいように、軽微な修正を加えることになった。

(3) データの保管場所･保存期間について、不十分な記載があるので、「鍵のかかるロッカーに保管すること」「 保存期間は最低5年とする」など取り決め、教員に周知した。

(4) 卒研の研究協力者への謝品については、高額なものでなければ、特に問題ないことを確認した。

4.4.1.15　衛生委員会

委 員 長：今井 美和　教授

委　　員：大木教授、川村講師、寺井助教、子吉助教、出村事務局長、井上嘱託、中川研産業医
事 務 局：細川専門員
活動内容：
1．敷地内全面禁煙の実施
　1）昨年度から本学の喫煙場所（管理棟、厚生棟の2箇所）の必要性を検討し、9月1日より敷地内全面禁煙を開始した。

2．ストレスチェックの実施と受検勧奨（8月～9月）
　1）法人の方針に従って、ストレスチェックを実施した。

3．その他
　1）職場巡視〔校舎の設備や衛生状態〕（6月22日、11月16日、3月22日）
　2）定期健康診断受診勧奨と受診状況調査
　3）労働時間に関する実態調査（7月）
　4）消防訓練（7月19日）
　5）労働安全衛生研修会（11月30日）

4.4.2　特設委員会

4.4.2.1　3ポリシー見直しWG

ＷＧ長：村井 嘉子　教授
ＷＧ員：石垣教授（学長）、武山教授（附属地域ケア総合センター長）、小林教授、
　　川島教授（学長補佐）、垣花准教授、中田准教授、米田講師、出村事務局長
事 務 局：山岸専門員
活動内容：
　本委員会は、「卒業認定・授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「入学者受け入れの方針」の策定及び運用に関するガイドライン（中央教育審議会大学分化会大学教育部会　平成28年3月31日発行）に基づき3ポリシーの改訂を実施した。改訂作業におけるスケジュールと実際を以下に示す。

３ポリ（３ポリシー）改訂ワーキング作業会議（最終報告）

石垣・小林・武山・川島・中田・垣花・米田・山岸（教務事務）出村・村井 2017.3.1（文責村井）

	Ⅰ・全体周知・教員全体会議	Ⅱ・３ポリ WG 会議	Ⅲ・関連委員会の主メンバーの参画	備　　考
28.6.22		**第 1 回会議**： 背景、改訂骨子、役割、ﾀｲﾑｽｹｼﾞｭｰﾙの確認		
28.7. 5		**第 2 回会議**： DP に関わる意見交換		
ﾒｰﾙ会議		**第 3 回会議**：２回会議後、素案提示		
28.7. 12		**第 4 回会議**：ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後に DPVer.1 策定		
28.8. 5	DPVer.1 を提示し意見交換		←	高大連携意見交換会（8/9）
28.8.26 **ﾒｰﾙ会議あり**		**第 5 回会議**： ①Ver.1 修正して DPVer.2 策定！ ②昨今の学生像、現在の教育実態を踏まえ、仮の本学の入学生像について意見交換	DPVer.2・CP 策定過程から入試委員会各部会長が参画し AP へ繋げる	・現在の学生の課題をｶﾘｷｭﾗﾑ改訂に反映させる
28.10.5		**第 6 回会議**：DPVer.2 を基に CP 策定開始		~~ｶﾘｷｭﾗﾑﾏｯﾌﾟ作成開始~~
ﾒｰﾙ会議あり		**第 7 回会議**：CP について		
28.11.11		**第 8 回会議**：評価のあり方の検討（CP におけるアセスメントポリシーの検討）		
28.11.29		**第 9 回会議**：AP 策定開始 ⇒本学に入学すべく者像について意見交換	入試委員会（武山・垣花）本格参画	
28.12.22		**第 10 回会議**：DP・CP・AP の整合性検討		
29. 1.5	3 ポリ（案）を提示し意見交換⇒会議発言以外の意見を募る（1 月末）			
29. 1.23		**第 11 回会議**：学内意見を受けて再検討		AP の細目は今後入試委員会へ ｶﾘｷｭﾗﾑﾏｯﾌﾟ作成
29. 2. 3		**第 12 回会議**：3 ポリシーとｶﾘｷｭﾗﾑﾏｯﾌﾟ（案）提示		便覧内容確認
29. 2.13	ｶﾘｷｭﾗﾑﾏｯﾌﾟ（案）提示	**第 13 回会議**：3 ポリシー整合性検討		
29. 3. 1		**第 14 回会議**：3 ポリシー及びｶﾘｷｭﾗﾑﾏｯﾌﾟ最終検討		
29. 3. 2	教授会での審議を経て最終決定			学生便覧及び大学案内へ

4.4.2.2　英語版HP作成WG

ＷＧ長：加藤 穣　准教授

ＷＧ員：西村教授（附属図書館長）、木森准教授、曽根助教、大江助教

活動内容：

1. 英語版HPの構築
   1）業者との打ち合わせ・依頼　（日本語版ページからの翻訳・サイトの構築・ページの追加については能登印刷株式会社に発注）
   2）教職員・卒業生・在学生に対する原稿の依頼　（英語版の独自コンテンツ、あるいは日本語版と同時に更新される部分について。2017年度アメリカ研修（大江助教）等）
   3）納品された英語版HPの確認・修正依頼

2. 教員情報の英語版作成
   1）教職員へのアナウンス・依頼・作業内容の説明
   2）翻訳・校正の業者への依頼（株式会社エクスプレッションズおよび丸善雄松堂株式会社に発注）
   3）納品された原稿の確認
   4）各教員ページ公開の支援と確認

4.4.2.3　大学改革委員会

委員長：丸岡直子　教授（学長補佐兼看護キャリア支援センター長）

委　　員：牧野教授（研究科長）、村井教授、出村事務局長

活動内容：

1. 今年度の活動内容

   今年度は、学部カリキュラム改訂班、大学院・専攻科検討班、教員組織改編班の検討内容の情報交換を行うことを中心に活動し、3版の検討状況を確認した。

   1）学部カリキュラム改訂班:学部3ポリシーの見直しを中心とした検討を行い、現行カリキュラムの課題や社会の動向（医療・福祉・保健）、大学教育改革の動きに対応したカリキュラム構築に向けて検討している。
   2）大学院・専攻科検討班：助産師教育課程を大学院教育として開設することを目指し、申請準備を進めている。教育機関として認可されれば、大学院の構成図を改編予定である。高度実践看護師へのニーズ調査は能登中部・北部地区の看護管理者等の懇談会や訪問看護師への面接調査から分析中であり、米国視察による情報収集を進めている。
   3）求める教員像、教員組織編制方針を検討中であり、概ね内容が固まりつつある。教員組織改編については、現状を確認しつつ、他の看護系単科大学の情報収集を開始した。

2. 次年度以降に向けた課題・発展

   引き続き、3班の検討内容や改訂にむけた進捗状況の情報交換を行う。

4.4.2.3.1　カリキュラム改定班

班　　長：村井 嘉子　教授

班　　員：長谷川教授（学生部長）、小林教授、垣花准教授、中田准教授、木森准教授、
北山准教授、織田准教授、桜井准教授、谷本准教授、市丸講師、金谷講師、中道講師

事 務 局：山岸専門員

活動内容：

本委員会では、平成31年度からの学内カリキュラム改訂をめざして、第1回会議を平成28年2月18日に開始し、平成28年度末までに10回の会議を実施した。

現代の学生気質、学修状況、指定規則と看護基礎教育を取り巻く情勢、クォーター制導入の可能性の検討、本学のめざすところ等、フリーディスカッションを通して現行カリキュラムの課題抽出を行った。

また、他大学カリキュラムとの比較、特徴ある大学の現地視察と情報収集等を積み重ね、本学カリキュラムの課題の焦点化を行った。

3ポリシーとの整合性、科目間連携における課題等について精査した。開学以降の年月経過において科目間の重複箇所、新たな教授内容等を明確化することで具体案の提示に繋がり、改訂作業を進めた。

4.4.2.3.2　大学院・専攻科検討班

班　　長：牧野 智恵　教授（研究科長）

班　　員：西村教授（附属図書館長）、林教授、濵教授、山岸准教授、塚田准教授、石川准教授、
米田講師、曽山助教、松本助教、大江助教

事 務 局：納橋専門員

活動内容：

1．大学院・専攻科検討班の会議の開催

1）本年度検討班による会議は、4月22日、10月6日、10月21日の3回開催し、大学院での助産師養成課程新設の是非、石川県におけるNP教育や活動の必要性とその可能性について検討を重ねた。

2．大学院助産師養成課程新設の準備

1）大学院助産師養成課程の検討WGの立ち上げ、申請の検討を実施

(1) 平成28年度から､大学院での助産師教育の是非について検討するため､WGを立ち上げた。メンバーは、委員長;牧野教授、濵教授、西村教授、山岸准教授、米田講師、曽山助教、寺訳教務学生課長、納橋専門員とした。

(2) 平成29年度申請、平成30年春からの教育開始に向けて準備を行った。法人本部および県との調整を図りながら、12月下旬から本格的に急ピッチでWGによって申請書作成の準備が始まった。

2）福岡県立大学大学院　助産師コースの視察

平成28年7月に、大学院にて助産師教育を精力的に実施し、さらに看護系大学である、福岡県立大学大学院看護学研究科の助産師教育課程を訪問した。教育環境を中心に視察

し、申請する上の助言を受け、シラバス作成に取りかかった。

3）文部科学省への申請に関する相談の実施

平成28年11月および平成29年3月に、大学院助産師養成課程申請書の内容について相談するため、学長、研究科長、教務学生課長、濵教授など申請書作成の関係者が文部科学省を訪問し助言を受け、書類の作成を行った。また、12月以降は、助産師教育について看護系教授からの意見を聴くため、1回/月、学長と看護系教授でランチミーティングを行った。

3．大学院でのプライマリーNPのニード調査および意識化

1）WGでの検討

昨年度に引き続き、本学大学院でのプライマリーNP教育の必要性について、WGを立ち上げ、検討した。WGメンバーは、牧野、林教授、塚田准教授、石川准教授、松本助教、大江助教、納橋専門員である。今年度は、4回（5月、7月、9月、11月）の班会議を行った。内容は、学長裁量による研究で「大学院プライマリケア看護カリキュラム構築のための基礎研究」についてである。また、7月頃から学長とのランチミーティングを1回／月開催し、プライマリーNP教育の是非、可能性などについて検討した。その結果、能登北部・中部医療圏の訪問看護師へのインタビュー調査と、看護部との意見交換会を実施し、ニード調査をすると共に、能登地域の看護師へのプライマリーNPの必要性への意識を高めた。

2）能登北部・中部医療圏の医療機関看護部との意見交換の実施

(1) 平成28年9月20日（火）、能登北部・中部医療圏の医療機関看護部の皆様に参集いただき、石川県奥能登総合事務所で「能登北部・中部医療圏の看護を考える」意見交換会を実施した。当日は、能登北部・中部医療圏の8医療機関の看護部長（総師長）、副看護部長（副総師長）、看護師長19名と本学看護系教員7名と事務局長の参加があった。意見交換会では、能登北部・中部医療圏の各地域の看護ニーズ、医療機関の看護の取り組みや在宅看護の現状、本学の教育への要望などについて、約2時間活発な意見交換を行った。内容については大学のホームページにアップした。

(2) 平成29年2月10日（金）、能登北部・中部医療圏の医療機関看護部の皆様に参集いただき、のとふれあい文化センターで第2回「能登北部・中部医療圏の看護を考える」意見交換会を実施した。当日は、能登北部・中部医療圏の7医療機関の看護部長（総師長）、副看護部長（副総師長）、看護師長、訪問看護師18名と本学看護系教員9名と事務局長の参加があった。意見交換会では、本学教員が「能登北部医療圏の訪問看護師に関する調査結果」報告、高度実践看護師（ナースプラクティショナー）の説明を行った。それをふまえ、医療機関看護部の皆様と本学教員が「能登北部、中部医療圏の医療課題に対応できる高度実践看護師育成」について意見交換を行った。

4.4.2.3.3　教員組織改編班

班　　長：丸岡 直子　教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長）

班　　員：浅見教授（学長補佐）、武山教授（附属地域ケア総合センター長）、
西村教授（附属図書館長）、牧野教授（研究科長）、村井教授、林教授、中田准教授、
田淵助教、金子助教、千原助手、大西助手

事 務 局：澤本専門員

活動内容：

1. 前年度の実状および問題点・課題等

魅力ある大学の将来を実現するための検討ワーキンググループとして班が編成され、その目的を班員と共通理解することから検討を始めた。教員組織の改編は、学部カリキュラムの改停や高度実践看護師育成を中心とした大学院の新たな研究教育分野の検討と密接に関連するため、他の2つの班の動きおよび、医療・福祉の動向や看護学教育の動向にも注視していくことを課題とした。

2. 今年度の目標

今年度も、引き続き学部カリキュラム改訂班と大学院検討班の動向を注視していく。さらに、平成24年度の大学基準協会における大学認証評価における教員組織に対する評価内容において、大学が求める教員像や教員組織の編成方針の策定を望む指摘がなされており、教員組織改編にあたり、今年度は下記の3点を検討する。

3. 今年度の活動内容・その評価

1）求める教員像の検討

教育理念・教育目標およびカリキュラム･ポリシーやディプロマ・ポリシーの則った教育に向き合う姿勢、専門領域にふさわしい教育力とその向上、大学運営・改革やグローカル化への貢献などの内容について検討した。

2）教員組織の編成方針の検討

法令や規程に準拠し、学部・大学院の3ポリシーを実現するための教員組織であること、教育研究の責任の所在が明確であり、その水準を維持向上できること、教員の業績を適正に評価することなどを盛り込む編成方針を検討した。

3）教員組織の構成に関する検討

現行の教員組織（学部・大学院）を確認し、教育研究活動上の課題について意見交換するとともに、看護系単科大学の教員組織に関して情報収集に着手した。しかし、学部カリキュラムの改訂も検討段階であり、具体的な組織改編への検討には至っていない。

4. 次年度以降に向けた課題・発展

1）「求める教員像」および「教員組織の編成方針」は教員組織改編班として内容をまとめ、学内の合意が得られるようすすめる。

2）次年度には、学部カリキュラム改訂が具体化することが見込まれることから、その内容が達成できる教員組織について検討する。

3）平成30年度に開設予定の大学院での助産師教育課程における教員組織編成について、研究科委員会の検討を尊重していく。

4.5　平成28年度　卒業研究論文題目一覧

領域または科目群	氏　　名	論　　文　　題　　目
人間科学領域 （18人）	粟　　梓沙	歩行時のリュックサック負荷による心拍数への影響について
	北澤　礼衣	養護教諭を志望する学生が進学を選択するための支援
	近藤早那子	日本における盲導犬の普及と病院での受け入れについて ―ニュージーランドとの国際比較―
	笹谷　彩夏	看護学生の喫煙における意識調査
	杉本　敦美	看護学生の患者の前での身だしなみに対する意識調査
	髙木佑希恵	中学生に対する効果的な歯科保健指導のあり方 ―歯科保健指導後の質問紙調査を通して―
	高見　　藍	路面の砂の乾湿の違いが歩行時の心拍数に与える影響
	田中　陽子	歩くことを意識した生活が大学生女子の心の健康に及ぼす影響
	手井　麻友	日本とイギリスの禁煙支援の国際比較
	中村　奈生	子どもを看取った父親の悲嘆とその支援 ―子どもを小児がんで亡くした父親の手記を通して―
	林　　和慶	路面状況の変化によるウォーキングでの心拍数の変動について
	林　　凛子	アルバイトが看護学生の学生生活に及ぼす影響について ―講義・課題に注目して―
	平岡　美咲	東日本大震災被災児の喪失体験とその支援について ―被災児の作文等を通して―
	松井　観月	NPを目指した動機について―NPのインタビューから―
	南　　祐花	保健室登校児童・生徒の教室登校支援において養護教諭が果たす役割
	向井　　彩	小学校養護教諭の保健室来室児童との関係づくり
	柳島　伶那	保健だより作成・活用についての実態調査 ―校種別の違い―
	薮　穂乃花	石川県内の小学校養護教諭が行う食物アレルギー対応の実態調査

領域または科目群	氏　　名	論　　文　　題　　目
健康科学領域 （15人）	英　あおい	女子看護大学生が行った女子高校生への子宮頸がん予防啓発活動2年目の効果―昨年度啓発活動参加経験の有無による比較―
	大久保　遥	多胎育児で抱える不安や困難感と必要な支援に関する文献レビュー
	川口　智可	糖尿病患者に対する患者指導で重視する項目 ―学年、指導経験、血縁者による相違―
	川田　萌恵	小児肥満とライフスタイルの関連についての文献レビュー
	北瀬　千春	ビタミンDが筋細胞の核融合に及ぼす影響
	杉江　春花	看護学生の糖尿病患者指導に対する意欲と自己評価について―学年・指導経験の有無に着目して―
	杉本　玲奈	女子看護大学生が行った女子高校生への子宮頸がん予防啓発活動2年目の効果―昨年度啓発活動経験者の継続的評価―
	荘谷　涼香	不妊治療が夫婦に与える影響とその看護支援に関する文献レビュー
	田中　伶奈	看護学生の2型糖尿病に関するイメージ・知識定着度の研究 ―学年・実習経験・家族歴の有無による比較―
	玉好咲世子	性周期に伴う嗜好性の変化に関する研究 ―性周期の視点から―
	内藤美奈子	性周期に伴う嗜好性の変化に関する研究 ―食習慣という視点から―
	西井　清香	筋芽細胞の分化に伴う細胞の形態の変化についての研究
	西田麻理奈	女子看護大学生が行った女子高校生への子宮頸がん予防啓発活動2年目の効果―昨年度と今年度の啓発活動対象者の比較―
	広崎　桃子	性周期に伴う嗜好性の変化 ―エネルギー代謝の視点から―
	前田紗椰佳	ビタミンDが筋細胞の筋管形成に及ぼす効果に関する実験研究
看護専門領域 基礎看護学（10人）	油田　遥花	車椅子乗車時の移送速度の違いによる眼球運動と不安の関係
	開田いづみ	腹部マッサージの方法と効果に関する文献検討
	笠嶋　凪紗	退院調整看護師の地域包括ケア病棟に対する役割と課題
	上條　麻衣	看護職による義歯不適合のアセスメント ―看護職の気がかりと対応方法―

領域または科目群	氏　　名	論　　文　　題　　目
看護専門領域 基礎看護学(10人)	田嶋　瑞穂	地域包括ケア病棟における退院支援の実態と課題 ―所属看護師のインタビューから―
	馬藤　里奈	車椅子段差乗り越え時の声かけが乗車者にもたらす生理的・心理的影響
	松本　万弥	ゲル状擦式手指消毒剤の使用量と擦り込みの有無が手指の汚染除去効果に与える影響―拇指に焦点をあてて―
	山本　歩美	ゲル状擦式手指消毒剤の使用量と擦り込みの有無が手指の汚染除去効果に与える影響―指先に焦点をあてて―
	横窪　真未	看護職による義歯不適合のアセスメント ―看護職の観察と患者の訴え―
	吉村友里子	ゲル状擦式手指消毒剤の使用量と擦り込みの有無が手指の汚染除去効果に与える影響―手首に焦点をあてて―
看護専門領域 母性看護学(8人)	石井　美里	死産を経験した母親に対する必要なケア
	井奈　由香	モンゴル国における女性セックスワーカーのHIV/AIDSについての文献検討
	河瀬　貴美	発展途上国における乳幼児下痢症に関する文献研究 ―健康教育のあり方について―
	高木明日香	妊娠期の女性が産前に就労継続する要因の分析
	髙科　　瞳	流産・死産・新生児死亡を体験した母親の医療施設退院後の悲嘆反応・思いとケアについての文献検討
	林　　江美	糖代謝異常をもつ妊婦の心理とケアに関する文献検討
	森田　玲菜	更年期女性の健康食品販売に関する情報取得と対処行動の文献検討
	山本　　藍	予想外の妊娠により、人工妊娠中絶を受ける女性の心理過程と支援についての文献検討
看護専門領域 小児看護学(5人)	秋山　千穂	慢性疾患を持つ子どもへの家族看護を考える ―母親の心理に焦点を当てて―
	奥田　萌生	短期入院の子どもと家族への支援に関する文献検討
	小松　奈雪	自分の病気の開示にまつわる学童の体験に関する文献検討
	中嶋　里菜	NICU入院児と母との愛着形成のリスク要因と母子への支援に関する文献検討
	宮本　七彩	災害を経験した子どもの心理的支援の実態に関する文献検討

領域または科目群	氏　　名	論　　文　　題　　目
看護専門領域 成人看護学(11人)	荒井　麻由	がん患者のがん告知から克服までの心理状況と対処行動の関連性に関する文献的考察
	上滝　成美	精油を付加した足浴と精油を用いたフットマッサージにおける保湿効果の違い
	宇羅　彩夏	看護学生の乳がんへの知識と乳房自己検診行動の関連性
	小山いのり	終末期がん患者のケアに関わった看護学生の体験
	坂本羽寿希	治療を受けている再発がん患者がもつ希望に関する文献研究
	角田　杏美	石鹸を用いた足浴と精油を付加した足浴における足の臭いの発生状況の違い
	玉川　愛莉	従来の足浴と精油を用いたフットマッサージにおける角質水分量の比較
	橋本　知奈	従来の足浴と精油を用いたフットケアにおける自律神経系の生理的変化
	早松　美矩	終末期がん患者との関わりに対する看護学生の戸惑いと対処について
	森川　歩美	乳がんに対する知識のある看護学生が乳房自己検診行動を阻害する要因
	山越　麻貴	新人看護師の実践能力向上のための研修の実際と影響に関する文献的考察
看護専門領域 老年看護学(5人)	青木知佳子	認知症高齢者を対象とした笑いヨガによるストレス軽減効果
	高橋美奈子	一般病棟に入院している認知症高齢者の生活上の困難と思い
	竹島　梨紗	認知症高齢者を対象とした笑いヨガによる認知機能や意欲に対する効果
	元川　　瞳	認知症対応型共同生活介護施設での笑いヨガのスタッフへの効果
	森川　未来	認知症高齢者を在宅介護している配偶者の介護負担とストレス対処方法―過疎地域と都市近郊地域における事例の比較より―

領域または科目群	氏　　名	論　　文　　題　　目
看護専門領域 地域看護学(7人)	岡倉　由佳	交代制勤務職場のストレス要因に関する文献レビュー
	藏堀　美月	特定保健指導における健康認識・行動変容の要因
	蔦口　実花	発展途上国の母子手帳普及における現状および課題について ―促進・阻害要因に注目して―
	東　さやか	介護予防事業に通う男性高齢者の参加の背景に関する文献レビュー
	前田有貴子	就労妊婦のストレスとその要因及び看護援助に関する文献検討
	安田　萌恵	日本と発展途上国の母子健康手帳導入の背景および課題について
	和角　真希	高齢者に関する新聞記事はどのような情報を発信しているか ―20年前と現在の記事内容を比較して―
看護専門領域 在宅看護学(5人)	越野　美貴	在宅看護学実習後における看護学部生の介護観に関する実態調査
	笹井佐也香	能登北部医療圏における看護師の役割についての実態調査 ―地域支援機能と在宅支援機能に焦点を当てて―
	大工　　葵	診療所看護師の役割についての文献検討
	多田　朱里	看護学生の介護観に関する実態調査 ―看護専門分野の履修有無に着目して―
	藤井　悠希	能登北部医療圏における看護師の役割についての実態調査 ―外来機能と診療所マネジメント機能に焦点を当てて―
看護専門領域 精神看護学(5人)	赤塚　祐美	精神科病棟に長期入院している患者と家族に対する退院支援についての文献検討
	小森はるか	精神科外来および精神科デイケアでの肥満の改善・予防に対する有効な支援について
	白瀬　　華	職場リワークにおける看護職の役割に関する文献検討
	土田世莉香	精神障がい者の就労と社会参加のニーズ ―就労継続支援B型事業所利用者へのアンケート調査から―
	宮崎阿弥香	精神障害者の自己肯定感を得るための看護実践に関する文献研究 ―褒めるをキーワードにして―

5. 大学院・看護学研究科

5.1　理念・目標

5.1.1　博士前期課程（修士）

5.1.1.1　教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中にあって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.1.2　教育目標

1. 看護教育を支える教育・研究職の育成

　本課程では、学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化･発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護学分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育･研究職の人材を育成する。

2. 高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者の育成

　実践現場において当面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、専門看護師（CNS:Certified Nurse Specialist）の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与できる高度専門職業人を育成する。

3. 生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

　日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部の社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、適宜適切な社会人の再教育の場を提供する必要がある。本課程は、このような向上心旺盛な学部卒業生や社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

5.1.1.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人
2. 看護の専門的知識・実践力と研究能力を自ら発展させる意志を有する人

3. 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
4. 看護学を通じて地域社会および国際社会に貢献する意志を有する人

5.1.1.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士前期課程では、学際的で深い科学的知識と高い研究能力を有し看護学の研究や教育、実践に携わることのできる研究者・教育者・高度看護実践者を育成するために、研究コースと専門看護師コースを設け、次のような教育課程を編成している。

1. 広い視野で看護を学ぶための学際的な科目から構成されている「共通科目A」「共通科目B」各研究教育分野におけるより深い専門性を学ぶ「看護専門科目」を置いている。
「共通科目A」は研究コース・専門看護師コースのどちらの学生でも履修できるように配置している。
2. 論文作成にあたっては、中間報告会などにより研究プロセスを段階的に学んでいくことができるように、全学的な指導体制をとっている。
3. 専門看護師コースでは、特定分野におけるケアとキュアを融合した看護実践力、保健医療福祉チーム内の調整力などの育成をめざし、看護実践力の高い専門看護師とタイアップして日本看護系大学協議会で認定された専門看護師教育を展開している。
4. 国際的な視野をもち、より効果的な看護を探求し提供していくために、海外の招聘教員による国際看護を学ぶ科目を置いている。

5.1.1.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、学際的で深い科学的知識と高い研究能力・実践能力を有する者に修士(看護学)の学位を授与する。そのためには、以下の学習成果をあげることが求められる。

1. 各分野における修士論文の作成を通して、体系的な研究方法を身に付ける。
2. 専門看護師コースの修了者は、特定の看護分野における高度な知識と技術を身に付ける。
さらに、総合的な判断力をもって組織的に問題解決をはかる能力を身に付ける。

5.1.2　博士後期課程（博士）

5.1.2.1　教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中にあって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.2.2　教育目標

1. 看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成
看護・保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化や地域の要請に対応することができる高度

で専門的な知識・技術と、総合的判断力、リーダーシップを備えた看護職を養成する。また、これまで蓄積された経験知や実践知に基づいてより効果的な看護ケアプログラムを開発していくとともに、健康に関する人々の反応や看護援助にまつわる専門的知識を系統的に理解し、諸科学の知見と関わらせながら看護学をさらに体系化し、かつ現代社会の変化や趨勢に照らして看護が果たすべき役割を発展的、科学的、体系的かつ原理的に探求していくことができる教育者・研究者を育成する。

2. 科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成

地域社会並びにそこで生活するあらゆる健康レベルの人々やその家族に対して総合的なヘルスケアをデザインするために、高度な理論・方法など学際的な知識体系を修得・活用して新しい看護実践方法、環境、用具等の開発を行なう。さらに、それらの実践の場における有用性の検証を図り、実践に活かせるエビデンスを明らかにできる研究者を育成する。

3. 対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の育成

効果的な看護ケアプログラムの開発、あるいは対象者個々の個別性を踏まえ、その人たちが帰属する地域の文化的特性を踏まえた看護援助の開発、エビデンスに基づいた看護援助法の確立をめざした高度の研究を継続的に推進していくことのできる研究者を育成する。

5.1.2.3　アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人
2. 看護の専門的知識・実践力と研究能力を自ら発展させる意志を有する人
3. 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
4. 看護学を通じて地域社会および国際社会に貢献する意志を有する人

5.1.2.4　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士後期課程では、看護学や看護実践の発展に寄与する研究者・教育者を育成するために、教育課程においては次のような点を重視している。

1. 広い視野で看護をとらえ、看護プログラムなどをデザインし発展させる能力、看護実践のもととなる原理を解明する能力を身につけるために、組織的な研究指導をする。
2. 学位論文の審査にあたっては、他の大学院等の教員を審査委員に加える等、論文の質の向上と客観性の確保に努める。

5.1.2.5　ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、学位論文において新しい知見を産出して、看護学や看護実践の発展に寄与する研究能力を有する者に博士(看護学)の学位を授与する。

5.2　大学院生の入学・在学・修了の状況

1．入学の状況

1）入学定員・収容定員

単位（人）

課　　程	入学定員	収容定員
博士前期課程	10	20
博士後期課程	3	9

2）試験実施日

	実施日
博士前期課程入学試験	平成28年 9月24日（土）
博士前期課程入学試験（第2次募集）	平成29年 1月28日（土）
博士後期課程入学試験	平成28年 9月24日（土）
博士後期課程入学試験（第2次募集）	平成29年 1月28日（土）

3）受験状況等

単位（人、倍）

	募集定員 A	志願者数 B	志願倍率 B/A	受験者数 C	受験倍率 C/A	合格者数 D	実質倍率 C/D	入学者数
博士前期課程	10	6	0.6	6	0.6	6	1.0	6(5)
博士前期課程2次	若干名	3	－	3	－	1	3.3	1(1)
博士後期課程	3	1	0.3	1	0.3	0	－	－
博士後期課程2次	若干名	4	－	4	－	4	1.0	4(4)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2．在学の状況（平成29年3月1日現在）

単位（人）

課　　程	1年次	2年次	計
博士前期課程	7(7)	14(14)	21(21)

課　　程	1年次	2年次	3年次	計
博士後期課程	3(3)	0(0)	10(9)	13(12)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

3．修了の状況

1）修了者数と修了後の進路状況　（平成29年3月31日現在）

単位（人）

課　　程	修了者数	修了後の進路
博士前期課程第12期生	8(8)	医療機関、教育機関
博士後期課程第 9期生	3(3)	教育機関

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2）修了後の進路状況（平成29年3月31日現在）

(1) 博士前期課程（第12期生）

単位（人）

区　　分		県内 人数	県外 人数	合計 人数
就　職	医　療　機　関	5	1	6(6)
	研　究　機　関	0	0	0(0)
	教　育　機　関	2	0	2(2)
	保健・福祉機関	0	0	0(0)
合　　計		7	1	8(8)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

単位（人）

区　　分		県内 人数	県外 人数	合計 人数
進　学	大学院博士後期課程	0	0	0(0)
	そ　の　他	0	0	0(0)
合　　計		0	0	0(0)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 博士後期課程（第9期生）

単位（人）

区　　分		県内 人数	県外 人数	合計 人数
就　職	医　療　機　関	0	0	0(0)
	研　究　機　関	0	0	0(0)
	教　育　機　関	1	2	3(3)
	保健・福祉機関	0	0	0(0)
未　　定		0	0	0(0)
合　　計		1	2	3(3)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

5.3　大学院教務学生委員会

委 員 長：牧野 智恵　教授（研究科長）
委　　員：小林教授、大木教授、川島教授（学長補佐）、林教授
事 務 局：寺訳教務学生課長、納橋専門員
活動内容：

1. 大学院教務に関する以下の事項について審議・実施し、必要事項は研究科委員会で審議・報告し、大学院運営を行った。
   1）年度初めに新入生および在校生へのガイダンスを行い、次年度に向けて、ガイダンススケジュールの検討を行った。
   2）修士論文・博士論文に関する検討・審議を行った。
      修士論文（7件）の中間評価委員、博士論文（3件）の予備審査委員を決定した。また、本年度は1名の秋季修了生のために、研究科委員会の開催を増やし、秋季修了生の修士論文提出締め切り・発表会の実施等について審議した。
      その他の修士論文に関しては、予定通り、4月に修士中間報告会（7名発表.参加者59名）、2月に修士論文発表会（7名発表.参加者71名）を実施し、研究科委員会にて合否の判定を行った。博士論文の中間報告会は該当者がおらず実施しなかった。今年度修了予定の博士課程の学生3名については、10月31日の予備審査申請締め切りまでに、3名の提出があり、3名とも予備審査・本審査に合格し、2月に博士論文を発表した（参加者70名）。研究科委員会にて審議の結果、3名が合格となった。
   3）既修得単位、14条学生、長期履修生、科目等履修生、休学・復学の認定を行った。
   4）前期・後期成績判定、学位授与・修了判定を行った。
   5）非常勤講師、院内講義担当者、実習施設に関する事項の申請を受けて検討した。
   6）時間割の作成、大学院便覧の作成を実施した。

2. 大学院における高度実践看護師教育（CNSコース、助産課程およびナースプラクティショナー（NP）教育）における特別研究の単位の検討
   他大学院における、高度実践看護師教育課程の特別研究の履修単位を参考に、本大学院での単位を、現行の6単位から4単位とするか否かについて検討した。検討した結果、現在のCNSの役割として、現場の看護実践の向上のために研究することが大きな役割であることから、しばらくは6単位とすることとなった。

3. 博士論文ガイドライン「2.学位申請のための要件」の検討
   博士論文の学位申請のための要件において、ガイドラインでは学術雑誌に原著論文が掲載されていることが条件となっているが、研究内容や時期があいまいであることから、「博士論文の内容に関連した論文を、学術雑誌（査読有り）に筆頭著者として1編以上公表していること。ただし、この論文が原著論文でない場合には、これ以外に1編以上の原著論文（査読有り）を学術雑誌に筆頭著者として公表していること。どちらの場合も掲載決定でも可」に変更することを検討し、研究科委員会で審議し決定となった。次年度入学生から適用する。

4. 専門看護師コースの受験生の増加および実習場所拡大を目的に、昨年度に続き6回目の「北陸3県看護部長懇談会」を実施し、13名の看護部長等の参加のもとに意見交換をした。

5.「院生との懇談会（9月,2月）」開催、院生のニードの把握に努め、連絡徹底、博士前期課程および後期課程の発表会日程の検討などを実施した。

6. 平成28年度の便覧作成において、表1の様式が検討され、研究科コースとCNSコースとを別にした表となった。今年度は、院生からの見にくさなどを聞き取り、問題ないとのことで、微細な修正を行い、来年も同表を使用することとした。

7. 学部の9月卒業が認められたことから、大学院においても9月修了を検討し、平成28年度は9月に1名の修了生を出した。しかし、基本的には、春のみとすることとし、次年度は秋期修了は実施しない予定とした。

5.4　大学改革委員会　大学院・専攻科検討班

4.4.2.3.2　大学院・専攻科検討班（44頁）を参照のこと。

5.5　平成28年度　修士論文題目一覧

分　　野	氏　　名	論　　文　　題　　目	担当教員
子どもと家族の看護学	長村　純子	重症心身障害児の母親への「タッチケアを介在させた母子相互作用促進の援助」の効果	西村真実子
看護管理学	小畑　静香	訪問看護師が実践する在宅療養高齢者に対する転倒予防ケアの構造	丸岡　直子
女性看護学	渡部香名映	双子の母親と共に双子育児を行う祖母の生活の実態と適応状況 －孫二人の世話が中心となる祖母の生活－	濵　　耕子
看護デザイン	石井　和美	保湿成分が含まれた不織布タオルによる部分清拭が高齢者の皮膚に与える影響	川島　和代
子どもと家族の看護学	千原　裕香	高校生のための「親子交流を通して親になることを考えるプログラム」の効果と課題	西村真実子
成人看護学	田中　陽子	クリティカルケア看護師の患者の《記憶のゆがみ》に対するアプローチの特徴	村井　嘉子
成人看護学	籔下　佳子	排泄環境におけるシクロホスファミド汚染の実態 ～乳がん患者の抗がん剤治療後の調査から～	牧野　智恵
老年看護学	芳原　由衣	地域包括ケア病棟・病床への移行支援における看護師の判断	川島　和代

5.6　平成28年度　博士論文題目一覧

氏　　名	論　　文　　題　　目	担当教員
大脇万起子	軽中度知的障害児への看護師によるデイケアサービスの提案 －調理プログラムを手がかりとした看護師役割の検討－	石垣　和子
久米　真代	中等度・重度認知症高齢者のがん性疼痛評価尺度の開発 －信頼性・妥当性の予備的検証－	川島　和代
笠井　恭子	1年間の追跡調査による特別養護老人ホーム入居者の夜間睡眠の特徴と関連要因	川島　和代

6. 教員の業績

6.1 書　　籍

6.1.1 書 籍（著 書）

浅見洋 （単著）: 西田幾多郎の姪 高橋ふみの生涯と思想 おふみさんに続け！ 女性哲学者のフロンティア. ポラーノ出版, 東京, 2017.3

石垣和子 （分担執筆）: 日本の在宅看護の成立, 日本の在宅看護をめぐる社会文化的背景, 在宅看護の法的基盤とシステム, 在宅看護の姿勢・考え方と看護家庭の展開. 石垣和子, 上野まり（編集）: 在宅看護論 改訂第2版. 南江堂, 東京, 2017.1

大木秀一 （単著）: 基本からわかる 看護統計学入門 第2版. 医歯薬出版社, 東京, 2016.9

Ooki S. （分担執筆）: [Chapter 8] Child Maltreatment Associated with Multiple Births in Japan. Angelo P. Giardino (eds.) : Child Maltreatment: Emerging Issues in Practice, Care and Prevention. Nova Science Publishers, NY, 2016.5

大木秀一 （分担執筆）: ライフコースアプローチ ー人生を通して健康を考える. 花田信弘, 武内博朗(編著) : 歯科発 ヘルシーライフプロモーションⅡ. デンタルダイヤモンド社, 東京, 2017.3

垣花渉 （分担翻訳）: 第1章 運動の記述、第4章 走動作, 跳躍動作, 投動作. 鈴木秀次（総監訳）: ニューロメカニクス. 西村書店, 東京, 2017.2

加藤穣 （単著）: English Fundamentals for Nursing Students (Third Edition). 三恵社, 愛知, 2017.3

金子紀子 （分担執筆）: 生活支援・介護予防. 石垣和子, 上野まり（編集）: 在宅看護論 改訂第2版. 南江堂, 東京, 2017.1

川島和代 （分担執筆）: 基礎知識編, 実践編. 介護職員関係要請研修テキスト作成委員会編集 前沢政次 : 医療的ケア 介護職員による喀痰吸引, 経管栄養 第2版3刷. 一般社団法人 長寿社会開発センター, 東京, 2016.6

木森佳子 （分担執筆）: 採血に必要な肘窩の解剖学を学ぼう. Medical Technology. 医歯薬出版株式会社, 東京, 2016.10

小林宏光 （分担執筆）: 3章1.1. 心拍変動による自律神経活動計測, 14 個人差研究の歴史. 宮﨑良文（編著）: 自然セラピーの科学. 朝倉書店, 東京,

曽根志穂 （分担執筆）: 第2章2節 高齢化の進行と高齢者のとらえ方. 石垣和子, 上野まり（編集）: 在宅看護論 改訂第2版. 南江堂, 東京, 2017.1

多久和典子, 多久和陽 （共著）: なるほどなっとく 解剖生理学. 南山堂, 東京, 2017.4

徳田真由美 （分担執筆）: リハビリテーション専門職との連携, 終末期の療養者への在宅看護, 移動の援助. 石垣和子, 上野まり（編集）: 看護学テキストNiCE 在宅看護論 改訂第2版. 南江堂, 東京, 2017.1

中道淳子 （分担執筆）: 第7章E1-c 睡眠障害を起こす認知症高齢者の看護, 第7章G1介護保険制度におけるサービス, 第7章G4 次世代の認知症サポーターの育成. 水谷信子（監修）高山成子（編集）: 最新老年看護学 第3版 2017年度版. 日本看護協会出版会, 東京, 2016.11

林一美 （分担執筆）： “現場の声”を参考にしてよりよい“在宅看護”実習をめざす．川村佐和子他編集：訪問看護師・教員・学生全てが成長できる在宅看護学実習．日本看護協会出版会，東京，2017.3

林静子 （分担執筆）： 第4章 活動・休息援助技術，第5章 苦痛の緩和・安楽確保の技術．任和子（著者代表）：系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ．医学書院，東京，2017.1

松原勇 （単著）：保健統計学の研究の事例．自費出版，石川，2016.10

丸岡直子 （分担執筆）： 退院支援のあり方と看護職どうしの連携．石垣和子，上野まり（編集）：在宅看護論 改訂第2版．南江堂，東京，2017.1

6.2 学術論文

6.2.1 査 読 有

浅見洋： 田辺元における死者と生者の実存協同について．比較思想研究，43，9-14，2017.3

浅見洋： 寸心・大拙の思想を育んだ北陸宗教風土．北陸宗教文化，30，2017.3

石垣和子，金子紀子，大湾明美，曽根志穂，塚田久恵，宮崎美砂子，山本春江，織田初江，阿部智恵子，川島和代，浅見洋，*角地孝洋： 半島地域における保健師活動の特徴．石川看護雑誌，14，71-83，2017.3

Tsujimura M.,Ishigaki K.,Yamamoto-Mitani N.,Fujita J. et.al： Cultural characteristics of nursing practice in Japan. International Journal of Nurisng Practice, 22(Suppl. 1), 56-64, 2016.4

磯光江，森田聖子，久米真代，高山成子： 血液透析を受ける認知症高齢者に対する透析看護認定看護師の困難と工夫．日本腎不全看護学会誌，18(2)，92-100，2016.11

磯光江，*城戸口雅子，*小泉花奈，*河口祐介，*藤沢愛里，森田聖子，中道淳子： 笑いヨガを構成する感覚刺激が脳血流に及ぼす影響－酸素化ヘモグロビンの変化値での検討－．石川看護雑誌，14，135-140，2017.3

Hayashi-Miyamoto M., Murakami T., Minami-Fukuda F., Tsuchiaka S., Kishimoto M., Sano K., Naoi Y., Asano K., Ichimaru T., Haga K., Omatsu T., Katayama Y., Oba M., Aoki H., Shirai J., Ishida M., Katayama K., Mizutani T., Nagai M.： Diversity in VP3, NSP3, and NSP4 of rotavirus B detected from Japanese cattle. Infection, Genetics and Evolution, 49, 97-103, 2017

今井美和，吉田和枝，塚田久恵，*善野由希栄，*中村瑠乃，*水野珠里： 看護系女子大学生が実施した女子高校生への子宮頸がん予防啓発活動の効果．石川看護雑誌，14，59-69，2017.3

酒井伸隆，南貴博，松井諭，大江真吾，谷本千恵： 精神科男性看護師のワークライフバランスと支援ニーズの実態 医療介護職の妻を持つ子育て世代へのインタビューより．日本看護学会論文集：看護管理，46，270-273，2016.4

大木秀一，彦聖美： 日本における多胎育児支援の歴史的変遷と今日的課題．石川看護雑誌，14，1-12，2017.3

彦聖美，宮下陽江，中村悦子，鈴木祐恵，新田大貴，川西早苗，大木秀一： 能登地域における家族介護者と支援者の当事者グループ活動の実態及び介護者支援のニーズ －男性介護者・

家族介護者サポートネットワークシステム構築に向けた取り組みからー．石川看護雑誌，14，85-93，2017.3

Yokoyama Y., Jelenkovic A., Sund R., Sung J., Hopper JL., Ooki S., Heikkilä K., Aaltonen S., Tarnoki AD., Tarnoki DL., Willemsen G., Bartels M., van Beijsterveldt TC., Saudino KJ., Cutler TL., Nelson TL., Whitfield KE., Wardle J., Llewellyn CH., Fisher A., He M., Ding X., Bjerregaard-Andersen M., Beck-Nielsen H., Sodemann M., Song YM., Yang S., Lee K., Jeong HU., Knafo-Noam A., Mankuta D., Abramson L., Burt SA., Klump KL., Ordoñana JR., Sánchez-Romera JF., Colodro-Conde L., Harris JR., Brandt I., Nilsen TS., Craig JM., Saffery R., Ji F., Ning F., Pang Z., Dubois L., Boivin M., Brendgen M., Dionne G., Vitaro F., Martin NG., Medland SE., Montgomery GW., Magnusson PK., Pedersen NL., Aslan AK., Tynelius P., Haworth CM., Plomin R., Rebato E., Rose RJ., Goldberg JH., Rasmussen F., Hur YM., Sørensen TI., Boomsma DI., Kaprio J., Silventoinen K.： Twin's birth-order differences in height and body mass index from birth to old age: a pooled study of 26 twin cohorts participating in the CODATwins project. Twin Research and Human Genetics, 19(2), 112-124, 2016.4

大西陽子，村井嘉子： クリティカルケア領域における人工呼吸器装着患者の鎮静深度と体験の関連性－2006 ～ 2016年海外文献による検討ー．石川看護雑誌，14，95-102，2017.3

Kato, Y.： Ethical, legal and social implications (ELSI) of the emerging use of communication robots in care settings (Scientific contribution). Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine , 10, 3-12, 2016.12

金子紀子，石垣和子： 幼児を育てる母親の育児マスタリーに影響する要因の検討ー母親の近所とのつながりに着目してー．石川看護雑誌，14，23-34，2017.3

*小田沙矢香,川島和代： 急性期一般病棟における看護師の認知症高齢者への共感に関連する要因．日本看護研究会雑誌，39(1)，33-42，2016

北岡和代，増田真也，佐々木恵，長田恭子，森岡広美，川村みどり，中本明世，川口めぐみ，坂上章，竹澤翔：『日本版Areas of Worklife Survey (AWS)-2011年版：個人と職場環境6つのミスマッチ診断』の妥当性について．看護実践学会誌，29(1)，19-25，2016.9

Kimori K., Junko S. ： Investigation of vasculature haracteristics to improve venepuncture techniques in hospitalized elderly patients. International Journal of Nursing Practice, 22(3), 300-306, 2016.5

*笠井恭子，小林宏光，川島和代： 要介護高齢者の睡眠状態と睡眠の季節差；北陸地方の特別養護老人ホームにおける長期追跡調査から ．日本老年看護学会誌，21 (1)，19-27，2016.7

*笠井恭子，小林宏光，川島和代： 特別養護老人ホーム入居者の夜間の排泄ケアと睡眠状態との関連．日本老年看護学会誌，22(1)，51-58，2017.1

曽根志穂，武山雅志，金谷雅代，林静子，石垣和子： 東日本大震災被災地における公立看護系大学の学生災害ボランティア活動の実態と課題―今後の学生災害ボランティア活動とその支援の考察―．石川看護雑誌，14，127-134，2017.3

Yayama S., Tanimoto C., Suto S.,Matoba K., Inoue M., Endo Y., Yamakawa M., Makimoto K.： Analysis of inedible substance ingestion at a Japanese psychiatric hospital. Psychogeriatrics, doi:10.1111/psyg.12237, 2017.1

*松井久美，*上田桃子，*高本奈瑠美，田村幸恵，川島和代： 認知症高齢者にメモリーブックを活用したケアの効果 ．石川看護雑誌，14，103-110，2017.3

寺井梨恵子，丸岡直子，林静子： 看護場面における視線解析を用いた研究の動向と今後の課題．石川看護雑誌，14，13-22，2017.3

寺井梨恵子，丸岡直子，林静子，小林宏光： 転倒リスク場面観察時における新人看護師と熟練看護師の眼球運動の特徴．看護人間工学研究誌，16，55-61，2017.3

徳田真由美，辻村真由子，石垣和子： 沖縄に暮らす高齢者の排泄に関する意識調査．石川看護雑誌，14，121-126，2017.3

Hasegawa N.，Mochizuki M.，Kato M.，Yamada T.，Shimizu N.，Torii A.： Serum 1, 25-hydroxyvitamin D: a useful index of cognitive and physical finctional impairment in healthy older adults in Japan: a pilot study. Health，8，1679-1686，2016.12

時山麻美，牧野智恵： ピアサポートを受けたがん患者の体験．石川看護雑誌，14，35-45，2017.3

松本友梨子，牧野智恵： 乳がん患者とその子どもへの支援プログラムの検討―親子への支援の試みを手がかりに―．石川看護雑誌，14，47-58，2017.3

*籔下佳子，牧野智恵： 北陸3県の一般病院における抗がん剤曝露防止支援の実態調査．石川看護雑誌，14，111-120，2017.3

Yoneda M.， Shimada K.： Validity on tentative design of a regional cooperation system for post-discharge perinatal grief care by the Delphi method(博士論文). Journal of the Tsuruma Health Science Society, Kanazawa University, 40(1), 21-33, 2016.9

6.2.2 査 読 無

浅見洋： 日本人における死生観の変容とエンド・オブ・ライフケア．看護技術，62(12)，14-17，2016.10

川島和代，*橋本智江： 介護と看護のより良い連携に向けた教育デザイン．地域ケアリング，19(2)，82-85，2017.2

6.3 その他の原稿

浅見洋： 回顧と抱負－哲学館長に就任して－(エッセイ)．西田哲学会会報，14，2016.11.30

浅見洋： 随想断片集一吹き来る風に，石川県立看護大学人間科学領域，全118頁，2017.3

阿部智恵子： 地方都市における地域福祉活動の創出と変遷－金沢善隣館の活動を通して－．参加と批評，第10号，171-177，2016.3

石垣和子： 「ペットの家族化」から思うこと．家族療法研究，33(3)，359，2016.12

岩城直子： FD・SD講演会「多様な価値観に基づく意思決定への支援ーがん治療の選択における倫理的問題」を開催して．平成28年度北陸がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告書，42，2017.3

大木秀一：【8020特別対談】ライフコースアプローチの観点から、歯科医療・口腔保健を見直す．会誌8020(公益財団法人8020推進財団)，16，26-36，2017.3

大木秀一： 多胎児家庭の育児支援に役立つ図と表 2017(平成29)年作成版，1-21，2017.3

大木秀一： 2016年度石川県立看護大学学内研究助成報告書 『多胎児用母子健康手帳』作成に向けて 全国多胎サークル代表者に対する意識調査結果および全国3地域での多胎育児支援事業報告，1-18，2017.3

大北全俊，遠矢和希，加藤穣，Franziska Kasch，花井十伍，横田恵子： HIV感染症における倫理的課題に関する研究．平成28年度 厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)研究報告書，170-174，2017.5

清水暢子： 「北陸発！男女共同参画社会の裏事情」．NPO法人イージェイネット メールマガジン(特定非営利活動法人 イージェイネット（女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会))，第74号，http://www.ejnet.jp/media/backnumber_074.html，2016.4

多久和典子： 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック 第2版(書評)．週刊医学界新聞 for Nurses，第3，188号，p.6，2016.8

北村立，谷本千恵，大江真吾，岡田幸子，竹下理代，福井可奈絵： 単身認知症者に対する訪問看護の効果に関する研究ー家族介護者へのインタビューよりー．厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)「精神科病院に入院する認知症高齢者の実態調査－入院抑制、入院期間短縮、身体合併症医療確保のために研究」分担研究報告書，9-14，2017.1

牧野智恵： 北陸高度がんプロチーム養成基盤版形成プランの概要と本学におけるがん看護専門看護師養成の成果．北陸がんプロ報告書，2-3，2017.3

牧野智恵： 本学におけるインテンシブコースの成果－「インテンシブA」「地域がん看護師養成コース」「地域がん看護活性化コース」－．北陸がんプロ報告書，7-9，2017.3

牧野智恵: 「みんなで取り組もう抗がん剤曝露対策」公開講演を実施して．北陸がんプロ報告書，19，2017.3

牧野智恵： 5年間の北陸高度がんプロチーム養成基盤版形成プランを振り返って．北陸がんプロ報告書，54，2017.3

6.4 学会発表

浅見洋： 田辺元における死者と生者の実在協同について(シンポジウム発題)， 比較思想学会第43回大会，大阪，2016.6

浅見洋： 死生観と看取りケア(教育講演)，第47回日本看護学会，金沢，2016.9

浅見洋： 寸心・大拙の思想を育んだ北陸宗教風土(基調講演)， 第23回北陸宗教文化学会， かほく市，2016.10

浅見洋： 日本人の死生観とエンドオブライフケア(記念講演)， 日本エンドオブライフケア学会設立総会，東京，2016.10

浅見美千江，浅見洋，彦聖美： 自宅で親を看取った経験について(第2報)－介護期間に体験したゆらぎと支えー(口演)， 第18回日本在宅医学学会大会第21回日本在宅ケア学会学術集会合同大会，東京，2016.7，第18回日本在宅医学学会大会第21回日本在宅ケア学会学術集，259，2016

伊藤智子，加藤真紀，阿川啓子，浅見洋： 中山間地域に暮らす人の死生観と終末期ケアニーズ：3年間の変化(ポスター発表)， 第18回日本在宅医学学会大会第21回日本在宅ケア学会学術集会合同大会，東京，2016.7，第18回日本在宅医学学会大会第21回日本在宅ケア学会学術集，392，

2016

加藤真紀，伊藤智子，阿川啓子，浅見洋： 島根県の市街地と中山間地域に暮らす人の死生観と終末期ケアニーズ(ポスター発表)， 第18回日本在宅医学学会大会第21回日本在宅ケア学会学術集会合同大会， 東京， 2016.7， 第18回日本在宅医学学会大会第21回日本在宅ケア学会学術集，392，2016

阿川啓子，伊藤智子，加藤真紀，浅見洋： 中山間地域での終末期における介護者への希望と理想的な死の関係(ポスター発表)， 第18回日本在宅医学学会大会第21回日本在宅ケア学会学術集会合同大会，東京，2016.7，第18回日本在宅医学学会大会第21回日本在宅ケア学会学術集，393，2016

阿部智恵子： 白山市における子育て支援の現状と課題， 日本都市学会第63回大会， 岡崎市，2016.10，日本都市学会第63回大会報告要旨集，134-135，2016

Ito R.，Amemiya Y.，Tujimura M.，Shimamura A.，Kamei Y.，Yoshida C.，Ishigaki K/：The Process Causing Moral Distress Experienced by Care Managers in Japan，19th EAFONS，千葉，2016.3

阿川啓子，石垣和子： ソーシャルキャピタルの活用に関する訪問看護師の母親支援における文化看護の一考察―医療依存度の高い乳幼児期の子供を療育する母親を対象にして―， 第８回文化看護学会，千葉，2016.5

Ishigaki K.， Ohwan A.， Miyazaki M.， Yamamoto H.， Kaneko N.， Tsukada H.， Agawa K.，*Yonezawa H.， Sone S.， Kakuchi T.， *Kitano H.：Changes and Current Appearance of Japanese PHNs Activity，International Collaboration for Community Health Nursing Research Symposium 2016，UK，2016.9

*北野浩子，角田雅彦，石垣和子： 発達障害児の母親は乳幼児健診を通じた保健師の支援をどのように認識しているか，第75回公衆衛生学会，大阪，2016.10

*米澤洋美，石垣和子： 全国のシルバー人材センター会員の健康管理に関する実態調査， 第5回公衆衛生看護学会，仙台，2017.1

阿川啓子，石垣和子： 病児の療養生活へのソーシャルキャピタルの活用-地域文化の影響についての一考察-，第9回文化看護学会，那覇，2017.3

石川倫子： 基礎教育修了時の看護技術の到達度と到達を難しくしている要因に関する調査， 第26回日本看護学教育学会，東京，2016.8，第26回日本看護学教育学会，26，205，2016

大木秀一，彦聖美： 多胎児に対する低出生体重児の概念の妥当性に関する実証研究， 第86回日本衛生学会，旭川，2016.5，日本衛生学雑誌，71，Suppl，S206，2016

大木秀一：ライフコース疫学における栄養の意義(シンポジウム　NCD予防対策における栄養と口腔保健の連携の必要性)，第65回日本口腔衛生学会，東京，2016.5，日本衛生学雑誌，63(10)，194，2016

大木秀一： ライフコースアプローチとふたご研究(シンポジウム　遺伝学を通してヒトを理解する)，第74回日本生理人類学会，石川，2016.10，日本生理人類学会誌，21(2)，23，2016

大木秀一： 双生児データに基づくライフコースアプローチの可能性(シンポジウム　ふたごが拓く予防医学の未来：ツインリサーチの可能性)，第75回日本公衆衛生学会，大阪，2016.10，日本公衆衛生学会誌、第75回日本公衆衛生学会総会抄録集，63(10)，526，2016

大木秀一，彦聖美：多胎育児支援の実態に関する全国調査とセルフヘルプグループとしての意義，

第75回日本公衆衛生学会，大阪，2016.10，日本公衆衛生学会誌，第75回日本公衆衛生学会総会抄録集，63(10)，194，2016

彦聖美，大木秀一：高齢期の妻や親を介護する男性介護者の全国実態調査，第75回日本公衆衛生学会，大阪，2016.10，日本公衆衛生学会誌，第75回日本公衆衛生学会総会抄録集，63(10)，511，2016

大木秀一：当事者が参加する強みを生かして(シンポジウム　当事者が参加する強みを生かして)，日本双生児研究学会第30回学術講演会，埼玉，2017.1，日本双生児研究学会第31回学術講演会　プログラム・抄録，22，2017

大木秀一，彦聖美：多胎サークルに関する全国実態調査，日本双生児研究学会第30回学術講演会，埼玉，2017.1，日本双生児研究学会第31回学術講演会　プログラム・抄録，16，2017

垣花渉：課題基盤型学習を通して自らの健康を自らで管理する力を育てる，初年次教育学会第9回大会，徳島，2016.9，初年次教育学会第９回大会発表要旨集，52-53，2016

垣花渉：健康づくりをとおして「社会をつくる力」を育てる，Matching HUB　Kanazawa 2016，金沢，2016.11，Matching HUB　Kanazawa 2016要旨集，255，2016

加藤穣，大北全俊，遠矢和希，中村フランツィスカ：HIV/AIDSの検査に関する倫理的議論の変遷につい -海外での文献調査をもとに，日本医学哲学・倫理学会第35回大会，兵庫，2016.11，日本医学哲学・倫理学会，2016

金谷雅代，西村真実子，千原裕香，本部由梨，柏女霊峰：在宅育児家庭における『通園保育』利用の効果の検討，第57回日本母性衛生学会，東京，2016.10，第57回日本母性衛生学会学術集会抄録集，268，2016

Kaneko N，Ishigaki K：Comparison of child-rearing circumstances in urban and rural regions of a prefecture in Japan，The3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing，Busan，Korea，2016.7

金子紀子，石垣和子，大湾明美，宮崎美砂子，山本春江，*米澤洋美，塚田久恵，*阿川啓子，曽根志穂，*角地孝洋，*北野浩子：近年の地域保健を取り巻く地区の変化と保健活動の方法に関する研究，第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016.10，第75回日本公衆衛生学会総会抄録集,63(10)，618，2016

金子紀子，石垣和子：子育て中の母親の子育て観と「おさがり」文化との関連，文化看護学会第9回学術集会，沖縄，2017.3

川島和代：ヒトはどのように高齢期を生きるか　日本生理人類学会　シンポジウム2　テーマ「看護学と生理人類学の接点」，日本生理人類学会　第74回大会（大会長小林宏光），石川県七尾市和倉温泉観光会館，2016.10，日本生理人類学会誌，21特別号(2)，28，2016

邑井志帆，北山幸枝：養護教諭が行う湿潤環境理論に基づく創傷処置の実際，第25回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会，金沢，2016.6，日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌，20(2)，222，2016

木森佳子，紺家千津子，松本勝：高齢者の静脈穿刺後皮下出血における皮膚バリア機能の評価，第25回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会，金沢，2016.6，日本創傷・オストミー・失禁管理学会第25回学術集会抄録集，20(2)，228，2016

*松山未佳，*沢田眸，*野田咲央里，木森佳子，田淵知世：入院患者の清潔方法の違いによる皮膚バリア機能への影響－医療関連機器による皮膚障害のケアー，日本看護技術学会第15回学術集

会，高崎，2016.9，日本看護技術学会第15回学術集会講演抄録集，67，2016

古市佑哉，木森佳子，久保守，佐藤賢二： Windowsタブレットと深度センサ付きカメラを用いた安価な穿刺支援システムの試作， 第4回看護理工学会学術集会， 岩手， 2016.10， 第4回看護理工学会学術集会プログラム･抄録集，51，2016

S.Sakurai，Y.Kohno，N.Sakurai：Japanese Family Caregivers Suffer More Stress Than They Realize，The 20th East Asian Forum OF Nursing Scholars，Hong Kong，2017.3

桜井志保美，河野由美子，前川厚子： 在宅療養者の家族介護者におけるレスパイトケア利用による 睡眠の変化，第36回日本看護科学学会学術集会，東京，2016.12

Shimizu N，Umemura T，Matunaga M，Hirai T：Interventions to help the rehabilitation of patients with schizophrenia living in the community: Use of a virtual reality sports game,，International Conferences on Community Health Nursing Research 2016 symposium，in U.K，2016.9，International Conferences on Community Health Nursing Research，19，2016

Shimizu N，Umemura T，Matunaga M，Hirai T：Effects of Movement Music Therapy on the Cognitive Function of Elderly Individuals with MCI，The 3rd Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing in Busan，in Korea，2016.7，Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing，15，2016

曽根志穂： 神経難病患者と介護サービス事業者への保健師による在宅療養支援方法の検討
日本公衆衛生学会，大阪，2016.10，第75回日本公衆衛生学会総会抄録集，63(10)，539，2016

曽根志穂,塚田久恵,金子紀子,石垣和子： 地域の高齢者とその家族への家庭訪問演習における学生の学び， 日本公衆衛生看護学会， 仙台， 2017.1， 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集，189，2017

*中谷朱里,曽根志穂,石垣和子： I県内市町における災害時避難行動要支援者支援制度の現状と保健師活動との連携について， 日本災害看護学会， 久留米， 2016.8， 日本災害看護学会誌，18(1)，141，2016

Sone S.：Current state of and problems related to student disaster volunteer activities conducted by Japanese public nursing colleges，The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars，香港，2017.3

Sho Aki，Kazuaki Yoshioka，Yasuo Okamoto，Noriko Takuwa and Yoh Takuwa：Phosphatidylinositol 3-kinase class IIαisoform PI3K-C2α is required for transforming growth factor β-induced receptor endocytosis and endosomal signaling in endothelial cells.（シンポジウム　招待講演），The 2nd Spring Special Symposium of the Japanese Vascular Biology and Medicine Organization ，大阪，2016.6.3 ，Abstract of the 2nd Spring Special Symposium of the Japanese Vascular Biology and Medicine Organization，，p.18，2016

岡本安雄,杜娃,崔弘,吉岡和晃,多久和典子,多久和陽： S1P2 による血管新生と血管障壁機能の制御 （シンポジウム　招待講演），第58回 日本脂質生化学会　2016年6月9～10日　にぎわい交流館AU（あう）（秋田県秋田市）（シンポジウム：リゾリン脂質による血管新生制御），秋田，2016.6.10，脂質生化学研究，58，10，2016

多久和典子， 岡本安雄， 多久和陽： 宿主細胞のスフィンゴシン-1-リン酸受容体を介する がん

血行性転移の制御, 第26回日本病態生理学会大会, 石川, 2016.8.6, 日本病態生理学会雑誌, 25(2), 40, 2016

Yasuo Okamoto, Hong Cui, Kazuaki Yoshioka, Noriko Takuwa, Toshishige Shibamoto, Yoh Takuwa. : S1P2, a receptor for the lysophospholipid mediator sphingosine 1-phosphate,protects against vascular barrier disruption. (シンポジウム 招待講演). , International Shock Congress Symposium "Microcirculation and endothelial damage in sepsis and shock" , 東京, 2016.10.5, Shock , 46, Suppl 2, 28, 2016

Sho Aki, Kazuaki Yoshioka, Yasuo Okamoto, Noriko Takuwa, Pham Quynh Hoa, MD Azadul Kabir Sarker, Khin Thuzar Aung, Shahidul Islam, Yoh Takuwa. : Phosphatidylinositol 3-kinase class Iiα isoform PI3K-C2α is required for transforming growth factor β-induced receptor endocytosis and endosomal signaling in endothelial cells., 第39回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016.11.30, Abstract of the 39th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan , p.264, 2016

Kazuaki Yoshioka, Sho Aki, Noriko Takuwa, Yoh Takuwa. : Endothelial Class II PI3K-C2α is Necessary for Vasucular Formation and Integrity through Regulating Endocytic Membrane Trafficking. (シンポジウム "Endothelium, health and diseases" 招待講演), 第81回日本循環器学会学術集会, 金沢, 2017.3.18, Program of the 81st annualscientific meeting of the Japanese circulation society, , p. 256, 2017

Pham Quynh Hoa, Kazuaki Yoshioka, Sato Nakamura, MD Azadul Kabir Sarker, Khin Thuzar Aung, Shahidul Islam, Sho Aki, Noriko Takuwa and Yoh Takuwa. : Phosphoinositide-specific 3'-phosphatase, myotubularin-related protein 4 (MTMR4), regulates lysosomal activity and autophagy. , 第94回日本生理学会大会, 浜松, 2017.3.30, J Physiological Sci., 67, Suppl.1, S174, 2017

Khin Thuzar Aung, Sho Aki, Kazuaki Yoshioka, Pham Hoa Quynh , MD Azadul Kabir Sarker, Islam Shahidul, Noriko Takuwa, Yoh Takuwa. : Phosphotidylinositol 3-kinase Class II isoforms, PI3K-C2a and PI3K-C2b are necessary for Pinocytosis in Endothelial Cells, 第94回日本生理学会大会, 浜松, 2017.3.30, J Physiological Sci., 67, Suppl.1, S174, 2017

*中川いずみ,武山雅志： 看護師の自己教育力尺度の作成および妥当性・信頼性の検討, 第20回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 2016.8, 第20回日本看護管理学会学術集会抄録集, 348, 2016

武山雅志,曽根志穂,金谷雅代,*中谷朱里,石垣和子： 地域の防災活動に看護学生が関わる意義と役割 －県立看護系大学災害ボランティアサークル活動をベースに－, 日本災害看護学会第18回年次大会, 久留米, 2016.8, 日本災害看護学会誌, 18(1), 88, 2016

武山雅志,岩脇陽子,北岡和代,室田昌子,丸岡直子： 友人関係から見た看護学生のコミュニケーションスキルの特徴, 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京, 2016.12, 第36回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 32, 2016

谷本千恵： 高松病院のインシデントレポートにおける自傷･自殺企図に関する分析, 第29回石川県立高松病院こころの臨床学会 , かほく市, 2017.3, 第29回石川県立高松病院こころの臨床学会抄録集 , 7, 2017

田淵知世，*野田咲央里，*沢田眸，*松山未佳，木森佳子： 看護職の手荒れが患者とその療養環境に与える影響，日本看護技術学会第15回学術集会，高崎，2016.9，日本看護技術学会第15回学術集会講演抄録集，15，80，2016

*沢田眸，*松山未佳，中嶋知世，木森佳子： 鼻腔カニューレ装着時における皮膚バリア機能，日本創傷・オストミー・失禁管理学会第25回学術集会，金沢，2016.6，日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌，20(2)，207，2016

田村幸恵，丸岡直子，林静子： 看護学実習における大学教員の調整行動の構造，日本看護学教育学会第26回学術集会，東京，2016.8，日本看護学教育学会第26回学術集会講演集，第26巻，220，2016

Chihara Y.，Nishimura M.，Kanaya M.，Hombu Y.，*Dateoka S.，*Terai T.，Narita M.：Reliability and Validity of “the Parenting and Finding-myself Program” Evaluation Scale，15th World Congress of the World Association for Infant Mental Health，Prague Chech Republic，2016.5，Program Book，103，2016

塚田久恵： 半島に暮らす人々のヘルスリテラシーの特徴と保健行動改善に向けての探索的研究，第75回日本公衆衛生学会，大阪，2016.10，第75回日本公衆衛生学会総会抄録集，63(10)，388，2016

塚田久恵，曽根志穂，金子紀子，石垣和子： 保健師教育における高齢者の継続家庭訪問演習を試みての評価ー学生の自己評価を通しての考察ー，日本公衆衛生看護学会，仙台，2017.1，第5回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集，5，190，2017

中田弘子，三輪早苗，田淵知世，*田中麻奈美，*中家菜々美，*山﨑祥絵，小林宏光： ハンドマッサージが脳活動に与える影響－前頭前皮質酸素化ヘモグロビン濃度および主観的指標の観点からー，日本生理人類学会，和倉，2016.10，日本生理人類学会誌第74回大会要旨集，83，2016

中田弘子： 交流集会 ハンドケアのデザインー手のケアをつむぐー ，看護実践学会，内灘，2016.9，看護実践学会第10回学術集会講演集，92，2016

中道淳子，森田聖子，磯光江，小林宏光： 高齢者へ笑いヨガ実施時における脳血流の変化，日本認知症予防学会，仙台，2016.9，第6回 日本認知症予防学会学出集会 抄録集，163，2016

Nishimura M.，Kanaya M.，Yoneda M.，Soyama S.，Chihara Y.，*Hombu Y.，*Dateoka S.：Evaluation of Group Meetings on Parenting by Mothers of Infant Experienceing Childcare Difficult ，15th. World Congress of the World Association for Infant Mental Health，Prague，Chech Republic，2016.5，Program Book，，95，2016

*伊達岡五月，西村真実子： 育児不安・育児困難予防を目指した妊娠期からのグループ支援「妊婦プログラム」の評価：不安軽減の側面から，日本子ども虐待防止学会第22回学術集会おおさか大会，大阪，2016.11，日本子ども虐待防止学会第22回学術集会おおさか大会抄録集，一，211，2016

Chiemi Neyoshi，Sugako Tamura：Rural area public health nurses’ support for parents of children with autism spectrum disorder to facilitate acceptance of their child’s disorder.，The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing，釜山，2016.7，The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing，75，2016

子吉知恵美，田村須賀子： 発達障害児とその家族に対し保育士と連携しながら家族全体を支える

保健師による支援，第18回日本在宅医学会大会・第21回日本在宅ケア学術集会合同大会，東京，2016.7，第18回日本在宅医学会大会・第21回日本在宅ケア学術集会合同大会後援抄録集，388，2016

子吉知恵美，田村須賀子： 発達障害児と保護者に対する地域特性に応じた保健師による就学前支援，日本地域看護学会第19回学術集会，栃木，2016.8，日本地域看護学会第19回学術集会後援集，166，2016

Chiemi Neyoshi，Sugako Tamura，Yoko Yamazaki：Public health nurses’support in mountainous areas and remote islands for children with autism spectrum disorder to enable their early access to support services，The 20 EAFONS，香港，2017.3，，，，

望月美也子，長谷川昇，山田恭子，加藤真弓，鳥居昭久，清水暢子： 高齢者の血清ビタミンD濃度とビタミンD摂取量が運動および認知機能に及ぼす影響，日本薬学会第137年会，仙台，2017.3

瀧本千紗，濵耕子： 1歳6か月児を養育する父親の育児家事行動の特徴と夫婦関係満足度との関連，第75回日本公衆衛生学会，大阪，2016.10，第75回日本公衆衛生学会総会抄録集，63(10)，453，2016

*石黒倫子，林一美： 在宅療養における末期がん患者の家族介護者に対する介護支援専門員の支援内容，日本在宅看護学会，東京，2016.11.19，日本在宅看護学会誌，5(1)，90，2016

*菅池明日美，*家中昭乃，林静子： 看護学生の無菌操作場面における視線軌跡の特徴，日本看護技術学会第15回学術集会，群馬，2016.9，日本看護技術学会誌，61，2016

大黒理恵，林静子，堀悦郎，大河原千嘉子，寺井梨恵子：アイカメラを教育に活かそう！（交流セッション），日本看護技術学会第15回学術集会，群馬，2016.9，日本看護技術学会誌，57，2016

林静子： 看護教育における眼球運動計測装置の活用（研究会セミナー講演），第2回 Medical Art Expert研究会セミナー，京都，2016.12.10

久保博子，牧野智恵： がん患者への就労支援プログラムの試み，第31回日本がん看護学会，高知，2017.2，第31回日本がん看護学会誌，31，45，2017

高野智早，牧野智恵： がん患者のセクシュアリティに対する看護師の態度尺度の開発，第31回日本がん看護学会、交流集会，高知，2017.2，第31回日本がん看護学会誌，31，160，2017

時山麻美，牧野智恵，北野真実：「常設サロン」におけるピアサポートを受けたがん患者の体験ー小松市民病院の取り組みからー，第21回日本緩和医療学会学術大会，京都，2016.6，第21回日本緩和医療学会学術大会抄録集，21，S282，2016

高野智早，牧野智恵： がん患者のセクシュアリティに対する看護実践を困難にする要因　文献的考察，第21回日本緩和医療学会学術大会，京都，2016.6，第21回日本緩和医療学会学術大会抄録集，21，S408，2016

牧野智恵，松本友梨子，時山麻美： 実存的空虚を抱くがん体験者への「意味」を中心とした支援を考えるーV.E.フランクルのロゴセラピーの視点から，第31回日本がん看護学会、交流集会，高知，2017.2，第31回日本がん看護学会誌，31，302，2017

松本智里，加藤真由美，谷口好美，平松知子： 女性人工股関節全置換術患者の回復過程における歩容の自己評価の変化と心理社会的側面からの影響，第36回日本看護科学学会学術集会，東京，2016.12，第36回日本看護科学学会学術集会　プログラム集，PA-16-06，2016

松本智里，兼氏歩，福井清数，髙橋詠二，平松知子，谷口好美： 女性人工股関節全置換術患者

と低侵襲寛骨臼骨切り術患者の回復過程おける歩容の自己評価と心理社会的側面の比較，第43回日本股関節学会学術集会，大阪，2016.11，第43回日本股関節学会学術集会　プログラム・抄録集，506，2016

*林真砂美，丸岡直子，林静子：急性期病棟の看護師による患者・家族の療養生活の予測に基づく退院支援，第20回日本看護管理学会学術集会，横浜，2016.8.19，日本看護管理学会，323，2016

*北村日菜，丸岡直子，*竹内香織，石川倫子：外来看護師による在宅療養移行支援の実態（第1報）－入院決定から入院するまでに焦点をあてて，第20回日本看護管理学会学術集会，横浜，2016.8.19，日本看護管理学会，323，2016

*竹内香織，丸岡直子，*北村日菜，石川倫子：外来看護師による在宅療養移行支援の実態（第2報）－患者の入院中・退院後に焦点をあてて，第20回日本看護管理学会学術集会，横浜，2016.8.19，日本看護管理学会，324，2016

*仙本禎恵，丸岡直子，林静子：新人看護師が一人で初めて車椅子移乗援助を実施する際に感じる戸惑い，日本看護学教育学会第26回学術集会，東京，2016.8，日本看護学教育学会，26，227，2016

*近江翔子，丸岡直子：看護学生の転倒リスク場面に対する視覚による観察とアセスメント－臨地実習前の看護学生に焦点をあてて，日本看護技術学会第15開学術集会，高崎，2016.9，日本看護技術学会，65，2016

丸岡直子：マネジメントの芽生えは看護基礎教育から，第47回日本看護学会-看護管理（交流集会1-マネジメントの芽生えを育てる），金沢，2016.9，第47回日本看護学会-看護管理-学術集会抄録集，82，2016

中野泰規，村井嘉子：クリティカルケア看護師のICU/CCUに緊急入室した患者の家族に対するアプローチの特徴，第18回日本救急看護学会学術集会，千葉，2016.10.29～30，第18回日本救急看護学会学術集会抄録，18（3），228，2016

Yamazaki C.，Hayashi K. ：Cooperation with Psychiatrists in the Practice of Japanese Home Visiting Nurses，International Collaboration for Community Health Nursing Research Symposium 2016 ，UK，2016.9，International Collaboration for Community Health Nursing Research International Symposium 2016，36，2016

山﨑智可,林一美：訪問看護師の医師との連携における実践と課題に関する文献レビュー，第9回文化看護学会学術集会，沖縄，2017.3，24 ，2017

6.5　社会活動・地域貢献

浅見洋：西田哲学会理事

浅見洋：日本宗教学会理事　学会賞選考委員

浅見洋：比較思想学会評議員、北陸支部会長

浅見洋：北陸宗教文化学会　理事・監事

浅見洋：日本医学哲学・倫理学会評議員、運営委員

浅見洋：石川県西田幾多郎記念哲学館館長

浅見洋：かほく市総合計画審議会委員

浅見洋： 公益信託能登町エンデェバーファンド21　運営委員
浅見洋： 西田幾多郎博士頌徳会理事
浅見洋： 北國新聞主催「新聞を読んで感想文コンクール」審査員
浅見洋： 石川県博物館協会監事
浅見洋： 日本エンドオブライフケア学会　理事・学会活動推進委員
浅見洋: 石川県民大学（専門講座）西田幾多郎講座「田辺元「死の哲学」とはどういう哲学か？」，石川県西田幾多郎記念哲学館，2016.4.30
浅見洋： 平成28年度かほく市教職員全体研修会「教育者としての西田幾多郎」，石川県西田幾多郎記念哲学館，2016.5.6
浅見洋、長谷川昇： 来人喜人（きときと）里創りプロジェクト事業「第30回猿鬼歩こう走ろう健康大会」健康キャンペーン実施，能登町，2016.5
浅見洋、長谷川昇: 来人喜人（きときと）里創りプロジェクト事業「能登町健康特産品クライネメッセ」開催，石川県立看護大学，2016.10
浅見洋： 金沢検定対策講座～中級・上級合同クラス～「偉人と教育」，北國新聞文化センター，2016.7.9
浅見洋： 西田幾多郎記念哲学館企画展示講演「幾多郎と作太郎～同じ悲しみを抱きながら～」，西田幾多郎記念哲学館，2016.7.18
浅見洋： 石川県学校教育経営研究会総会「教育者としての西田幾多郎」，西田幾多郎記念哲学館，2016.7.30
浅見洋： 西田幾多郎博士作品を吟ずる第14回全国吟詠大会「西田幾多郎の歌」，西田幾多郎記念哲学館，2016.9.4
浅見洋： 富山看護協会平成28年度研修会　認定看護管理者教育課程ファーストレベル「看護実践における倫理」，富山県看護研修センター，2016.9.7
浅見洋： 津幡町観光ボランティアガイド講演会「西田哲学入門－西田幾多郎と津幡町の接点から－」，津幡町役場2階大会議室，2016.9.26
浅見洋： 平成28年度第110期高砂大学校「鈴木大拙にふれる」，金沢中央公民館，2016.10.11,12,14
浅見洋： 富山看護協会平成28年度研修会　富山県保健師助産師看護師等実習指導者講演会「看護倫理」，富山県看護研修センター，2016.11.9
浅見洋： 高松病院職員研修会「日本人の死生観と看取りの現実」，石川県西田幾多郎記念哲学館，2016.11.12
浅見洋：「管理者の倫理的意志決定－倫理的感受性－」看護経営者論、認定看護管理者教育課程（サードレベル）講師，石川県立看護大学，2016.11.14
浅見洋： 金沢・現代会議パネルディスカッション「世界人としての日本人」（シンポジスト），金沢市文化ホール，2016.11.17
浅見洋: 大阪商業大学同窓会支部創立10周年記念講演「今を生きる西田哲学と現代」，ホテル金沢，2016.11.19
浅見洋： 野々市寿大学校教養講座「鈴木大拙に触れる」，野々市市中央公民館，2016.11.25
浅見洋： 志賀町歴史研究会「鈴木大拙に触れる」，富来活性化センター，2016.11.28
浅見洋： 国立長寿医療研究センター高齢者医療・在宅医療総合看護研修「死生観とEOLケア」，国

立長寿医療研究センター，2016.12.5

浅見洋: 石川県生と死を考える会研修会「日本人の死生観と看取りの現在」,石川県女性センター，2016.12.9

浅見洋：「管理者の倫理的意志決定－管理者の倫理的ジレンマ－」看護経営者論、認定看護管理者教育課程（サードレベル）講師，石川県立看護大学，2016.12.20

浅見洋： 人間環境大学大学院看護学研究科教育講演会「日本人の死生観とエンドオブライフケア」，人間環境大学，2017.1.27

浅見洋:かほくロータリークラブ卓話「現代を生きる西田哲学」,かほく市七塚生涯学習センター，2017.2.8

浅見洋: 第30回山田シンポジウム「越の国の思想風土～西田と大拙を中心に～」,山田公民館（南砺市），2017.3.5

阿部智恵子: 平成28年度JICA日系研修講師，石川県立看護大学地域ケアセンター，2016. 8.24,25

石垣和子： 石川県医療審議会委員

石垣和子： 石川県医療計画推進委員

石垣和子： 大学コンソーシアム石川理事

石垣和子： 石川県ユニセフ協会評議員

石垣和子： NPO法人　地域保健研究会理事

石垣和子： NPO法人　いしかわ在宅支援ねっと理事

石垣和子： かほく市介護保険運営協議会委員

石垣和子： 沖縄県立看護大学外部評価委員

石垣和子： 沖縄県立看護大学あり方検討委員会委員

石垣和子： 日本ルーラルナーシング学会副理事長

石垣和子： 日本家族看護学会監事

石垣和子： 大学評価・学位授与機構　機関別認証評価専門委員

石垣和子： 日本看護系大学協議会プライマリケア看護ﾅｰｽﾌﾟﾗｸﾃｨｼｮﾅｰ教育課程審査委員

石垣和子： かほく地区日中友好協会会長（石川県）

石垣和子： シンポジスト：看護におけるデータ推進型思考の意義，第74回生理人類学会，石川県七尾市観光会館，2016.10.23

石垣和子： いきいきシニア講演会シニアの力と経験知～ inかほく，石川県立看護大学，2017.3.14

石垣和子： シンポジウム「地域文化のケア力」シンポジスト：スキーマと文化ケア，第9回文化看護学会，沖縄県立看護大学，2017.3.19

石川倫子： 厚生労働省看護教員養成講習会事業　評価委員

石川倫子： 日本看護協会　特定行為研修管理委員会　委員

石川倫子： 石川県准看護師試験委員

石川倫子： 看護実践学会　査読委員

石川倫子： 教務主任養成講習会講師（看護学教育評価），東京慈恵医科大学，2016.9 ～ 10

石川倫子： 石川県実習指導者講習会（特定分野）講師,石川県立看護大学,2016.8.24,25,9.14,15

石川倫子： 石川県看護教員現任研修　講師，石川県立看護大学，2016.6.11,25，7.2，12.17

磯光江： 看護研究指導・講評，河北中央病院，2016.5.16，12.14

今井美和： 日本病理学会学術評議員
今井美和: 第105回　日本病理学会総会　ポスター発表（一般）70　女性生殖器･子宮頚部　座長，仙台国際センター，2016.5.13
今井美和： 感染管理認定看護師教育課程 「学内演習（微生物検査演習）」 非常勤講師，石川県立看護大学，2016.9.26 ～ 28
今井美和： 平成28年度　市民公開講座 「がんになっても自分らしく生きる　がん体験者と専門看護師からのメッセージ」 司会，石川県立看護大学，2017.3.11
岩城直子： 日本がん看護学会代議員
岩城直子： 第16回日本救急看護学会学術集会企画実行委員
岩城直子： JICAカンボジア青年研修コーディネーター・実施，石川県立看護大学、研修施設，2016.11.30 ～ 12.13
岩城直子： 臨床で行なうリンパ浮腫のケア　企画・実施，石川県立看護大学，2016.7.10
岩城直子： 多様な価値観に基づく意思決定の支援ーがん治療選択における倫理的問題　企画・実施，ホテル金沢，2016.12.17
岩城直子： がん看護事例検討会　企画・実施，石川県立看護大学，2016.5 ～ 2017.3
大木秀一： 日本公衆衛生学会　査読委員
大木秀一： 日本小児保健学会　査読委員
大木秀一： 日本民族衛生学会　査読委員・評議員
大木秀一： 日本双生児研究学会　幹事　事務局
大木秀一： The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, Reviewer
大木秀一： Journal of Epidemiology, Reviewer
大木秀一： 日本衛生学会　双生児医学連携研究会　世話人
大木秀一： 日本看護科学学会　和文誌統計担当査読委員
大木秀一： NPO法人　日本多胎支援協会　理事
大木秀一： NPO法人　いしかわ多胎ネット　副理事
大木秀一： 東京大学教育学部附属中等教育学校　双生児特別検査委員
大木秀一： 石川県公害審査会委員
大木秀一： 一般財団法人北陸産業活性化センター北陸ライフサイエンスクラスター推進室　北陸ライフケアシステム研究会委員
大木秀一：「小児看護学方法論Ⅱ（小児疾患）」講義，金沢医療技術専門学校，2016.5
大木秀一： 多胎育児支援研修会 「多胎育児支援が必要な理由と保健医療専門職（特に助産師・保健師）と当事者の連携」 講師，旭川市子ども総合相談センター，2016.5
大木秀一： ピアサポーター養成講座「多胎の基礎知識」講師，金沢市教育プラザ富樫，2016.6
大木秀一：「公衆衛生学」講義，東邦大学，2016.6
大木秀一： 第7回全国フォーラム基調講演「切れ目のない多胎児家庭の支援をめざして　～多胎出産の聖地・鹿児島から全国へ～」 講師，鹿児島市立病院，2016.6
大木秀一： 多胎育児支援研修会 「双子が多い町から、子育てしやすい環境づくりを目指して～全国の双子の育児支援と保育・教育～」 講師，サンホールはぴねす，2016.7
大木秀一： 感染管理認定看護師教育課程「疫学と統計学」講義，石川県立看護大学，2016.7
大木秀一： 多胎児ファミリー応援フェスタ「見て！知って！体験して！双子ちゃん・三つ子ちゃ

ん達の世界　～これから先に続く子育て支援の輪とネットワーク～」 講師，浜名湖競艇場，2016.9

大木秀一： 講演会・勉強会「多胎の子育てしやすい環境づくりを目指して」 講師，佐賀市ほほえみ館，2016.11

彦聖美，大木秀一：第2回男性介護者･家族介護者能登会議、主宰者，石川県立生涯学習センター能登分室，2016.11

大木秀一：JICA青年研修「疫学と保健医療政策」講師，石川県立看護大学，2016.12

大木秀一：「疫学」講義，山梨大学，2016.12

大木秀一： 文献検索のコツ：アドバンス編　ミニレクチャー　講師，地域ケア総合センター，2016.12

大木秀一： 第11回ジェネラリスト教育コンソーシアム「社会疫学と総合診療」 講師，神戸大学医学部附属地域医療活性化センター，2017.1

織田初江： 津幡町健康推進協議会委員

織田初江： 羽咋市国保運営協議会委員

織田初江,山崎智可,金子紀子：限界集落における閉じこもり予防活動，宝達志水町，2016.10. 9，11.13，2017.1.29，3.5

織田初江： 石川県新任保健師研修会・講師，石川県庁，2016.9.12 ～ 14

織田初江： 富山県新任保健師研修会・講師，富山県民会館，2016.9.1 ～ 2

織田初江： 富山県保健師キャリアアップ研修会・講師，富山県民会館，2016.6.6，9.6，11.14，2017.1.17

垣花渉： シティーカレッジ授業「石川の市町、かほく市・宝達志水町」 授業コーディネーター

垣花渉： 講義　石川県地域スポーツ指導者養成講習会「中高齢者の体力とスポーツ指導」

垣花渉： 講演　北國健康生きがい支援事業「今すぐできる健康法ースモールチェンジ活動のススメ」

垣花渉： 招待講演　石川県スポーツ推進委員研修会「健康の秘訣は、家やオフィスでの生活にある」

垣花渉： シンポジウム　石川県スポーツ推進委員研修会「誰もが楽しめるスポーツ活動をめざして」コーディネーター

垣花渉： 招待講演　白山市健康づくり推進員連絡協議会総会 「今すぐできる健康法」

垣花渉： 日本体力医学会　学会評議員

垣花渉： 石川県大学健康教育研究会　委員

垣花渉： NPO法人クラブパレット　アドバイザー

垣花渉： 石川県広域スポーツ支援センター「クラブネットいしかわ」運営委員会　委員

垣花渉： かほく市観光物産協会　理事

垣花渉： 羽咋市国民健康保険運営協議会　委員

垣花渉，長谷川昇，川島和代，渡辺達也 ：「歩くスモールチェンジ」健康づくり，看護大学，2016.5 ～ 2017.3

垣花渉： 棚田が織りなす食・緑・健康の郷づくり，津幡町興津地区，2016.4 ～ 2017.3

垣花渉： いきいき美人大学校，看護大学，2016.8，9，2017.3

垣花渉，渡辺達也：「健康カフェ」事業，津幡町中条地区公民館，2016.4 ～ 2017.3

垣花渉，渡辺達也： かほく市発ヘルスプロモーション事業ワクワク健康サークル活動，石川県立看護大学，2016.4 ～ 2017.3

加藤穣： 編集委員：丸善出版『生命倫理百科事典（第２版)』翻訳刊行

加藤穣： 生命科学と倫理（J)，立命館大学法学部，2016.9.25 ～ 2017.3.31

加藤穣： 生命科学と倫理（L)，立命館大学文学部，2016.9.25 ～ 2017.3.31

金谷雅代： 医療的ケアに関する研修の講師と医療的ケア実践場面の観察・助言，石川県立錦城特別支援学校，2016.12.19

金谷雅代：「小児保健コンサルテーション」講義，石川県立保育専門学園，2016.4 ～ 7

金谷雅代： 看護研究指導・講評，浅ノ川総合病院，2016.5.21，6.25，9.17，11.26

金子紀子： かほく市介護認定審査会委員

金子紀子： イオンモールウォーキング事業　健康レッスン講師，イオンモールかほく，2016.11.15

金子紀子： JICA青年研修　講師，2016.12

川島和代： 大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローカル人材育成市システムの構築」地域連携委員

川島和代： 能登キャンパス構想推進協議会　委員

川島和代： かほく市地域ケア推進会議　委員

川島和代： 津幡町認知症安心ネットワーク推進委員会　委員

川島和代： 看護科学研究学会 理事

川島和代： 看護実践学会　理事・査読委員

川島和代： 高齢者ケア協会　理事

川島和代： 日本看護科学学会　社員

川島和代： 日本看護未病システム学会　評議員・査読委員

川島和代： 日本老年看護学会　評議員・査読委員・生涯学習支援委員

川島和代： 日本看護研究学会　評議員

川島和代： 日本看護研究学会近畿・北陸地方会世話人

川島和代： NPOトトロの家　理事

川島和代： NPOまちかど倶楽部たかまつ　理事

川島和代： 石川県介護支援専門員協会　河北支部　運営委員

川島和代： 院内研修「ナイチンゲール看護論」講師，春日井市民病院，2016.5

川島和代： 院内研修「看護過程展開能力を高める」講師，春日井市民病院，2016.7

川島和代： 院内研修「看護の質評価」講師，春日井市民病院，2016.12

川島和代： NHK学園CSネットワーク第11回全国研修大会　フォーラムコーディネーター「耀いて生きる！ ～かなざわ発 共生できるまちづくり～ 」，金沢歌劇座，2016.1

川島和代： 内灘町鶴ケ丘北公民館いきいきサロン講師「こころと身体の健康づくり～日々の生活に笑いと運動を取り入れて～」，鶴ヶ丘北公民館，2016.7

川島和代： 石川県立盲学校「介護技術」講師，石川県立看護大学スキルラボ，2016.9

川島和代: かほく市介護従事者研修会「高齢者介護に必要な基本的な医療知識と接し方について」講師，かほく市役所，2016.9

川島和代： 日本リビングウイル研究会北陸地方会　福井研修会「高齢者の人生の最晩年の過ご

し方 ～食事を通して考える～」，福井市地域交流プラザ　AOSSA，2016.9
川島和代： 日本リビングウイル研究会北陸地方会　富山研修会「平穏死の条件」講師
川島和代： 事例検討会「よりよい看護実践をめざして 」講師
川島和代： 院内研修「ナイチンゲール看護論」講師，JCHO金沢病院，2016.9
川島和代： 津幡町認知症安心ネットワーク推進委員会事業　津幡町認知症フォーラム　コーディネーター
清水奈緒美，吉田弘毅，*村上真由美，*森垣こずえ，*高野智早，川島和代： 複雑な事例を専門看護師と共に検討しよう，大講義室，2016.9.
川島和代： 社会福祉法人やすらぎ福祉会　特別養護老人ホームやすらぎホーム　研修「高齢者の生活に寄り添い、支える、ということ」講師，特別養護老人ホームやすらぎホーム　，2016.11
川島和代： 石川県看護協会創立50周年記念座談会，金沢大学附属病院内　研修室，2016.12
川村みどり： 看護実践学会誌査読委員
川村みどり： 看護研究指導・講評，公立宇出津総合病院，2016.6 ～ 2017.2
川村みどり： 家族交流会講師，社会福祉法人なごみの郷，2016.11
川村みどり： 研修会講師，NPO法人トトロの家，2016.7
北山幸枝： 日本褥瘡学会　評議員
北山幸枝： 第25回日本創傷・オストミー・失禁学会学術集会実行委員
北山幸枝： 第46回日本創傷治癒学会　実行委員
木森佳子： 看護理工学会　査読委員
木森佳子： コ・メディカル形態機能学会選挙管理委員会委員長
木森佳子： 第25回日本創傷・オストミー・失禁学会学術集会実行委員
木森佳子： 第10回看護実践学会学術集会講評
木森佳子： 看護研究指導・講評，公立能登総合病院，2016.6，2017.1
木森佳子： JICAパラグアイ国日系研修「カントリーレポート」発表，石川県立看護大学研修室，2016.7.29，8.1
木森佳子： 認定看護管理者教育課程サードレベル「アカデミックリテラシー」講義，石川県立看護大学研修室，2016.11.1
小林宏光： 日本生理人類学会理事
小林宏光： Journal Physiological Anthropology. Associate editor
小林宏光： 日本生理人類学会74回大会長
小林宏光： 千葉大学健康環境フィールド科学センター倫理審査委員会外部委員
小林宏光： Clinical Autonomic Research. Reviewer
小林宏光： International Journal of Environmental Research and Public Health. Guest editor for secial issue.
小林宏光： Journal Physiological Anthropology. Reviewer
小林宏光： European Journal of Applied Physiology, Reviewer
小林宏光：「人間工学」講義，高岡市医師会看護専門学校，2016.4-9
小林宏光：「認定看護管理者教育課程（サードレベル）」 講義，石川県立看護大学，2016.12
小林宏光： 講演「心拍変動測定の技術と問題点」，東京工業大学，2016.11

小林宏光：「睡眠とサーディアンリズム」講義，名古屋大学・大幸キャンパス，2016.7
桜井志保美： 内灘町働く女性の家運営委員副委員長
桜井志保美： 家族介護者教室・講演，かほく市役所，2016.12.15
桜井志保美：「国際看護」講義，金沢医科大学看護学部，2016.4.1 ～ 30
清水暢子： 宝達志水町健康づくり推進員研修会「鳴子の音楽運動療法」講師，看護大学体育館，2016.6.28
清水暢子： 介護予防「元気いきいき教室」鳴子の音楽運動療法講師，有料老人ホームディサービス　NOA，2016.6.10
清水暢子： 介護予防「元気いきいき教室」鳴子の音楽運動療法講師，七尾市石崎福祉会館，2016.7.20
清水暢子： 介護予防「元気いきいき教室」鳴子の音楽運動療法講師，羽咋市社会福祉協議会老人福祉センター，2016.6.10
清水暢子：介護予防「元気いきいき教室」鳴子の音楽運動療法講師，羽咋市社会福祉協議会「ヘルパー研修会」，2016.6.10
清水暢子： 介護予防「元気いきいき教室」鳴子の音楽運動療法講師，志賀町すみれ作業所　保護者研修会，2016.8.23
清水暢子： 介護予防「元気いきいき教室」鳴子の音楽運動療法講師，有料老人ホームディサービス　Welina，2016.8.3
清水暢子，NPO法人生涯体育学習振興機構： 永平寺町地域包括支援センター介護予防教室「元気いきいき教室」共同主催・講師，福井県永平寺町「牧福島生活改善センター」「浅見生活改善センター」「松岡志比堺ふれあい会館」「松岡吉野堺生活改善サンター」「永平寺老人福祉センター」「谷口生活改善センター」，2016.7 ～ 2017.2
清水暢子，日本ALS協会福井支部：日本ALS協会福井支部総会＆講演会・事務局，福井県立病院，2016.6.26
曽根志穂： かほく市介護保険認定審査会委員
曽根志穂： 宝達志水町在宅医療・介護連携推進協議会委員
曽根志穂： 看護研究指導・講評，国民健康保険志雄病院，2016.5 ～ 2017.1
曽根志穂： 薬物乱用防止教室，かほく市立大海小学校，2017.1
曽山小織：「統計学」講義，高岡市立看護専門学校，2016.6 ～ 9
曽山小織： 看護研究指導・講評，珠洲市総合病院，2016.5.15，10.23，2017.3.5
曽山小織，米田昌代： 孫育て教室，石川県女性センター，2016.8.6
多久和典子： 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科協力研究員・非常勤講師
多久和典子： 日本生理学会評議員・将来計画委員長
多久和典子： 日本生化学会北陸支部幹事
多久和典子： 自然科学研究機構生理学研究所運営会議委員
多久和典子： 石川県立看護大学地域ケア総合センター人材育成事業「症状の身体所見・検査からの臨床推論」講師，石川県立看護大学附属図書館，2016.9.3
多久和典子： 石川県立鹿西高校出張授業「メタボリックシンドロームを知ろう」，石川県立鹿西高校，2016.9.14
多久和典子： 金沢家庭裁判所健康管理講習会「健康診断の結果の見方　～そんな見方で大丈夫？

数値を活かして，健康な身体づくり～」，金沢家庭裁判所，2016.10.7
多久和典子： 国家試験対策セミナー，石川県立看護大学，2016.8.23
武山雅志： 石川県精神保健福祉協会副会長
武山雅志： 石川県精神保健福祉協会会報編集委員
武山雅志： 石川県臨床心理士会会長
武山雅志： 生徒指導・発達障害サポートチーム委員
武山雅志：（公財）いしかわ女性基金運営委員
武山雅志：（公社）金沢こころの電話相談役
武山雅志：（公社）石川被害者サポートセンター副理事長
武山雅志： 金沢市保健審議会委員
武山雅志： 金沢市いじめ防止等対策委員会委員
武山雅志： 金沢市保健審議会委員
武山雅志： かほく市不登校問題対策運営協議会委員
武山雅志： かほく市地域交通会議委員
武山雅志： かほく市ケーブルテレビ放送番組審議会委員
武山雅志： 羽咋郡市広域圏事務組合情報公開及び個人情報保護審査会委員
武山雅志： かほく市地域交通会議委員
武山雅志： 学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会委員
武山雅志： 日本臨床心理士会代議員
武山雅志： 日本心理臨床学会代議員
武山雅志： 日本心理臨床学会査読委員
武山雅志： 災害と企業ボランティアセミナー研修会・講師，石川県庁1102会議室，2016.6.20
武山雅志： コミュニケーション講座・講師，かほく市七塚健康福祉センター，2016.7.13
武山雅志： ピアサポート研修会・講師，石川県リハビリテーションセンター，2016.8.3
武山雅志: いしかわ長寿大学･講師，石川県立生涯学習センター能登分室･七尾サンライフプラザ，2016.8.12,17
武山雅志： 輪島市推進員総合育成講座・講師，輪島市門前保健センター，2016.8.23
武山雅志： 能登半島宿泊体験研修・講師，石川県輪島市門前町および鳳至郡穴水町，2016.9.20,21
武山雅志： 傾聴ボランティアフォローアップ講座・講師，白山市福祉ふれあいセンター，2016.11.21
武山雅志： 出張オープンキャンパス模擬授業・講師，富山県立上市高等学校，2016.12.14
武山雅志： 出張オープンキャンパス模擬授業・講師，富山県立高岡南高等学校，2017.1.31
武山雅志，垣花渉，長谷川昇，川島和代，塚田久恵，中田弘子，金子紀子，渡辺達也，梶谷有美子: イオンモールウォーキング事業　健康チェック，かほくイオンモール，かほく市ほのぼの健康館，2016.10 ～ 2017.2
武山雅志,曽根志穂,金谷雅代,林静子： 災害につよい街づくりフォーラム，石川県立看護大学，2017.2
谷本千恵,大江真吾： 質的研究への参加･指導，石川県立高松病院，2015.12 ～ 2016.12
谷本千恵,川村みどり,大江真吾,清水暢子： 看護研究指導，石川県立高松病院，2016.7.26

谷本千恵： かほく市自立支援協議会委員(会長)，かほく市役所，2016.4 ～ 2017.3

谷本千恵： 宝達志水町介護認定審査委員，宝達志水町役場，2016.4 ～ 2017.3

谷本千恵，川村みどり，大江真吾，清水暢子： シティカレッジ互換事業　前期開講「メンタルヘルスと看護」，しいのき迎賓館，2016.5～6

谷本千恵： 看護実践学会2016年度研修会　研究スキルアップ　学会抄録の書き方―スマートに執筆し採択率アップ―，金沢大学医薬保健学域保健学類1号館1220講義室，2016.6.25

田淵知世： 日本生理人類学会第74回大会実行委員

田淵知世： 金沢マラソン2016　ボランティア協力団体（学生23名参加），石川県西部緑地公園陸上競技場，2016.10.23

田村幸恵： JICA日系研修　講師，石川県立看護大学，2016.8

田村幸恵： 看護研究指導，JCHO金沢病院，2016.7.6，8.25，11.17，2017.2.2

塚田久恵： 日本公衆衛生看護学会査読委員

塚田久恵： 北陸公衆衛生学会査読委員

塚田久恵： かほく市健康づくり推進協議会委員

塚田久恵： かほく市地域包括支援センター運営協議会委員

塚田久恵： 小松市健康づくり推進協議会委員

塚田久恵： 一般財団法人北陸産業活性化センター北陸サイエンスクラスター推進室北陸ライフケアシステム研究会委員

塚田久恵： 介護予防サポーターフォローアップ講座　講師，七塚健康福祉センター，2016.7

塚田久恵： JICA日系研修　講師，石川県立看護大学，2016.8

塚田久恵： JICA青年研修地域保健医療実施管理コース　講師，石川県立看護大学，2016.12

塚田久恵： イオンモールウォーキング事業　モール・健康レッスン講師，かほくイオンモール，2017.1

塚田久恵，曽根志穂，金子紀子，石垣和子： 高齢者と看護学生との交流事業実施者，石川県立看護大学，かほく市内住民宅，2016.5 ～ 11

塚田久恵，武山雅志，川島和代，山岸映子，林静子，金子紀子，千原裕香： かほく市子育て支援学生ボランティア事業実施者，かほく市こども総合センター，2016.4 ～ 2017.3

寺井梨恵子： 第19回日本救急看護学会学術集会　企画・実行委員

中田弘子： 第47回日本看護管理学会－看護管理－学術集会 抄録選委員

中田弘子： 日本生理人類学会第74回大会運営実行委員

中田弘子： 石川県立中央病院 平成28年度看護部 臨地実習指導者研修 講師

中田弘子： 恵寿金沢病院 平成28年度看護部研修 講師

中田弘子： 公立羽咋病院 平成28年度看護部研修 講師

中田弘子： 志雄病院 平成28年度看護部 研修 講師

中田弘子： かほく市食育推進連絡会委員

中田弘子： かほく市都市計画マスタープラン見直し策定委員会委員

中田弘子，川島和代： 平成28年度石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業　看護実践力向上セミナー 第1・2回ジェネラリストのための事例検討 講師，石川県立看護大学附属地域ケア総合センター，2016.7,11

中田弘子，川島和代，小林宏光： 平成28年度石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業

第1・2回 ケアのデザイン 手のケアを見直す 講師，石川県立看護大学，2016.8,9

中道淳子： 看護実践学会　査読委員

中道淳子： 日本認知症予防学会　評議員

中道淳子： 石川県介護支援専門員実務研修企画委員会　委員

中道淳子： 石川県立宝達高校　ふるさとに学ぶクリエイティブ人材育成事業　講師

中道淳子： 津幡町介護予防メイト養成講座　講師

中道淳子： 内灘町認知症予防教室　講師

中道淳子： 内灘町高齢者見守り運動　講師

中道淳子： 第19回日本救急看護学会　企画実行委員

中道淳子，磯光江，北山礼子，渡辺達也，川島和代：高齢者事例検討会，石川県立看護大学，2016.5 ～ 2017.3

西村真実子： 医道審議会保健師助産師看護師分科会 保健師助産師看護師国家試験出題基準改訂部会 小児看護幹事委員

西村真実子： 日本小児保健学会 代議員

西村真実子： 石川県小児保健協会 役員

西村真実子： 日本小児看護学会誌 査読委員

西村真実子： 看護実践学会 理事

西村真実子： 石川県要保護児童対策協議会専門家チーム 委員

西村真実子： 石川県奨学生選考審査会 委員

西村真実子： 親子交流授業プログラム検討委員(公益財団法人いしかわ子育て支援財団)

西村真実子： かほく市子ども・子育て会議 委員・会長

西村真実子： 北陸小児糖尿病サマーキャンプ運営委員会 委員

西村真実子： 老人保健施設「なでしこの丘」まちの保健室事業実行委員会 委員

西村真実子： NPO法人子どもの虐待防止ネットワーク石川 理事(副代表)

西村真実子： 石川県女性教員教育研究会 第1回研修会「子育て支援について」講師，石川県地場産業振興センター，2016.5.14

西村真実子： 平成28年公開講座「学都石川の才知」「母子関係の難しさから考える子育て支援」講師，しいのき迎賓館，2016.7.30

西村真実子： 平成28年度訪問看護研修「子どもの成長発達・子育てにかかわる看護「疾病や障がいを持つ小児の家族への支援」講師，石川県看護研修センター，2016.8.2,6

西村真実子： 平成28年度児童福祉司養成研修「児童虐待援助論」講師，石川県庁行政庁舎，2016.8.9

西村真実子: 石川県助産師会研修会「子育てルームめばえの効果」講師，金沢市教育プラザ富樫，2016.9.17

西村真実子，米田昌代:「Nobody's Perfect完璧な親なんかいない(NP)」親支援プログラム(全6回)のファシリテーター，かほく市子ども子育てセンター「おひさま」，2017.2 ～ 3

西村真実子，米田昌代，金谷雅代，曽山小織，千原裕香： 子育てどろっぷ・イン・さろんの開催(どろっぷ・いん・るーむ＆親育ち子育ちを考える会、全5回)，北陸スウェーデンハウス（金沢市)，2016.6 ～ 9

西村真実子，金谷雅代，千原裕香，坂本洋子： 子育て支援・子どもの虐待の勉強会(事例検討等)

(全5回)の開催，石川県立看護大学，2016.8～12
西村真実子： 第9回親支援プログラム“Nobody's Perfect”完璧な親なんていないフォーラムin いしかわ(実行委員長，シンポジウム座長)，金沢歌劇座，2016.7.2～3
西村真実子：「がんになっても自分らしく生きる　～がん体験者と専門看護師からのメッセージ～」第1部専門看護師による講演 座長，ホテル金沢，2017.3.11
子吉知恵美： 高校訪問，石川県立看護大学，2016.10.17
長谷川昇： 石川県食品技術者ネットワーク　幹事
長谷川昇： Journal of Ethnopharmacology 査読担当
長谷川昇： 科学研究費委員会専門委員
長谷川昇： 健康応援倶楽部，かほく市，2016.4～2017.3
長谷川昇： 病態運動生理学，愛知医療学院短期大学（愛知県清須市），2016.7
濵耕子： 日本母性衛生学会　愛媛県代議員
濵耕子： 日本母性衛生学会　機関誌「母性衛生」査読者
濵耕子： 第57回日本母性衛生学会総会・学術集会　抄録査読委員
濵耕子： 第57回日本母性衛生学会総会・学術集会　座長
林一美： 日本災害看護学会査読委員
林一美： 日本災害看護評議委員
林一美： 津幡町介護認定審査会委員
林一美： かほく市地域密着型サービス運営協議会委員長
林一美： 高松訪問看護ステーション運営委員
林一美： 石川県国民健康保険団体連合会介護サービス苦情処理委員会委員
林一美： 石川県防災会議震災対策専門委員
林一美： 平成28年介護職員等による喀痰吸引等の実施のための研修，石川県立看護大学，2016.7.9，10.22
林一美： 出張オープンキャンパス，富山県立呉羽高等学校，2016.11.7
林一美： 石川県保健助産師看護師実習指導者講習会（特定分野），石川県立看護大学，2016.8.17，9.14，9.15，9.16
林一美： 訪問看護の現場に活かすフィジカルアセスメント，石川県立看護大学，2016.6.11
林静子： 第74回日本生理人類学会　実行委員長
林静子： 看護研究指導，独立行政法人国立病院機構　金沢医療センター，2016.7,10
林静子: 認定看護師教育課程感染管理　医療安全管理:医療安全教育　講義，石川県立看護大学，2016.8.30
牧野智恵： 日本がん看護学会誌投稿論文査読委員
牧野智恵： 第31回日本がん看護学会学術集会査読委員
牧野智恵： 日本がん看護学会代議員
牧野智恵： 日本看護科学学会代議員
牧野智恵： かほく市南部交流ゾーンにぎわい創出エリア整備検討委員会委員
牧野智恵： 第23回石川緩和医療研究会世話人
牧野智恵： 第19回日本救急看護学会学術集会企画・実行委員
牧野智恵： 第36回公益社団法人日本看護科学学会総会議事録署名人

牧野智恵：研修名「考えよう！臨床現場の倫理」講演
牧野智恵：「がん患者の心のケア」講演
牧野智恵：福井生と死を考える会　副会長
牧野智恵：日本ロゴセラピー協会　特別会員
牧野智恵：研修名「考えよう！臨床現場の倫理」講演，石川県地場産業振興センター，2016.10.1
牧野智恵：「がん患者の心のケア」講演，金沢大学付属病院，2016.10.2
牧野智恵：「複雑な事例を専門看護師等と共に検討しよう」企画・座長，石川県立看護大学，2016.9
牧野智恵：「がん看護事例検討会」企画，石川県立看護大学，2016.5～7,10～12,2017.2～3
牧野智恵:「お母さんと子どものためのアートセラピー体験」企画･実施，白山市　ミントレイノ，2016.8
牧野智恵：「多様な価値観に基づく意思決定の支援」第1部・2部の座長，ホテル金沢，2016.12
牧野智恵：「がんになっても自分らしく生きる　～がん体験者と専門看護師からのメッセージ～」企画・座長，ホテル金沢，2017.3.11
松本智里：看護研究指導・講評，公立能登総合病院，2016.6.24，2017.1.21
丸岡直子：石川県看護協会認定看護管理者教育制度運営委員
丸岡直子：日本看護学教育学会　専任査読委員，査読担当
丸岡直子：日本看護研究学会　評議員・査読委員
丸岡直子：日本老年看護学会　代議員・査読委員
丸岡直子：看護実践学会　専任査読委員・査読担当
丸岡直子：石川県認知症医療体制推進委員会　委員
丸岡直子：石川県立中央病院地域医療支援委員会　委員
丸岡直子：日本看護学会（看護管理）準備委員長・抄録選考委員長
丸岡直子：かほく市創生総合戦略推進計画策定に係る外部評価委員会　委員長
丸岡直子：かほく市空家等対策審議会　会長
丸岡直子：大学基準協会　大学評価委員会大学評価分科会　委員
丸岡直子：日本看護学校協議会共済会　代議員
丸岡直子：金沢医科大学大学院看護学研究科（看護管理特論），金沢医科大学，2016.6.7，14,21
丸岡直子：医療域関看護師の在宅支援スキルアップ研修講師（入院する患者の在宅療養移行支援を考える），石川県看護研修センター，2016.7.30
丸岡直子：石川県看護協会認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程講師（看護サービス提供論―問題解決思考），石川県看護研修センター，2016.11.22
丸岡直子：石川県看護協会認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程講師（クオリティマネジメント），石川県看護研修センター，2016.11.3
丸岡直子：金沢大学大学院医薬保健学講師（看護管理特論），金沢大学つるまキャンパス，2016.12.23
丸岡直子：管理者経営研修講師（地域包括ケア時代における看護管理者の役割），石川県立看護大学，2016.9.30
丸岡直子：感染管理認定看護師教育課程講師（リーダシップ），石川県立看護大学，2016.8.2，

4

丸岡直子： 認定看護管理者教育課程サードレベル講師（看護経営者論），石川県立看護大学，2016.12.15

三輪早苗： JICA日系研修　講師，石川県立看護大学，2016.8

村井嘉子： 第19回日本救急看護学会学術集会長

村井嘉子： 日本救急看護学会評議委員

村井嘉子： 日本救急看護学会査読員

村井嘉子： 日本クリティカル看護学会査読員

村井嘉子： 日本循環器看護学会査読員

村井嘉子： 看護研究指導・講評，能美市立病院，2016.7.11，12.3，2017.3.11

山岸映子： 第20回母乳育児支援を学ぶ北陸教室　実行委員長，金沢大学医学部十全講堂，2016.5.22

山岸映子： 思春期講座講師，七尾市東部中学校，2016.7.2

山岸映子： 性教育講座講師，石川県立翠星高等学校，2016.1.17

山﨑智可： かほく市介護認定審査委員

山﨑智可： JICA日系研修事業　講師，石川県立看護大学，2016.8.5.

米田昌代： 公益社団法人石川県看護協会主催　平成27年度石川県実習指導者講習会講師　母性看護学　2016.6.3,6

米田昌代： 石川県看護協会　助産師職能委員

米田昌代： 日本看護研究学会　査読委員

米田昌代，曽山小織： ペリネイタル・グリーフケア検討会，7月　石川県立看護大学　2月　石川県立中央病院，2016.7.9，2017.2.18

米田昌代： あかちゃんをお空へみ送った方の自助グループに対するサポート活動，石川県立看護大学，通年

米田昌代： 第9回親支援プログラム"Nobody's Perfect"完璧な親なんていないフォーラムin いしかわ （実行委員、シンポジスト），金沢歌劇座，2016.7.2.3

米田昌代： SIDS家族の会　医学アドバイザー

米田昌代： NPO法人ワークライフバランス北陸　副理事長

6.6　その他（受賞等）

浅見洋： 受賞，石川県立看護大学　ベストティーチャー賞，2016.5

浅見洋： 教材DVD，COC+事業関連における『地域創生概論』 いしかわで学ぶ未来可能性「第2章 石川の自然・文化・歴史」，2016.6

浅見洋： 新聞掲載，「寸心忌によせて」北国新聞夕刊『舞台』，2016.6

垣花渉： 新聞掲載，北國新聞 「健康づくりでポイント獲得」，2016.5

垣花渉： テレビ出演， NHK総合「おはよう日本」，「みんなで歩いて健康に！」，2016.10

垣花渉： 新聞掲載，「少しずつチェンジを」 北國新聞朝刊，2016.11

垣花渉： 新聞掲載，「今すぐできる健康法―スモールチェンジ活動のススメ」 北國新聞朝刊，2016.12

小林宏光： 受賞，日本生理人類学会論文大賞，2016.6

Shimizu N, Umemura T, Matunaga M, Hirai T：受賞, International Collaboration in Community Health Nursing Research (ICCHNR) AWARD THE LISBETH HOCKEY PRIZE FOR BEST POSTER, 2016.9

6.7　研究助成金

6.7.1　科学研究費助成事業（日本学術振興会）

6.7.1.1　科学研究費補助金

1.　本学教員が研究代表者のもの

大木秀一：　双生児家系世代間データによるライフコース疫学モデルでの不妊治療の長期影響の検証，H27 ～ H30，科学研究費補助金基盤研究(B)

林静子：　看護師の視覚に基づく観察時のヒューマンエラーにつながる見落とし現象の分析，H27 ～ H28，科学研究費補助金研究活動スタート支援

2.　他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

鈴木みずえ，丸岡直子，寺井梨恵子，他9名：　認知症高齢者の転倒予防看護質指標による看護介入プログラムと実践継続システムの開発，H26 ～ H29，科学研究費補助金基盤研究(B)

6.7.1.2　学術研究助成基金助成金

1.　本学教員が研究代表者のもの

浅見洋，志村恵,谷山洋三,彦聖美：　ドイツ語圏の医療・福祉におけるゼーゾルゲの展開とその現在，H26 ～ H28，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

今井美和（赤祖父美和），吉田和枝，塚田久恵：　女子高校生の子宮頸がん予防行動推進プロジェクト，H25 ～ H28，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

岩城直子：　放射線療法中の乳がん患者へのPILテストを手がかりとした看護介入の活用可能性，H28 ～ H31，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

大木秀一：　多胎児に対する低出生体重児の概念の妥当性に関する実証研究，H26 ～ H28，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

金子紀子：　ソーシャルキャピタルの地域特性を踏まえた子育て支援の検討，H26 ～ H28，学術研究助成基金助成金若手研究(B)

川島和代，林一美，*橋本智江，木森佳子，中田弘子：　看護と介護のより良い連携に向けた教育デザイン　～感染防御策に焦点を当てて～，H25 ～ 28，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

木森佳子，紺家千津子，松本勝：　高齢者の静脈穿刺後皮下出血における皮膚バリア機能の評価，H27 ～ H28，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

桜井志保美，河野由美子，前川厚子，平井真理：　認知症患者の家族介護者に対する睡眠支援を

目的としたレスパイトケアの効果検証，H26 ～ H28，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

清水暢子，平井一芳，梅村朋弘，谷本千恵、安倍博： 軽度認知症者への前頭葉機能活性効果の検討～マルチタスクトレーニングによる効果検討～，H26 ～ H28，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

多久和典子： 慢性炎症と臓器線維化に関わるスフィンゴ脂質シグナリングの解明と新規治療戦略，H26 ～ H28，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

武山雅志,岩脇陽子,北岡和代,丸岡直子,塩谷亨： 看護学生のコミュニケーション・スキルの特徴と変化，H26 ～ H28，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

寺井梨恵子： 新人看護師の視覚情報に関する転倒リスクアセスメント教育プログラムの開発，H27 ～ H30，学術研究助成基金助成金若手研究(B)

中道淳子： ストレス軽減および認知機能の維持向上を意図した笑いヨガプログラムの開発，H27 ～ H29，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

西村真実子,金谷雅代,千原裕香,米田昌代,曽山小織： 子どもの虐待予防の段階的支援システムの研究:虐待リスクをもつ乳児の母が集う場の評価,H27 ～ H29,科学研究費補助金基盤研究 (C)

長谷川昇，高山成子，他3名： 高齢者が自立した生活を維持するための非侵襲的評価指標の検討，H27 ～ H29，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

濵耕子，杉山隆，松原圭一，濱田雄行： 産前産後の骨盤矯正機能付き筋力サポートアンダーウェアの開発評価，H28 ～ H29，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

林一美，山﨑智可： 地域包括ケアシステムにおける診療所看護のプライマリケアに関する質指標の開発，H28 ～ 30，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

牧野智恵，長谷川昇： 外来化学療法における患者への曝露防止に関する研究，H28 ～ H30，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

松本智里： 女性人工股関節全置換術患者の歩容の自己評価と心理社会的側面の相互の影響，H27 ～ H29，学術研究助成基金助成金若手研究(B)

丸岡直子，林一美，武山雅志，石川倫子，林静子，田村幸恵，田淵知世，吉田千文，樋口キエ子: 外来-病棟一元化による看護師の患者・家族包括的在宅移行支援力育成プログラムの開発，H26 ～ 29，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

米田昌代： 周産期の死を経験した母親・家族を社会全体で支えるシステムの実現可能性の検討，H26 ～ H28，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

野口美和子，大湾明美,石垣和子,春山早苗,他2名： 島しょ看護学の学習指導書作成に関する研究，H27 ～ H29，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

伊藤隆子，吉田千文,石垣和子,辻村真由子,他3名： 在宅療養の場における倫理的ビリーフの解明とケアマネジメント能力育成プログラム開発，H28 ～ H30，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

辻村真由子，石垣和子： 訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援指針の開発，H28 ～ H30，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

彦聖美，大木秀一： 高齢期の妻や親を介護する男性介護者に対する地域特性に基づく支援のあ

り方，H25 ～ H28，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

彦聖美，大木秀一：　男性介護者のソーシャル・キャピタルの特徴を踏まえた健康支援のあり方に関する研究，H28 ～ H30，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)

永谷幸子，小林宏光，林久恵：　足関節運動を用いた患者のモビリティを拡大するための看護介入，H27 ～ H29，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

望月美也子，長谷川昇，吉村篤：　脂溶性ビタミンと運動に着目したアンドロゲン低下に伴う肥満とうつ状態の改善，H28 ～ H30，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

6.7.2　学内研究助成費

本学専任教員が行う「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を発展させることを目的とする。

石川倫子：　看護技術能力向上のための看護基礎教育と新人看護職員研修の一体化及び標準化に向けての研究－各医療施設において新人看護職員研修で行っている看護技術内容と課題の明確化－

市丸徹，森啓至：　重点課題「少子高齢化に伴う課題」生殖機能の中枢制御機構の解明に関する研究

大木秀一，彦聖美：　重点課題「少子高齢化に伴う課題」多胎育児当事者のニーズと科学的根拠に基づく多胎児用母子健康手帳の開発

金谷雅代，西村真実子，千原裕香，本部由梨，坂本洋子，伊達岡五月：　重点課題「少子高齢化に伴う問題」在宅育児家庭『通院保育』利用の効果の検討

清水暢子，平井一芳，梅村朋弘，松永昌宏：　重点課題「少子高齢化に伴う問題」軽度認知症患者への前頭葉機能活性効果の検討～マルチタスクトレーニングによる効果～

曽根志穂，武山雅志，金谷雅代：　地域住民が取り組む防災・減災対策の実態に関する研究

曽山小織，米田昌代，濵耕子：　重点課題「少子高齢化に伴う問題」中年期女性の子どもの有無によるライフプランへの影響に関する研究

多久和典子，岡本安雄：　抗がん剤による臓器障害に時期特異的に関与する細胞種とその役割の解明

谷本千恵：　イタリアの地域精神保健活動における看護教育と実践に関する実態調査

田淵知世，大木秀一：　外国人住民の非集住地域において日本人男性と結婚した中国人女性の子育てにおける当事者間のつながりと社会的サポートの関係

塚田久恵，石垣和子：　事業所における夜間交代制勤務従事者ヘルスリテラシーの特徴と保健行動との関連

子吉知恵美，田村須賀子，山崎洋子：　重点課題「少子高齢化に伴う問題」保護者の受容状況に応じた発達障害児の早期支援・就学時支援・虐待予防に関する研究

長谷川昇，望月美也子，鳥居昭久，加藤真弓：　食教育と運動指導を併用した糖尿病境界域者の重点化予防法の提案－尿中カテキン代謝産物の簡易測定法を指標として－

牧野智恵，長谷川昇，*籔下佳子，我妻孝則，村上真由美，高地弥里，浦嶋ひとみ，山瀬勝巳，内村恵理子，久保博子，高野智早：　重点課題「がん看護に関する課題」化学療法を受ける乳がん患者・家族への曝露防止支援の検討～曝露防止対策実施前後の排泄物調査から～

6.7.3　その他助成金等

1. 本学教員が研究代表者のもの

垣花渉：　地域と協働した健康料理の創作及び情報発信，H28，平成28年度大学生の健全な食生活への実践活動助成事業

西村真実子，千原裕香：　親子交流授業のプログラム改善:気になる生徒に対する効果的アプローチの検討，H28，公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団受託研究

子吉知恵美：　子育て期にある在宅がん終末期療養者支援の狭間を埋めるために必要なインフォーマルな支援に関する研究，H28.3～H29.3，公益社団法人　在宅医療助成　勇美記念財団

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

該当なし

7. 国際交流

7.1　国際交流委員会

委 員 長：濵 耕子　教授

委　　員：西村教授、加藤准教授、木森准教授、塚田准教授*、織田准教授、市丸講師、
金谷講師*、中道講師、山﨑助教、清水助教*、大江助教、梶谷助手*、大西助手*
(*任期2017年1月～)

事 務 局：塚本課長補佐

活動内容：

1. 学生の夏期アメリカ看護研修(国際看護演習)（7.3参照）

本学では、国際的に活躍できる人材の育成をめざし、夏期アメリカ看護研修(国際看護演習、1単位・30時間)が行われている。参加経費は学生の自費によることから、より多くの学生が参加できるように、研修プランの策定にあたっては、平成28年度も業者にプロポーザル方式でプランを提案させ、経費負担の抑制を図った。その結果、参加経費が326,000円(諸経費含む)となり、23名の学生が参加した。また、昨年度に引き続き事前学習として、研修内容に応じて日本とアメリカの保健医療制度やその実情などの知識を自己学習させたり、自己紹介の英会話を取り入れることで充実させた。課題として、事前学習時の相互理解を深めること、施設見学では高度実践看護師(特に専門看護師、ﾅｰｽﾌﾟﾗｸﾃｨｯｼｮﾅｰ等)による活動紹介などを入れること、英会話は初期～中期に設定、1日のスケジュールを講義・英会話の座学と保健・医療・福祉の施設見学を半日ずつ設定、施設見学用資料の準備、看護師等による説明や質疑応答の機会を設定することが挙げられた。今後は、研修プログラムをより一層充実させるために、プログラムの評価方法を検討し、評価結果を基にした改善に取り組む必要がある。

2. 国際交流意識の向上をめざした取り組み

学生および教職員の国際交流意識の向上をめざし、以下について取り組んだ。

1）国際交流の集い

日時：2017年2月8日(水)16：20 ～ 18：10

場所：地域ケア総合センター研修室

ねらい：本学学生が留学生等の講演や対話を通して、異文化のなかの多様な価値観を知る。
国際的視野を広げるとともに、海外で学ぶことの動機付けの機会とする。

プログラム：学生部長挨拶

講話1「パラグアイにおける青年海外協力隊の活動」
講師：南田 里美さん(本学卒業生5期生)

講話2「How to become a global worker and not die trying」（グローバルワーカーになるには～すごく大変だけど死ぬことはないよ！～）
講師：Alejandro Moreno[アレハンドロ・モレノ]さん
(会宝産業株式会社ビジネスディベロッパー)

講話3「日中カルチャーショック」
講師：盧 冬麗[ロ・トウレイ]さん(石川県国際交流協会国際交流員)

講話1 ～ 3に対する質疑応答
講師を囲んで小グループでフリートーク＆質疑応答
国際交流委員長挨拶

参加者：学生26名(1年生20名、2年生4名、3年生2名)、教職員

参加学生へのアンケートを実施し、23名(88%)から回収した結果、印象や学び・気づきについてカテゴリー化してまとめたものによると、「国際交流に興味を持ち」、交流行事に対して今後も参加を希望する者や貴重な機会と捉えた者がいた。また、「他国と日本の文化の違いにより価値観が変わる」、「外国で働いたり、国際的な活動をする話を聞くと身近に感じた」、「他国での医療の違いが印象に残った」、「まずは好奇心や気持ち、行動してみることが大切」、「海外に興味が湧いた、短期でも行ってみたい」との考えが記載されており、他国の価値観や文化に興味を持つことが、国際的視野を広げることや海外で学ぶことへの動機付けの機会になったと思われた。時間制限があるなかで、終始、和やかだが刺激的な笑顔の絶えない交流会となった。今後はこのような国際交流を学生の地域活動として取り上げていくことも考えていく等、工夫が必要である。

2) 教職員向けの英会話の運営および方法の検討

教職員向けの英会話を毎週金曜日に以下のように実施した。主な参加者は16名ほどで、1回のクラスの参加者は「グループレッスン」1 ～ 6名、「プライベートレッスン」1名固定であった。「グループレッスン」の延べ参加者数の平均(1週当たり)については、前期3.1名、後期3.3名と例年(2015年度前期2.5名、後期2.3名)より高く、臨床実習を理由とした減少はなかった。委員会メンバー 3名が交替で講師との連絡調整、教職員への周知、当日の準備を行った。

日時：毎週金曜日
(A)18時～ 18時50分:グループレッスン(フリートーク、一部テキストを用いた文法修得)
(B)19時～ 19時50分:プライベートレッスン(予約制:フリートーク、手紙、論文、学会抄録、メール等の英作文、英文読解に関する修得)
場所：3階演習室4
講師：Mr. Clive Ross

2017年度は、グループレッスンに①フリートーク、②テキストによる文法修得の2講座を設ける。①は、first course(挨拶や自己紹介ができる程度の英会話力対象)とadvanced course(海外旅行で困らない程度の英会話力対象)に分け、隔週で開催することになった。また、①、②ともテキストを用いた文法修得の時間をより多く確保する。プライベートレッスンは、複数者の申込みも可とした。

3) 国際交流の掲示板の内容の更新

本学の国際交流活動を広く周知するために設けられた学内2か所に国際交流の掲示板の内容を平成28年度版に更新した。内容は、夏期アメリカ看護研修、JICAからの委託研修(パ

ラグアイ等)、韓国の全北大学とタイのチェンマイ大学における保健医療福祉の研修である。また、平成28年3月末に訪問した、中国の中医薬大学(江蘇省)および吉林大学看護学部(吉林省)との提携覚書(Memorandum of Understanding)の締結場面の内容である。

なお、インドネシアのダルマプルサド大学等との交流写真は継続して掲示してある。

4) その他

2017年度は、「英語能力向上のための研修」を実施する予定である。国際学会出席や国際誌への投稿を視野におき、研修会等を催し、英語論文やメールの書き方、国際学会でのマナーを学ぶ機会をつくる。また、TOEFLやTOEICへの挑戦、準備講座開催の検討等、国際交流への関心をより一層高めていく必要がある。

7.2 ノースカロライナ大学との交流（大学院科目「国際看護特論Ⅰ」）

今年度は、国際看護特論Ⅰと科目名を変更した初年度である。今年度は、ノースカロライナ大学チャペルヒル校看護学部のSeonAe Yeo教授を招聘し、以下の内容でゼミおよび講演を実施し、交流を行った。

交流内容

1. 講義・演習

テーマ：「Writing for Publication:What does it take to achieve a success that you deserve」

講　師：SeonAe Yeo教授（ノースカロライナ大学　チャペルヒル校看護学部　教授）

内　容：①学術論文執筆についての名著として知られる

Booth et al. *The Craft of Research, Third Edition*

(Chicago Guides to Writing, Editing, and Publishing) の講読

②受講者各自の研究関心に近い文献をデータベースで検索する

③受講者各自の研究関心に最も近い文献数件を特に研究デザインに留意して理解する

④読み込んだ上記文献についてプレゼンテーションを行う

⑤招聘教員との質疑を通し、重要な先行研究を踏まえた上で自身の研究をデザインする

ゼミには15名の院生が受講し、3名が聴講した。

2. 海外招聘特別講演

場　所：石川県立看護大学　大講義室

日　程：8月29日（月）15:00～16:30

テーマ：「看護におけるものの見方・考え方」

内　容：ナイチンゲールを含む、欧米の・アメリカの看護理論家のものの見方・考え方などを基に、具体的なエピソードを交えてご講演をいただいた。

7.3　夏期アメリカ看護研修（学部科目「国際看護演習」）

2016年8月26日～9月8日の2週間にわたり、夏期アメリカ看護研修がワシントン州シアトルで行われ、学生23名（3年19名、2年4名）が参加した。

研修内容

1. 講義

1）テーマ：「アメリカのナース（NS）の役割・教育・保健医療システムについて」

講　師：上月頼子先生（ワシントン大学看護学部准教授）

内　容：

①アメリカの保健医療システム

②アメリカのNSが働いている場（病院・クリニックやそれ以外の場）

③NSが提供しているサービス／メディカルスタッフの中での役割分担（Dr、SW、PT、OT、ST、NSのそれぞれの役割）、日本のNSとの違い

④看護教育制度（NP等のAPNの紹介、ライセンスを得るための教育、権限・責務など）

2）テーマ：「日米の医療の様々な違いについて」

講　師：Yuko Okamoto先生（Redmond Care & Rehabilitation Center）

内　容：日米の医療システム、終末期医療、医療現場の違い

3）テーマ：「シアトルのホームケア」

講　師：Susan 先生

内　容：アメリカの医療保険、年金制度、施設の種類や特徴、入院・退院システム、在宅で活動する専門職の役割

2. 語学研修

日常英会話、看護英語など

3. 保健医療・福祉施設の見学

1）University of Washington

2）University of Washington Medical Center

3）University of Washington School of Nursing

4）Swedish Hospital

5）Harborview Medical Center

6）Redmond Care & Rehabilitation Center

7）Keiro Northwest

8）Nikkei Manor

4. 日程

	月 日 (曜)	都 市 名	発 着	交通機関	時 刻	日 程	宿泊・食事 (朝・昼・夕)
1	8/26 (金)	小松空港 羽田空港 成田空港	発 着 発	NH-754 〃 DL-166	10：05 11：20 16：40	着後、リムジンバスにて成田空港へ 一路、シアトルへ ≪日付変更線≫	(－ － 機)
		シアトル	着	専用車	09：22 午後 夕	入国審査後、専用車でワシントン大学へ ワシントン大学キャンパスツアー Orca Card チャージ ホストファミリーと対面。ホームステイ宅へ	ホームステイ (機 ― ○)
2	8/27 (土)	シアトル		市バス	終日 夕	シアトルダウンタウン観光 パイププレイスマーケットやウォーターフロントなど 市バスで帰宅	ホームステイ (○ ○ ○)
3	8/28 (日)	シアトル		市バス	終日	終日フリータイム ワシントン大学への行き方をホストファミリーから学ぶ	ホームステイ (○ ○ ○)
4	8/29 (月)	シアトル		市バス	09:30 午後	ワシントン大学へ オリエンテーション、 English Lesson（日常英語） **ワシントン大学看護学部教員によるセミナー** 「アメリカのナース（NS）の役割・教育・保健医療システムについて」	ホームステイ (○ ○ ○)
5	8/30 (火)	シアトル		市バス	09:30 午後	ワシントン大学へ English Lesson ：Home Care(在宅看護)を実際に行っている看護師をゲストに迎えたレッスン **Redmond Care & Rehabilitation Center へ** 日本人の看護師より「日米の医療の様々な違い」についてのセミナー	ホームステイ (○ ○ ○)
6	8/31 (水)	シアトル		市バス	09:30 午後	ワシントン大学へ English Lesson（日常英語と視察のための事前学習） **Swedish Hospital（予定）へ** ＊病院内視察と看護師によるセミナー(通訳付き)	ホームステイ (○ ○ ○)
7	9/1 (木)	シアトル		市バス	09:30 午後	**Nikkei Manor へ** 軽介護施設での高齢者との触れ合いと看護ケアについて学ぶ。 **Keiro Northwest へ** ボランティアスタッフとして入居者と触れ合い、ケアだけでなくアメリカの日系人の歴史について学ぶ	ホームステイ (○ ○ ○)
8	9/2 (金)	シアトル		市バス	09:30 午後	ワシントン大学へ English Lesson（日常英語と視察のための事前学習） **Harborview Medical Center へ**（通訳付き） ※第 1 級外傷センターとして高い評価を得ている病院の病棟やリハビリセンター、Medic 1 などを視察。	ホームステイ (○ ○ ○)
9	9/3 (土)	シアトル		市バス	終日	**エクスカーション：** **フェリーで Bain Bridge Island へ** 初期の日系移民の歴史が始まった日本人ゆかりの島	ホームステイ (○ ○ ○)
10	9/4 (日)	シアトル		市バス	終日	終日フリータイム	ホームステイ (○ ○ ○)
11	9/5 (月)	シアトル		市バス	午前 13:10	フリータイム（Labor Day のため休日） **メジャーリーグ観戦** **（マリナーズ vs テキサスレンジャーズ）**	ホームステイ (○ ○ ○)
12	9/6 (火)	シアトル		市バス	09：30 午後	ワシントン大学へ English Lesson Presentation / Closing ceremony フリータイム	ホームステイ (○ ○ ○)
13	9/7 (水)	シアトル	発 発	市バス 専用車 DL-167	朝 12：15	ワシントン大学に集合 シアトル空港へ 一路帰国の途へ	機内泊 (○ ― 機)
14	9/8 (木)	成田空港 成田空港 小松空港	着 発 着	〃 NH-3119 〃	14：40 18：40 19：55	成田空港から小松空港へ 到着後、解散	(機 ― ―)

＊現地の訪問予定先の都合や、飛行機のスケジュール変更、遅延により、日程が変更になる場合があります。　＊NH：全日空　＊DL：デルタ航空

利用旅行会社：（株）アトラス旅行

7.4　韓国 全北大学校看護大学との交流

本学は2014年11月17日に全北大学校看護大学と提携覚書(MOU:Memorandum of Understanding)を締結した。このMOU締結を期に韓国全北大学ならびに全羅北道庁の協力を得て、大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローカル人材育成システムの構築」における石川県立看護大学企画の研修を立案した。平成27年度(2015年)の夏期休業中に全北大学看護学部(韓国)において研修する予定であったが、感染症MERS（Middle East respiratory syndrome：中東呼吸器症候群）の韓国内のアウトブレイクにより延期せざるを得なくなり、翌年3月下旬に期間を短縮して実施した。参加者は本学学部生・大学院生・教員計14名であった。

また、平成29年（2017年）度に予定されている「IPNU2017　国際看護フォーラム―中国、韓国、日本の看護師教育、助産師教育に焦点を当てて―」における講師の派遣依頼などについて、全北大学の担当教員とメールにて交渉・相談し、全北大学の2名の教員を招聘することが決まった。

開催日程	2017年8月11日(金)　10：00 ～ 16：00
開催地・会場	石川県金沢市　ホテル金沢
内容	中国（南京中医薬大学・吉林大学)、韓国（全北大学)、日本（石川県立看護大学）における看護師、助産師教育について
講師(予定)	南京中医薬大学・吉林大学・全北大学・石川県立看護大学の教員
参加者	看護学生、病院や施設の看護師・助産師・保健師、看護教育関係者、テーマに関心のある一般の方々

7.5　中国 南京中医薬大学看護学院との交流

本学は2016年3月28日に南京中医薬大学と提携覚書(MOU:Memorandum of Understanding）と学生交流プログラムの合意書(Student Exchange Program Agreement)を締結している。2016年度は、2017年度に予定されている「IPNU2017　国際看護フォーラム―中国、韓国、日本の看護師教育、助産師教育に焦点を当てて―」における講師の派遣依頼などについて、南京中医薬大学の担当教員と交渉・相談し、2名の教員を招聘することが決まった。

開催日程	2017年8月11日(金)　10：00 ～ 16：00
開催地・会場	石川県金沢市　ホテル金沢
内容	中国（南京中医薬大学・吉林大学)、韓国（全北大学)、日本（石川県立看護大学）における看護師、助産師教育について
講師(予定)	南京中医薬大学・吉林大学・全北大学・石川県立看護大学の教員
参加者	看護学生、病院や施設の看護師・助産師・保健師、看護教育関係者、テーマに関心のある一般の方々

7.6　中国 吉林大学看護学院との交流

本学は2016年3月29日に吉林大学看護学院と提携覚書(MOU:Memorandum of Understanding) と学生交流プログラムの合意書(Student Exchange Program Agreement)を締結している。2016年度は、2017年度に予定されている「IPNU2017　国際看護フォーラム―中国、韓国、日本の看護師教育、助産師教育に焦点を当てて―」における講師の派遣依頼などについて、吉林大学の担当教員とメールにて交渉・相談し、吉林大学の2名の教員を招聘することが決まった。

開催日程	2017年8月11日(金)　10：00－16：00
開催地・会場	石川県金沢市　ホテル金沢
内容	中国（南京中医薬大学・吉林大学)、韓国（全北大学)、日本（石川県立看護大学）における看護師、助産師教育について
講師(予定)	南京中医薬大学・吉林大学・全北大学・石川県立看護大学の教員
参加者	看護学生、病院や施設の看護師・助産師・保健師、看護教育関係者、テーマに関心のある一般の方々

7.7　米国Family Nurse Practitioner　視察研修

1.目的

日本の看護教育において、2015年にNP(Nurse Practitioner)教育の導入が可能となった。それを受け、NP教育が石川県下にもたらす効果の見当をつけ、望ましい専門性や教育内容、必要な準備等の参考にするため、NPの先進国である米国ワシントン州での視察研修を実施した。これは大学改革委員会／大学院･専攻科検討班の事業の一環である。

2.研修参加者　10名　内訳は以下の通り(職位省略)

石垣和子（学長･団長)、牧野智恵（成人看護学・副団長)、林一美（在宅看護学・副団長)、長谷川昇（健康科学)、石川倫子（看護キャリア支援センター）、金谷雅代(小児看護学)、谷本千恵(精神看護学)、塚田久恵（地域看護学)、中田弘子(基礎看護学)、中道淳子(老年看護学)

3.研修期間、研修施設、主な研修内容

日時		研修施設、講師	主な研修内容
2017年 3/23(木)	午前	【施設】UW School of Nursing 【講師】Gail Johnson, DNP, ANP,FNP.DNPARNP,FNP	① 米国におけるNPの役割と活躍の場 ② NPカリキュラム構築及び実習
	午後	【施設】UW South Campus Center 【講師】Tresa Marshall, ARNP Family Nurse Practitioner	① Operating an NP-Led Clinic in a Rural Area－過疎地区の診療所における職務内容と裁量権、医師との連携－ ② 隔地でのNPによる開業クリニック－個人経営、対象と治療、予防及び健康増進教育－
3/24(金)	午前	【施設】Jefferson Health Care, South County Medical Clinic 【講師】Merrily M. Mount, MSN, ARNP, 他	① A Rural Clinic as Part of a County-wide Healthcare System ② 投薬と臨床検査、患者情報の管理システム、健康増進事業
	午後	【施設】Jefferson Health Care Hosp. 【講師】Dr.Joe Mattern Chief Medical Officer, 他９名	① Jefferson Healthcareの概要 ② ARNPの活動と質疑応答 ③ 病院内見学
3/27(月)	午前	【施設】Family Care of Kent 【講師】Robert　Smithing MSN,FNP,FAANP　他１名	① Family Care of Kentの実践 ② サービスが行き届いていない地域へ多くの資源を提供している診療所を導いているNP
	午後	【施設】UW School of Nursing 【講師】Heather Stephen-Selby, BSN, MSN, ARNP, RN	① ワシントン州看護協会における高度実践看護師の歴史の概要 ② APRN（高度実践看護師）とARNP（上級実践看護師）、NPの信念と役割
3/28(火)	午前	【施設】Holly Park Medical and Dental Clinic 【講師】DoQuyen Huynh, DNP,FNP,ARNP（Residency Program Director）等	① Holly Park Clinic Tour－International Community Health Services ② 診療場面の見学、NP研修プログラム、全国のNPの立場、NP協会

8. 地域創生

8.1　地域創生委員会

委 員 長：川島 和代　教授（学長補佐）

委　　員：浅見教授（学長補佐）、濵教授、垣花准教授、山岸准教授、塚田准教授、金谷講師、出村事務局長

事 務 局：塚本課長補佐

活動内容：

1. 地域創生にかかわる活動について

平成28年度の本学委員会組織の改変により本学の地域創生事業を所掌する委員会として「地域創生委員会」が新設された。次の4つの班（部会）との連携を図りながら各事業を統括している。

1）大学間連携共同教育推進事業班

大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローカル人材育成システムの構築」石川県における高等教育機関 19の大学・短期大学・高専（大学コンソーシアム石川加盟校）統括本部・事業推進責任は金沢大学が所掌している。

平成28年度、本学は、大学間連携共同教育推進事業の実施のため学内委員会（委員7名、事務局1名にて構成）を設置し、本格稼動3年目の事業として民泊型フィールド実習、海外研修（タイ チェンマイ大学看護学部）、グローカル人材育成（2名）に取り組んだ。

2）能登キャンパス構想推進協議会班

能登キャンパス構想推進協議会（石川県、金沢大学、石川県立大学、石川県立看護大学、金沢星稜大学、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町で構成、事務局は輪島市）を組織し、高等教育機関のない奥能登地区をキャンパスと捉え学びの場とすることで能登の活性化（交流人口の拡大や若者の移住・定着等）を目的とした能登キャンパス構想推進協議会に本学が正式加盟して6年目である。

平成28年度、石川県立看護大学は、日程調整が適わず主たる活動参加はできなかったが、課題成果発表会（2017.3.27）に学生・教員計7名が参加した。

3）COCプラス事業班

本事業は平成27年度文部科学省が募集した地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+）に金沢大学が中心となって応募した「金沢･加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材育成」が採択され、本学も参加校として予算措置を受けた。

平成28年度、石川県立看護大学は①地域創生概論受講への対応および②共創インターンシップ・プログラム開発の2点を中心に行った。また、学生委員会と合同で石川県内外で働く卒業生を講師として招き「学生セミナー」を開催した。

4）COI事業班

COI（Center of Innovation）事業の一環として、石川県、保健医療従事者等を育成する県内外複数大学および企業が参加する北陸ライフケア研究会を通じて、ライフケアに関して情報産業、ビッグデータ処理、看護学など様々な視点から学際的な勉強会、意見交換会を行っている。

平成28年度、石川県立看護大学は研究会における話題提供の実施、さらに石川県における次世代創造ファンドに共同研究機関の一員として申請し採択された。

8.2　大学間連携共同教育推進事業 －ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト－

実施団体名

大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローカル人材育成システムの構築」石川県における高等教育機関 19の大学･短期大学･高専（大学コンソーシアム石川加盟校）統括本部・事業推進責任は金沢大学が所掌。

概要

平成28年度、石川県立看護大学は、大学間連携共同教育推進事業の実施のため学内委員会（委員7名、事務局1名にて構成）を設置し、本格稼動3年目の事業として民泊型フィールド実習、海外研修（タイ チェンマイ大学看護学部）、グローカル人材育成に取り組んだ。

8.2.1　大学間連携共同教育推進事業班

班　　長：川島 和代　教授（学長補佐）

班　　員：浅見教授（学長補佐）、垣花准教授、山岸准教授、塚田准教授、金谷講師、
出村事務局長

事 務 局：塚本課長補佐

活動内容：

1　平成28年度事業計画の内容

石川県立看護大学平成28年度事業計画は、次の3項目を立案し、実施した。ここで述べるヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクトとは、「学都いしかわ課題解決型グローカル人材」における保健医療福祉系学生向けに企画した石川県立看護大学提案のプログラムである。

1）ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト、能登町における「民泊型フィールド実習」の継続実施と平成26～28年の3年間の成果のふり返りと評価

石川県立看護大学は大学間連携共同教育推進事業の取り組み内容として、本学の1年次正課「フィールド実習」の中に高齢・過疎地域における地域の課題を知り、アプローチできる素地を育成する教育内容（民泊型フィールド実習）を取り入れ、3年目になる。その成果をふり返り､今後の継続に関する検討をステークホルダー（能登町）とともに検討する。

2）ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト、「海外における地域保健体制を学ぶ」研修の企画・実施

大学間連携共同教育推進事業におけるグローバルな視野を涵養するために、保健医療福祉系の学生向けの海外研修（タイ国立チェンマイ大学）を企画し、保健医療福祉系の大学にも参加を呼びかけ実施する。

3）グローカル人材育成に向けて修了証獲得につなげる学内支援システムの構築

平成27年度は、グローカル人材育成修了証獲得者を3名輩出した。平成28年度も修了証獲得につなげるために継続的に支援する学内システムを構築する。

2　平成28年度計画に基づく実施状況

1）民泊型フィールド実習の実施

平成28年度は19名の学生が受講した。受講学生のうち、1名は民泊型フィールド実習の実習目的に賛同し、将来、能登を視野に入れた活動を希望する石川県立大学　大学院生であった。本学からは希望があれば、「個別プログラム」の証明を出す手はずを整えた。

2)「海外における地域保健体制を学ぶ」研修の企画・実施

平成28年度は、タイの情勢が比較的安定していることから研修プログラムを企画・実施することを前年度の2月には決定した。研修への参加者募集用のチラシと研修プログラムはを作成・配布した。また、平成28年度は、要望のあった看護系大学には研修のPRも兼ねて説明会を当該大学内教室にて複数回、開催した。参加希望者は、石川県立看護大学7名、金沢大学医薬保健学域2名、計9名であった。タイへの初めての研修でもあり、引率教員は石川県立看護大学より2名派遣することとした。

3）グローカル人材育成に向けて修了証獲得につなげる学内支援システムの構築

グローカル人材として成長できるよう、平成26年度に選択科目「ヒューマンヘルスケア」を新設した。1年次前期の「フィールド実習」の継続としてさまざまなフィールドでサークル活動やボランティア活動の取り組みをはじめ、大学コンソーシアム石川の地域課題研究ゼミナール採択プログラムの取り組み、自ら地域の課題解決に取り組むなど視野を広げるために関連の講演会や学術集会等での学びの成果報告をもって単位認定する仕組みを教務委員会の支援を受けて整えた。

本学の年度当初の授業ガイダンス時に「学都いしかわ課題解決型グローカル人材育成システム」の説明や前期・後期半ばに学生に修了証獲得申請の意志を確認することとした。大学間連携共同教育推進事業の取り組みを通して本学が独自に作成した「大学間連携共同教育推進事業の修了証獲得のための石川県立看護大学等のコースアウトライン」にそって学生の学びを自己評価してもらい、統括本部への申請につなげる支援を行った。平成28年度には2名の修了証獲得を支援し、グローカル・ヤングリーダの称号獲得につながった。

3　終了後の事業継続について

石川県立看護大学では、正課科目「フィールド実習」の中に高齢・過疎地域の暮らしを知る内容を取り込み、継続的に地域をフィールドとしたボランティア活動等を単位化できるよう「ヒューマンヘルスケア」科目創設につなげたことは大きな成果であったと考える。また、グローカル人材修了証獲得申請支援のために独自のコースアウトラインやマニュアル作成につなげたことも有効であったと考える。引き続きグローカル人材育成を図っていく予定である。

外部報告

大学間連携共同教育推進事業　平成28年度事業報告書

外部資金

大学改革推進等補助金（大学間連携共同教育推進事業）　1,030千円

8.3　能登キャンパス構想事業

実施団体名

能登キャンパス構想推進協議会：

石川県、金沢大学、石川県立大学、石川県立看護大学、金沢星稜大学、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町

概要

高等教育機関のない奥能登地区をキャンパスと捉え学びの場とすることで能登の活性化（交流人口の拡大や若者の移住・定着等）を目的とした能登キャンパス構想推進協議会に本学が正式加盟して6年目である。本協議会は、石川県(能登半島地震復興基金)、上記4大学、奥能登2市2町が出資して運営している。

8.3.1　能登キャンパス構想事業班

班　　長：林 一美　教授

班　　員：牧野教授（研究科長)、垣花准教授、谷本准教授、出村事務局長

事 務 局：塚本課長補佐

活動内容：

1. 協議会・幹事会の出席

協議会2回、幹事会3回開催があり参加した。

2. 能登祭りの環インターンシップ事業への参加

平成28年から、インターンシップ事業（「長期インターンシップ」「短期インターンシップ」「当日インターンシップ」）となり、インターンシップ期間に応じた学生の祭りへの関わり(祭りの地域への参入)となった。しかし、本学からは希望者はいたものの調整が付かず、本年度の参加はなかった。

3. 能登の課題解決プログラムへの学生参加

平成28年度石川県立看護大学は、主たる活動参加は実施できなかったが、課題成果発表会に学生・教員計7名が参加し、質疑応答に参加した。

外部報告

該当なし

外部資金

該当なし

8.4　地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

実施団体名

（参加大学）金沢大学、金沢工業大学、石川県立看護大学、石川県立大学、金沢星稜大学、北陸大学、金沢学院大学、金城大学、（協力大学）7校

（自治体）石川県はじめ県内すべての自治体20

（企業・団体）企業・団体18

概要

本事業は文部科学省が募集した地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に金沢大学が中心となって応募した「金沢･加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材育成」が採択された。本事業の目的は、地方創生の鍵となる若者の定着と産業と地域の活性化をめざし、グローバルな視点で地域を思考できる学生を育成し、地方創生を担う次世代の人材の輩出、また､地域関係機関（企業･自治体等）と連携した雇用創出を含む地域定着モデルの構築である。平成31年度までに石川県内の学生の就職率10%向上、うち10%は起業等による雇用創出をめざす数値目標を掲げている。

8.4.1　COCプラス事業班

班　　長：小林 宏光　教授

班　　員：大木教授、垣花准教授、織田准教授、中道講師、川村講師

事 務 局：塚本課長補佐

活動内容：

COC＋事業への本学の対応として、今年度は①地域創生概論受講への対応および②共創インターンシップ・プログラム開発の2点を中心に行った。

地域創生概論は金沢大学を中心として作成されたビデオ教材であるが、参加大学においてこれを1年生に受講させる必要がある。教務委員会との協議した結果、本学においてはヒューマンヘルスケア（1-3年次開講選択科目）での課題の1つとして認定することとした。

共創インターンシップは地元企業等において学生実習を行うことにより、将来的に県内企業への就職者を増やそうという取り組みである。看護系単科大学である本学の特徴から企業での実習実施は難しいが、自治体等での地域保健関係の実習をインターンシッププログラムとして申請しプログラム開発費として200千円の配分を受けた。この予算は主として地域看護実習関係の費用にあてられた。

また、石川県内外で働く卒業生を講師として招き学生委員会と合同で「学生セミナー」開催した。

外部報告

該当なし

外部資金

大学改革推進等補助金（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）　200千円

8.5　COI事業

委 員 長：大木 秀一　教授

委　　員：川島教授、塚田准教授

活動内容：

COI（Center of Innovation）事業の一環として、石川県、保健医療従事者を育成する等の県内外複数大学および企業が参加する北陸ライフケア研究会を通じて、ライフケアに関して情報産業、ビッグデータ処理、看護学など様々な視点から学際的な勉強会、意見交換会を定期的

に開催している。平成28年度は4回の研究会を開催した。うち、第3回研究会に本学（川島教授）からも話題提供「テーマ：要介護高齢者の生活の質の向上をめざして」（2016.10.4）を行った。

また、北陸ライフケアシステム研究会参加者の中で研究組織を結成し、平成28年度いしかわ次世代産業創造ファンド事業助成金事業（次世代産業創造支援事業 ライフサイエンス）に「配食事業者によるICT技術を活用した在宅高齢者地域包括リアルタイム見守りシステムの構築」（代表　株式会社リジョイスカンパニー赤井純一、株式会社リンケージ、北陸先端大学院大学、石川県立看護大学の合同）を申請し、採択された。次年度以降、ICTを活用した見守り事業に関する共同研究を実施する予定である。

9. 附属図書館

9.1　図書館運営委員会

委 員 長：西村 真実子 教授（附属図書館長）
委　　員：浅見教授、多久和教授、北山准教授、川村講師、林講師、松田総務課長
事 務 局：山本主幹
活動内容：

1. 本学の学術情報リポジトリのコンテンツ充実に向けての検討

本学では現在、石川看護雑誌、博士学位論文、年報、地域ケア総合センター報告書を学術情報リポジトリで公開しているが、学術情報リポジトリにおける公開の趣旨を尊び、さらに本学教職員の教育・研究活動の成果物(論文、学会発表等)の公開促進を検討するために、教職員に「学術情報リポジトリのコンテンツ充実」に関するアンケート調査を2016年12月に行った。その結果(36名回答)、2割の者に著作権問題への心配や登録作業の面倒さ等の意見がみられたが、6割の者が論文や学会発表のリポジトリへの公開には前向きであった。そこで、登録手続き等の手順を作成し、2017年度から教員に向けて登録を依頼することになった。また2017年度に、近々の学術情報リポジトリの進展状況や課題などについて、図書館情報学の専門家による講義を開催することになった。

2. 図書館による学習支援：文献検索セミナー

1）3年生向けの文献検索セミナー基礎編＆体験編

科目「情報リテラシー（1年前期開講)」において、2016年度より文献検索等の講義内容が強化されたことを受け、これを受講していない2、3年生を対象に「文献検索セミナー基礎編＆体験編」を実施した。基礎編は科目「研究方法論(3年次後期開講)」の最終回後に3年生全員に実施し、実践編は3月に6回開催し、38名の参加があった。

2）大学院生・教員向け文献検索アドバンス編ミニレクチャー

文献検索は研究活動の重要なステップであるが、ほしい文献を効率的に見つけるのは難しい。そこで、大学院生・教職員を対象とした文献検索アドバンス編の研修会を開催した。

日　時：2016年12月26日（月）　15:30 ～ 17:00（講義は60分間）
講　師：大木秀一教授（本学健康科学領域）
対象者：大学院生・教職員
場　所：本学地域ケア総合センター研修室

46名が参加し、終了後のアンケートによると(32名が回答)、満足81%、今後に活用できる97%と好評を博した。「改めて自分のできていない部分、できていた部分を知ることができた」「今までやっていた方法がとても甘いものだと感じた」「続編をしてほしい」などの感想が得られた。院生には、2017年度より新入生ガイダンス続編として1コマ、科目「看護研究(1年前期開講)」に本アドバンス編が1コマ講義されることになった。

3. データベース(DB)の学外からのアクセス・電子図書に関する教員・院生への要望調査

標記についての要望を2016年12月に教職員・院生を対象に調査したところ(40名回答)、学外からのDBへのアクセスに対して9割の者が「必要またはできればあった方がよい」との回答であった。電子図書をよく知っている者は3割のみであったが、「大学外から閲覧できる」「社会人院生は研究活動がスムースになる」などの前向きな意見が多かった。2017年度は図書選定に電子図書枠を設けることや、学外からのDBへのアクセスサービスについて積極的に検討することとした。

4. 他大学図書館視察

先進的な活動をしている、看護学部を持つ大学の図書館を訪問し、近年の図書館の課題である、図書館による学習支援および学術情報リポジトリについての現状や考え方、電子図書の導入・利用状況などについて情報収集した。また、図書館の学習環境(学習室の設置等)についても視察した。

日　時：2017年1月19日（木）
視察先：聖路加国際大学学術情報センター図書館、東京女子医科大学本館図書館
視察者：西村図書館長、林静子図書館運営委員、山田司書

学習支援、学術情報リポジトリ等について、本学図書館に活用できそうな点は以下の通りである。2017年度はこれらについて検討をすすめる。

1) 学術情報リポジトリについての学内での共通理解を図るための専門家の講演会の開催
2) 文献管理ソフトの使い方の研修会またはユーザーズガイドのコピーの常設
3) 学生の要望把握などのために、学生図書委員制度、学生等の要望記載・意見交換・情報共有のための図書館内壁面ホワイトボードの設置
4) PC設置の学習コーナーなどの充実
5) 統計ソフト講座の開催

5. 図書等の整備状況

平成27 ～ 30年度までの「図書整備計画」に基いて、図書・視聴覚教材を整備すべく、例年通りに教員を対象に購入推薦図書の調査を行ない、図書1,019冊、視聴覚教材11点を受入れ・整理し、利用に供した。

9.2　今年度の主な活動概況

9.2.1　図書館事業の実施

1. 図書館内において、無線LANの利用が可能となった。
2. 4人掛けの机に衝立を設置し、館内の学習環境を整備した。
3. リユース図書の実施

図書館が複本で所蔵する図書と、学生、教員から寄贈を受けた、リユース用図書を7月夏

のオープンキャンパスに学生と見学者に無料で提供した。

4. わく・ワーク（work）体験事業

かほく市立高松中学校2年生2名が、7月25日（月）～26日（火）の2日間「わく・ワーク（work）体験事業」に参加、図書の移動、配架、図書装備、カウンター業務等、図書館業務を体験した。

5. 企画展示の実施

テーマ別に企画展示を行った。（カッコ内展示期間　冊数）

1）大学生になったら洋書を読もう「はじめての洋書」（4/15～5/15　26冊）

2）「あなたのスタート新生活応援！図書展」（4/11～5/15）

・学び始める編　21冊　　・暮らし始める編　21冊

3）県立図書館共同企画「おいしい石川展」（5/22～6/5　50点）

4）開学記念「かほく市のあゆみ・くらしの展示」（5/22～6/5　10点）

5）看大祭記念展示「いのちと生物多様性」（10/24～11/11　10点）

6）「卒論・レポートの書き方　特集」展（11/24～1/10　65点）

7）「ミステリーを読もう展」（11/24～1/10　65点）

9.3　資料整備状況

資料整備状況（平成29年3月31日現在）（　　）内平成28年度受入れ数

コレクション別		総　数	内　訳	合　計
図　書	和書	50,982冊（1,240冊）	購入：1,002冊 寄贈：238冊	合計　56,988冊 （1,257冊）
	洋書	6,006冊（17冊）	購入：17冊	
雑　誌	和雑誌	453誌	継続購入99誌	合計　622誌 （内購入129誌）
	洋雑誌	169誌	継続購入30誌	
新　聞	日本紙	6紙	－	7紙
	英字紙	1紙	－	
視聴覚資料	CD-ROM	163点（2点）	購入：2点	合計　2,202点 （11点）
	ビデオ	1,376点	－	
	DVD	647点（8点）	購入：8点	
	eBOOK	16点（1点）	購入：1点	

9.3.1　分野別蔵書構成（平成29年3月31日現在）

○総冊数：56,988冊

分類	0	1	2	3	4-480	49	N	5	6	7	8	9
標目	総記	哲学宗教	歴史	社会科学	自然科学	医学	看護学	技術・工学	産業	技術	言語	文学
冊数	4,399	2,902	666	7,970	1,615	19,262	13,755	1,155	232	1,388	1,282	2,362

9.3.2　医学分類蔵書構成（平成29年3月31日現在）

○医学書（看護学を除く）の総冊数：19,262冊

分類	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499
標目	医学総記	基礎医学	臨床医学	内科学	外科学	周産期医学	耳鼻咽喉科	歯学	公衆衛生学	薬学
冊数	1,524	2,925	1,351	6,356	2,001	871	110	116	3,799	209

9.3.3　看護系資料分類別構成（平成29年3月31日現在）

○看護学関係図書総冊数：13,755冊

分類	N0	N1	N2	N3	N4	N5	N6	N7	N8	N9
標目	看護総記	看護理論	看護実践	母性看護	小児看護	成人看護	老年看護	精神看護	地域家族看護	状態別看護
冊数	2,285	945	3,707	664	439	1,808	523	397	1,959	1,028

9.4　利用統計

9.4.1　開館日数・入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	25	23	26	25	24	23	26	23	22	20	22	18	275
入館者数	4,882	5,978	6,070	8,657	4,068	3,449	5,754	4,510	3,744	4,563	5,091	1,206	57,972
1日平均	195	260	233	346	170	150	221	196	170	228	231	67	211

9.4.2　館外利用者数及び冊数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生	人数	515	580	449	405	774	308	567	347	230	351	143	65	4,734
	冊数	1.123	1,310	910	806	565	827	1,213	803	561	717	273	139	9,247
院生	人数	16	17	17	22	47	33	38	44	49	22	19	9	333
	冊数	45	61	64	71	126	90	98	100	134	79	36	25	935
教職員	人数	49	62	49	44	35	42	52	53	41	37	38	33	535
	冊数	141	151	123	112	76	105	139	145	116	126	90	89	1,413
一般	人数	53	63	75	64	82	65	57	87	72	82	68	64	832
	冊数	129	150	183	144	197	151	123	205	174	205	180	171	2,465
計	人数	633	722	590	535	938	448	714	531	392	492	268	579	6,434
	冊数	1,534	1,745	1,363	1,190	1,009	1,204	1,647	1,253	985	1,127	579	429	14,060

9.4.3　他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	9	19	41	6	16	120	23	22	9	11	14	23	313
学生	11	73	69	19	24	19	40	15	11	0	8	6	295
一般	2	4	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	10
計	22	96	111	25	40	139	64	37	22	11	22	29	618

9.4.4　他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	21	10	8	8	10	13	5	8	3	2	5	5	98
学生	64	67	122	52	66	52	43	30	23	32	21	42	614
一般	6	14	19	12	8	9	9	5	11	8	8	13	122
計	91	91	149	72	84	74	57	43	37	42	34	60	834

9.4.5　館内設置コピー機による複写件数・枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	154	175	194	188	202	96	181	145	77	84	75	87	1,424
枚数	2,987	2,897	3,357	2,891	3,064	1,885	2,531	2,196	1,177	1,537	984	939	26,445

9.4.6　相互貸借貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	15	4	3	1	5	5	8	5	7	8	6	3	70
大学	2	2	1	4	3	5	2	1	3	3	3	2	31
合計	17	6	4	5	8	10	10	6	10	11	9	5	101

9.4.7　相互貸借借受冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	32	58	67	65	71	62	65	70	70	59	111	110	840
大学	0	3	0	2	1	0	0	0	2	0	1	1	10
合計	32	61	67	67	72	62	65	70	72	59	112	111	850

9.4.8　データベースアクセス状況

○洋雑誌：CINAHL（EBSCO社）（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	200	301	343	1,288	595	390	839	255	135	372	177	215	5,110

○和雑誌：メディカルオンライン（メテオゲート社）（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	1,415	1,308	1,289	2,579	1,459	880	1,262	959	645	510	851	816	13,973

9.5　利用者サービス

9.5.1学内向図書館サービス

新入生、新任教職員等を対象に、図書館の利用方法等について説明した。

実施時期	対象者	対象・参加人数	内容
4月 5日（火）	新大学院生ガイダンス	約10名	図書館の使い方 図書館の概要説明
4月 7日（木）	新入生・編入生ガイダンス	約90名	図書館の使い方 図書館の概要説明
4月13日（水）	大学院生ガイダンス	約10名	図書館の利用方法とオンラインデータベース講習
4月20日（水） ～ 5月12日（木）	新入生を対象に「図書館へ行こう！」	1回約20名 計4回実施	DVD情報の達人・説明 館内の案内
7月 6日（水）	感染管理認定看護師教育課程オリエンテーション	受講生　約20名	図書館の利用方法とオンラインデータベース講習

9.5.2学外向図書館サービス

県政バス、県内の中高生等を対象に、図書館の概要説明や、図書館の利用方法とオンラインデータベース講習会等を実施した。

日　　時	名　　称	対象・参加人数	内　　容
6月17日（金）	中国大使館職員	職員3名来館	図書館の概要説明
6月23日（木）	県立北陵高等学校	生徒40名	図書館の概要説明
7月16日（土）	オープンキャンパス	高校生、父兄	図書館の開放、施設説明 図書リユースコーナー設置
7月25・26日 （月・火）	かほく市立高松中学校 「わく･ワーク(work) 体験事業」	生徒2名	図書装備体験 カウンター業務体験 資料の複写業務体験

日　　時	名　　称	対象・参加人数	内　　容
8月24日（水）	県立田鶴浜高等学校	生徒　35名	図書館の利用方法と データベースの講習
10月4日（火）	県立小松高等学校	生徒	図書館の概要説明
10月17日（月）	星稜高等学校	保護者34名	図書館の概要説明
10月27日（木）	県立伏見高等学校	保護者11名	図書館の概要説明
10月29・30日 （土・日）	大学祭 秋のオープンキャンパス	一般、父兄 高校生	図書館の開放 リユースコーナーの設置
5月10日（火） ～7月27日(水)	県政バス(七尾市他) 計7回	約300名	図書館の概要説明

9.5.3　学内で利用できるデータベース

	内　　容	同時使用
最新看護索引web	看護分野に限定した雑誌文献情報データベース。「日本看護学会論文集」平成23年度(第42回)より、電子版を掲載。全10領域の「論文集(電子版)」を閲覧・ダウンロードできる。収録件数、約20万件、収録誌数812誌。更新頻度月1回。	3
PubMed	医学分野の代表的文献情報データベース。米国NLM作成。医学･歯学･生命科学関係の4,800誌以上の雑誌から収録。収録データ数約1,600万件。	フリーアクセス
メディカルオンライン	医学文献の検索をはじめ、医薬品・医療機器・医療関連サービスの情報を幅ひろく提供。	フリーアクセス
CINAHL	看護学・保健学分野の文献情報データベース。約3,000誌の専門誌が対象。データ数約42万件。(EBSCO社)	4
PsycINFO	心理学、行動科学、精神医学分野の文献情報データベース。29カ国、20以上の言語で出版されている2,400点の心理学関連資料から収録。	フリーアクセス
医学中央雑誌	日本国内の医学・歯学・薬学及び関連分野の文献を網羅した文献情報データベース。収録誌数約5,000誌。収録件数約630万件。	8
JDreamⅢ	日本国内の科学関連分野の文献を網羅した総合抄録誌のインターネット版。医学・薬学領域予稿集全文DB。収録約5,200万件。	10
Nii、CiNii (国立情報学研究所)	国立情報学研究所主宰の資料検索、学術雑誌文献検索、研究成果論文検索等を収録した総合検索システム。 (主宰：国立情報学研究所)	フリーアクセス
ELSEVIER Science Direct	購読タイトル（9誌）の2007年以降に出版された論文全て。購読誌「Applied Nursing Research 」他9誌 サブジェクト・コレクションの論文すべて 対象サブジェクト：Nursing and Health Professions	4

9.6　職員研修

9.6.1附属図書館職員の研修

日　　時	場　所	名　　称	内　　容	参加者名
4月8日（金）	金沢市	平成28年度図書館協力業務・ネットワーク担当者会議 主催：石川県公共図書館協議会	県立図書館との相互協力について	山田　美花
6月10日（金）	名古屋市	公立大学協会図書館協議会事務長会・同総会、東海・北陸地区会議 主催：公立大学協会図書館協議会	・公立大学図書館の活動について ・東海・北陸地区会議の出席	山本　晃暢
6月23日（木）	金沢市	石川県大学図書館協議会定例会議及び講演会 主催：石川県大学図書館協議会	県内大学図書館の活動について	山本　晃暢
7月27日（水）	東京都	オープンアクセスリポジトリ設立総会 主催：国立情報学研究所	大学の知の発信システムの構築に向け、左記の推進協会設立について	山本　晃暢
10月12日（水）	金沢市	平成28年度石川県大学図書館協議会特別研修会 主催：石川県大学図書館協議会	大学図書館における学習支援に向けて何をすべきか？	山本　晃暢 山村　　徹
10月16日（日）	東京都	「第102回全国図書館大会」 主催：日本図書館協会	大会テーマ：地域創造と図書館の未来	山本　晃暢
11月2日（水）	金沢市	平成27年度石川県図書館大会 主催：石川県図書館協会	地域を活かす図書館	山田　美花
11月8日（火）	金沢市	平成28年度著作権セミナー（石川県会場） 主催：文化庁、石川県	著作権に関する基礎的な理解を深め、著作権制度の知識や意義について学ぶ	山村　　徹 山田　美花
12月10日（土）	大阪市	看護図書館員のための文献検索教育セミナー 2016 主催：日本看護図書館協会	看護系図書館の専門的な知識・技術の習得及びレファレンス能力の向上を図る	山村　　徹
1月19日（木）	東京都	視察研修 聖ルカ国際大学学術情報センター 東京女子医科大学図書館本館	リポジトリの運用、職員体制、学習支援等について聞き取り調査を実施した。	山田　美花

10. 附属地域ケア総合センター

10.1　地域ケア総合センター運営委員会

委 員 長：武山 雅志　教授（附属地域ケア総合センター長）
委　　員：多久和教授、西村教授（附属図書館長）、川島教授（学長補佐）、山岸准教授、
岩城准教授、塚田准教授、桜井准教授、谷本准教授、石川准教授、林講師、
寺訳教務学生課長
委員補佐：川端助教、金子助教、清水助教、千原助手
事 務 局：塚本課長補佐
開催頻度：月1回（原則、第2木曜日）計9回開催
活動内容：

平成28年度より地域ケア総合センター事業を3つの部会で進めていくことになった。運営委員会では各部会の報告を元に、全体のセンター事業の進捗状況を把握するとともに、提示された課題について検討した。また平成29年度事業の方向性について検討を行った。

平成28年度はかほく市との包括的連携協定締結に係わる協議会を2回開催し、意見交換を行った。従来から継続している事業に加えて、「健康ブランド化事業」と「いきいきシニア活動推進事業」を行った。

「健康ブランド化事業」においては「か歩く健康ウォーキング事業」と「健康弁当づくり」が行った。「いきいきシニア活動推進事業」では「シニアの力と経験力～ inかほく」と題した講演会を実施した。

10.1.1　人材育成部会

部 会 長：石川准教授
部 会 員：田村助教、磯助教
開催頻度：随時
活動内容：

人材育成事業の専門職研修として4講座、本学教員主催の研究会・事例検討会として5講座を実施した。相談サービス事業としては病院、行政、職能団体、福祉・高齢者関係の任意団体より合計15件の依頼があり、研修会講師や看護研究の指導を行った。

人材育成部会としては有料講座の実施、講座参加者増への取組、関係機関のニーズ把握をテーマに議論を重ね、平成29年度に向けた一定の方向性を見いだした。

10.1.2　地域活動部会

部 会 長：塚田准教授
部 会 員：長谷川教授（学生部長）、川島教授（学長補佐）、
山岸准教授、塚田准教授、林講師
開催頻度：随時

活動内容：

地域連携・貢献事業の地域連携事業として5講座、生涯学習講座として8講座を実施した。ワンストップサービス事業として3件の依頼があった。

地域活動部会としては「子育てしやすい街づくり」について、かほく市子育て支援課と議論を重ね、学生ボランティアによる子育て支援に方向を転換し、乳幼児わくわく運動会をはじめ、託児ボランティアなど学生のよるボランティア活動を支援した。また冬場の健康づくりを目的とした「か歩く健康ウォーキング事業」への協力を行い、参加住民の健康チェックとミニ講話などを実施した。

10.1.3　国際貢献部会

部 会 長：岩城准教授

部 会 員：中道講師、田淵助教

開催頻度：随時

活動内容：

国際貢献事業のJICA日系研修においては研修生2名（ブラジル、パラグアイ）を迎え、高齢者の理解や健康な日常生活の自立を支援する方法について、講義、演習、施設見学を通して学んでいただいた。JICA青年研修ではカンボジアから15名の研修生を迎え、予防医学・公衆衛生分野における実施体制の課題解決を担う青年層の知識と意識の向上を目指して、講義や施設の視察を行った。

国際貢献部会としては上記の研修について、JICA北陸および羽咋市社会福祉協議会と協議を重ねて円滑な運営に努めた。

11. 附属看護キャリア支援センター

11.1　看護キャリア支援センター運営委員会

委 員 長：丸岡直子　教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長）
委　　員：川島教授（学長補佐）、林教授、木森准教授、石川准教授、徳田特任准教授、
　　嶋田特任講師、小清水臨時講師、田村助教、清水助教
事 務 局：片山幸美嘱託
活動内容：

1. 前年度の実状および問題点・課題等

　前年度の当センターの事業は、企画、受講生の募集と選考、各事業の運営と終了に至る一連の活動は円滑に実施できた。しかし、認定看護師教育課程において、要件に合致した教員の確保に課題が生じ、県内病院から協力を得ることで、次年度の教育課程継続につなげることができた。また、県の医療施策および臨床現場のニーズにより、平成28年度には認知症看護認定看護師教育課程の開設に向けた教育機関申請準備および選任教員および実習施設等の確保が課題となる。さらに、認定看護管理者（サードレベル）の教育機関申請は前年度中に行っており、認可後には開講に向けて準備する必要がある。

2. 今年度の目標

1）今年の事業計画を円滑に実施する。
　事業内容　①感染管理認定看護師教育課程
　　②県委託事業
　　実習指導者講習会（特定分野）
　　看護教員研修事業
　　看護管理経営研修
　　認定看護師活動実践報告会
2）看護職者の資格取得（認知症看護認定看護師および認定看護管理者）へのニーズ調査を実施し、開講の継続の可能性を検討する。
3）認知症看護認定看護師教育課程の開設にむけて準備を進める。
4）認定看護管理者（サードレベル）教育機関承認後には、今年度中に開講する。
5）平成26 ～ 28年度の事業報告書を作成し、ホームページに掲載する。

3. 今年度の活動内容・その評価

1）今年度の事業内容は円滑に実施できた。年度当初に、委員で役割を分担し各事業の運営にあたった。（各事業の実施概要は　p114 ～ 117を参照）
2）平成28年5月に、北陸3県の病院の看護部責任者に認知症看護認定看護師および認定看護管理者の受講ニーズを調査した。その結果、開講後3年程度は受講生の確保が見込まれることが判断された。
3）認知症看護認定看護師教育課程の教育機関申請を日本看護協会に提出し、10月31日に認可された。入試説明会を2回開催し、115名の参加があり、次年度に実施予定の入学試験

に向けての準備を進めている。専任教員を2名確保することができ、1名は次年度に着任予定である。

4）認定看護管理者（サードレベル）教育機関として、6月28日に認可され、10月に開講した。（実施概要は　p116参照）

5）事業報告書のファーマットを検討し、編集作業を開始した。ホームページへの掲載は平成29年4月を予定している。

4. 次年度以降に向けた課題・発展

1）今年度は2つの教育課程と県委託事業（4事業）を実施したため、教務事務的作業の増大、受講生の履修・指導場所の確保と狭隘などの課題が生じた。そのため、次年度の事業計画立案では、受講生の募集・選考、開講期間などの状況から、教職員が無理のない状況で事業を計画していく。

2）看護キャリア支援センターの主たる財源は受講料であるため、受講生の定員確保は重要な課題である。受講生の確保方策や開講の継続を検討するために、毎年、看護職者の資格取得に関するニーズ調査を実施する必要がある。

3）感染管理認定看護師教育課程は平成29年度から休講となるが、これまでに70名の修了生を輩出している。修了生の活動実態や学習ニーズ調査を実施し、フォローアップの方策を検討する。

4）認知症看護認定看護師教育課程が次年度に開講する。入学試験の適正な実施、教育課程の遂行を円滑に実施する。

5）認定看護管理者（サードレベル）教育課程の確認審査を受審予定であるため、適切に対応する。

11.2　感染管理認定看護師教育課程

11.2.1　受講生の受講・修了状況

	定員	入学者数	修了者数
平成28年度	20	20	20

11.2.2　入学試験・入試説明会の実施

平成29年度から休講するため、入学試験および入学説明会は実施しなかった。

11.2.3　感染管理認定看護師教育課程入試委員会

委 員 長：丸岡 直子　教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長）

委　　員：今井教授、石川准教授、嶋田特任講師

北川洋子（富山大学附属病院）、室井洋子（福井大学医学部附属病院）

野田洋子（金沢医科大学病院）、越野まゆみ（石川県立中央病院）

事 務 局：片山幸美嘱託
活動内容：感染管理認定看護師教育課程は平成29年度より休講するため、今年度は入学試験を実施しなかった。そのため、入試委員会は開催しなかった。

11.2.4　感染管理教員会

委 員 長：丸岡 直子　教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長）
委　　員：川島教授（学長補佐）、石川准教授、嶋田特任講師
飯沼由嗣（金沢医科大学）、吉野幸恵（石川県看護協会）
青木きみ代（国立病院機構金沢医療センター）、小森幸子（加賀市民医療センター）
事 務 局：片山嘱託
活動内容：
1. 教育課程の内容、教育環境整備に関する検討
2. 受講生の修了判定

11.3　認知症看護認定看護師教育課程

11.3.1　教育機関認定審査

公益社団法人日本看護協会の認定看護師細則11条の規程および認定看護師教育機関認定の要件に基づいて、平成28年8月19日に、「認知症看護認定看護師教育課程」の教育機関認定審査申請を行った。

その結果、平成28年10月31日に教育機関として認可された。入学定員は30名であり、平成29年7月に開講予定である。

11.3.2　入学試験・入試説明会の実施

1）入学試験
今年度は実施しなかった。1回目の入学試験は平成29年5月13日の予定である。
2）入試説明の実施
平成28年11月23日（水）と平成29年2月18日（土）の2回実施し、延べ112名の参加があった。

11.3.3　認知症看護認定看護師教育課程　入試委員会

委 員 長：丸岡 直子　教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長）
委　　員：徳田真由美特任准教授、中道淳子講師
久米真代（金城大学）、多幡明美（石川県立高松病院）、福井亜紀（芳珠記念病院）
堅田三和子（地域医療機能推進機構金沢病院）、和田博之（福井県立すこやかシルバー病院）
事 務 局：片山嘱託

活動内容：

1. 入学者募集要項・選抜方法の検討
2. 入学試験の実施体制の検討

11.3.4　認知症看護認定看護師教育課程　教員会

委 員 長：丸岡 直子　教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長）

委　　員：川島教授（学長補佐）、徳田特任准教授
堅田三和子（地域医療機能推進機構金沢病院）、吉野幸枝（石川県看護協会）
永田厚子（石川県立高松病院）、冨澤ゆかり（金沢赤十字病院）、林浩靖（光ヶ丘病院）

事 務 局：片山嘱託

活動内容：

認知症看護認定看護師教育課程は平成29年度7月に開講予定のため、今年度は実施しなかった。入学試験（平成29年5月13日）の合格発表後に開催予定である。

11.4　認定看護管理者

11.4.1　教育機関の認定

平成29年6月29日に日本看護協会より、認定看護管理者（サードレベル）教育機関として認定された。これを受けて、認定看護管理者（サードレベル）教育課程を平成28年10月31日～平成29年2月15日に開講した。

11.4.2　受講生の受講・修了状況

	定員	応募数	入学者数	修了者数
平成28年度	25	30	28	28

11.4.3　認定看護管理者教育運営委員会

委 員 長：丸岡 直子　教授（学長補佐兼附属看護キャリア支援センター長）

委　　員：武山教授（附属地域ケア総合センター長）、林教授、石川准教授、小清水臨時講師
岡田ふみ子（石川県看護協会）、中西容子（金沢市立病院）、野村仁美（地域医療機能推進機構金沢病院）、中瀬美恵子（浅ノ川総合病院）、出口まり子（芳珠記念病院）

事 務 局：片山嘱託

活動内容：

1. 受講生の決定と修了判定
2. 教育課程の内容・方法、教育環境整備に関する検討

11.5　石川県委託事業の開催

11.5.1　実習指導者講習会（特定分野）

1）目　　的：特定の分野の実習指導を行う者に対して、看護教育における実習の意義および実習指導者としての役割を理解し、学生の生美を生かす実習指導のあり方を修得する。

2）開催時期：平成28年8月17日～ 9月16日の7日間

3）受 講 者：24名

（看護師等経験5年以上で、病院以外の実習施設において学生の実習指導を担当している者、またはその役割を期待されている者）

4）内　　容：教育方法・教育評価、看護教育課程、実習指導の実際・指導案の作成など39時間

11.5.2　看護教員研修事業

1）目　　的：現代社会において、知識や技能を活用したり創造したりする力が求められている。高等教育では「学士力」「社会人基礎力」として取り上げられている。この知識・技能を活用する力、いわゆる課題を解決する思考力・判断力・表現力を、育成するための授業づくりをパフォーマンス評価の観点から考える。

2）開催時期：平成28年6月11日、6月25日、7月2日、12月17日

3）受 講 生：19名

4）内　　容：パフォーマンス評価の理論と実際、学生が自らの経験を 「活用する力」を育成する授業の実践と評価　など24時間

11.5.3　管理者経営研修

1）目　　的：地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。

2）開催時期：平成28年9月30日～ 10月15日の4日間

3）受 講 者：28名（護師長以上の職位にある者）

4）内　　容：包括ケア時代における看護管理者の役割､看護管理者のための病院経営数字力、組織分析に基づく看護管理上の課題解決に向けた戦略　24時間

11.5.4　認定看護師活動報告会

1）目　　的：在宅療養に向けた多職種協働における認定看護師の役割を再考し、自己の課題を明らかにする。

2）開催時期：平成29年2月4日（土）13:00 ～ 15:00

3）受 講 者：124名

4）内　　容：認定看護師による在宅療養支援活動の発表と全体討議

12. 大学として取り組んでいる連携事業

12.1　北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン

実施団体名

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン(先進的医療イノベーション人材養成事業)

：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、石川県立看護大学

概要

高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上を推進することを目的とし、北陸では金沢大学、石川県立看護大学、金沢医科大学、富山大学、福井大学が申請し「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」として平成24年度から平成28年度の5年間の事業である。本事業の特徴は、北陸地区における医科系4大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）と、看護系1大学（石川県立看護大学）より構成され、①がん教育改革（本科8コース)、②地域がん医療、③がん研究者養成より構成されている。①教育改革については、IPEによるチームマインド養成カリキュラム、多職種連携によるチーム医療のリーダー養成カリキュラム、医科系大学連携による単位互換制度を特徴としている。②地域がん医療については、能登北部地区等の医療過疎地域を拠点とした地域がん医療研修、インテンシブコースによる地域がん医療の指導者養成、がん専門医の地域定着を狙いとするコースを設けている。地域がん医療に貢献できる看護師養成コースを設け、地域看護の活性化、休職中看護職復帰へ繋げている。③研究者養成については、国際機関連携教育、卒前・卒後一貫教育、MD-PhDによる学部・大学院一貫教育による高度な研究能力を有するがん研究者養成を図ることである。

12.1.1　がんプロ企画委員会

委 員 長：牧野 智恵　教授（研究科長）

委　　員：石垣教授（学長)、松原教授、今井教授、岩城准教授、林講師、金谷講師、
松本助教、寺井助教、磯助教、山﨑助教、大西助手、瀧澤特任助手、
寺訳教務学生課長

活動内容：

1. がん看護専門看護師（本科生）の育成
   1) 2015年度から、共通科目B（3P）6単位と「がん看護学実習Ⅲ」4単位を追加し、38単位履修による教育を開始し、それに伴い、臨床薬理学、フィジカルアセスメント、病態生理学の強化､実習内容の強化(医師とのカンファレンスの実施による診断技術の強化)を行った。今年度は、2名の本科生入学があり、在学生2名を合わせて4名の教育を行った。
   2) がん看護専門看護師としての国際的知識・技術の習得のため、イギリスのホスピス・緩和ケアの先駆けとなった、シシリー・ソンダース博士の聖クリストファー・ホスピスや、ドロシーハウス・ホスピス、ペニー・ブローン・キャンサーケアを、1名の本科生が訪問した。研修内容について、がんプロ報告書、本学ホームページにて報告した。
   3) インテンシブコースによるがん看護の知識の普及実施・評価

以下の4つのコースへの募集および成績判定を行った。

＜インテンシブAコース＞

本科生を修了した者へのがん看護専門看護師受験をサポートするために、インテンシブAコースを実施している。本コースは3名の申請があった。

＜地域がん看護師養成コース＞

地域がん看護師養成コースⅠは、大学院での科目履修を目的とするもので、今年度は、申請者は1名であった。地域がん看護師養成コースⅡは、大学院への入学は予定していないが、最新のがん看護の知識を得たい人を対象としたものである。今年度は、7名であった。

毎月1回実施しているテレビ会議システムによる事例検討の後、がん看護専門看護師によるミニレクチャーへの参加を義務づけている。沿革の施設にいながらにして、事例の検討に参加し、他施設のがん看護の実践の様子を知ることができ、がん看護実践における知識や思考を支援している。今年度の事例検討会には700名が参加した。

＜地域がん看護活性化コース＞

何らかの事情で現在休職あるいは退職している看護師を対象にしたコースで、がんプロ主催の公開講座や事例検討会などに参加することを通して、現在臨床で行われている様々な問題を聞き、再就業へのバリアを解消し、再就業しやすい環境を整えることを目的としたもの。今年度は、3名の看護師が申請した。

2. がんプロ企画の実施と評価

1)「みんなで取り組もう抗がん剤におる暴露対策」公開講演会の実施・評価

5月にテレビ会議システムを利用して、各拠点大学と参加希望病院合わせて11施設をつないで、同志社女子大学の中西教授を招き、抗がん剤暴露予防に関する講演を行った。154名が参加し、抗がん剤暴露予防に関する知識が固まったとの意見が聞かれた。

2)「臨床で行なうリンパ浮腫ケア」研修の企画・評価

今年度は、石川県済生会金沢病院（がん看護専門看護師・日本医療リンパドレナージ協会認定セラピスト）の高地弥里さんを講師として招き、7月10日(日)に本学成人看護学実習室にて実施した。昨年より20名程度多い70名の看護師が参加した。「知識から実技までわかった」「細かく説明してもらえて理解できた」など、高評価を得た。一方で、「実際の症例について聞きたかった」「終末期患者のケアについてさらに聞きたかった」などの意見も得た。

3) 公開事例検討会のCNS対象クローズド事例検討会企画・評価

①本学地域ケア総合センターとの共同企画で、「複雑な事例へのアプローチ　～高度実践看護師から学ぶ～」と題し公開事例検討会を実施した。

今年度は、神奈川県立がんセンターがん看護専門看護師の清水奈緒美さんと、ナース・プラクティショナーである診療看護師1名、本学修了の2名の専門看護師（がん1名、老人1名）をお招きし、9月22日に大講義室にて実施した。自殺企図のある老年期のがん患者への支援の在り方について、身体面、精神面へのエビデンスに基づいたアセスメントなどについて検討した。当日は約50名の県内外の看護師、専門看護師が参加し、内容に「大変満足・満足」していた参加者は90%を占めていた。

②CNSおよびCNS候補者を対象に、CNSクローズド事例検討会を2回実施た。8月19日には、

北里大学病院のがん看護専門看護師の坂下智珠子さんをお呼びし、21名が参加した。9月21日には、神奈川県立がんセンターの清水奈緒美OCNSをお呼びし、実施した。21名が参加した。

4）FD・SD講演会の企画・評価

平成28年12月17日（土）13時からホテル金沢に於いて、板井孝壱郎先生（宮崎大学　生命・医療倫理学教授）、我妻孝則氏（金沢医科大学病院　がん看護専門看護師）、村上真由美氏（富山赤十字病院　がん看護専門看護師）を講師に迎え、「多様な価値観に基づく意思決定の支援　～がん治療の選択における倫理的問題～」を開催した。医療者、患者、その家族と価値観が違う中、いかに解決に導いていけばよいかを倫理的問題を捉える視点、専門看護師の関わり、リンクナースへの支援と院内での取り組みやその方法について3名の講師から、各テーマに沿って講演していただき、その後パネルディスカッションを実施した。当日はおよそ92名の医師、看護師、保健師、介護支援専門員が集まった。90%以上の参加者が「参考になった・とても参考になった」の評価であった。

5）市民公開講座の実施

3月11日（土）生稲晃子さん招き「がんになっても自分らしく生きる」を開催した。本企画の第1部では、本年度立ち上げた「北陸CNSの会」の会員による講演会を実施した。当日参加者は、医療従事者65名、一般者28名であった。

3．各企画のアンケート内容の検討・評価

本プログラムは、本年度で5年を迎え終了する。しかし、これまでの実績・ニードをふまえ、次期がんプロ開始までは、がん看護事例検討会、リンパ浮腫研修会などは実施する予定である。また、事例検討会もがん看護専門看護師のみならず、その他の分野のCNS等を巻き込み、小児、老年のがん患者への支援のあり方を検討していきたい。リンパ浮腫ケア研修は、今年度は、基礎編として1日開催にしたことによって希望者が増えて来た。次年度は、さらに、基礎編に参加した人に限り応用編を実施し、技術・知識の向上に努めていきたいと考えている。

外部報告

平成28年度北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告書

外部資金

研究拠点形成費等補助金（がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）連携大学の負担金5,964千円

13. 大学施設の開放

実施年月日	内　　容	参加人数
28.4～29.3		名
金曜	フットサル練習	10
28.4～29.3	野球練習	30
土・日曜		
28.4～29.3	バレーボール練習	15
金曜		
28.4～29.3	スポーツ教室	20
火曜		
28.4～28.6	バドミントン練習	10
月曜		
28.5～28.11	介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修（指導者養成講習及び基礎研修）	100
28.4.3	ピアノ発表会	100
28.4.9・10	吹奏楽コンサート、リハーサル	300
28.4.21	フットサル練習	10
28.5.14	教育研究集会発足集会	200
28.6.18・19	第22回石川県紙ひこうき大会 inかほく	350
28.7.9	認知症高齢者サポートを考える会 講演会	200
28.7.10	音楽コンサート	55
28.7.28	教育研究集会中間集会	200
28.8.18	食品衛生責任者研修会	200
28.8.23	教育研究集会総括集会	180
28.9.10	作品展の審査	10
28.9.14・27	テニス練習	2
28.9.18・19	定期演奏会・リハーサル	450
28.10.1・2	介護支援専門員実務研修	310
28.10.16	音楽発表会	18
28.10.16	合唱練習	40
28.11.19・20	原子力防災訓練	500
28.12.3	体験会	20
28.12.26	感染予防清掃勉強会	30
29.1.20	ワークショップ	20
29.1.21	歌唱練習	12
29.2.4	運動	4
29.2.4	ロールプレイング大会	180
29.3.4	フットサル練習	10
29.3.4	院内学会	100
29.3.5	理容師美容師国家試験	350
29.3.16	JA石川かほくスマイルスクール講演会	150

編集後記

石川県立看護大学の平成28年度年報をお届けします。今回初めて、自己点検評価報告書と合本のスタイルでの発行となりました。

年報のページを繰るごとに、委員会活動、研究・地域貢献など、本学教員の多方面に亘る活動を振り返ることが出来、巻頭言に記された本学の目指すところ、すなわち、地域に密着し、かつ地域への貢献と国際貢献をめざすlocal+global=glocalな方針に沿った活動記録となっていることが改めて理解されます。一方で、年報の性格上仕方のないことですが、本学の最大の使命である看護基礎教育における教員の活動については、自己点検・評価のデータベースとなる記録がほとんど残らないことに改めて気付かされます。

看護基礎教育の拠り所としては、平成23年に日本看護系大学協議会がとりまとめた『学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標』の5群20項目（通称コア・コンピテンシー）があります。しかしながら、具体的な細目は「看護に必要な人体の構造と機能について説明できる」・「主要な疾病の症状、病因、病態、治療、予後について説明できる」・「重篤な状態にある患者の疾患・病態・症状について説明できる」など、それぞれが多くの内容を包含する項目が「インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンについて説明できる」と同じタッター行で記載されているに留まり、平成28年度の日本看護系大学協議会の声明においても「分野別評価の制度化が急務でありそのためにはコアカリキュラム策定の必要性が高まっている」と述べられています。そしてついに平成29年7月、大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会により『看護学教育モデル・コア・カリキュラム（案）』が公表されました。これにはパブリックコメント募集に対して3800もの意見が寄せられた由ですが、インターネット上に公表されている実際の意見を拝見すると、コアカリキュラムの意味を誤解されている上での反対意見が目につきます。本来、コア・カリは、到達すべき能力の獲得に最低限必要とされる具体的な学習項目、マストアイテムを明記したものであり、各大学の特色ある教育方針やコアとなるコンピテンシーと相容れないということはありえません。必要最小限のマストアイテムを決め、それらはどの大学でも共通して十二分な学習到達度を社会に対して担保すること、その上で、各大学のポリシーに沿った特色ある教育を展開することを可能とするためのコア・カリであることをまず理解し、さらに、これまでの旧習に囚われない、時代の要請に応える事ができる新たな看護基礎教育の在り方を、我々自身の手で構築して行く必要があると痛感しています。平成29年9月付で日本学術会議から発信された『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準　看護学分野』には、今後の看護基礎教育の方向性に重要な指針となるメッセージが述べられています。編集後記の役割を越えるものとは承知していますが、以下にエッセンスを抜粋し、時代の要請に応える新たな看護基礎教育を展望したいと思います。

『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準　看護学分野』

日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会（平成29年9月29日付）

「（前略）看護学教育は、その卒業要件が保健師助産師看護師法の国家試験受験要件を満たすことが前提であり、技術が安全に提供できるかを卒業前に確認することは社会への責任として重要である。国家試験への合格は、看護学教育のある一定の基準を担保するに過ぎない。加えて、看護学教育界は社会への説明責任のためにも卒業時に到達すべき能力を明確にし、看護の技術を評価する仕組みを持つべきである。（16頁中段）（中略）

加えて学士課程教育としての看護学教育は、指定規則に基づく教育内容にとどまらず、現実のニーズの変化を先取り的にとらえ、学問としての発展をにらんだ創造的、かつ各大学の独自性・特殊性を盛り込んだ教育内容を目指すべきである。

有能な看護師のマンパワー不足は依然として深刻であり、国民のニーズに対して質の高い看護専門職を輩出するという大学教育としての看護学教育に課せられた責任は大きく、今後は指定規則などの規制によらずとも大学教育の基準によって看護の質を担保して、卒業時の実践能力を保証して、看護師免許の前提とすることができるものと思われる。

このように看護学教育の高等化が進む中で、看護が担うべき役割は拡大の一途をたどっている。超高齢社会が進展する日本において、在宅医療の推進が加速する中、看護専門職に対する国民の期待は高まっている。生活の場で人々の健康に寄与できる看護専門職のさらなる役割拡大は、看護学教育の高等化と両輪となって、看護学の発展を促し、ひいては国民の福祉に寄与するものとなろう。

古来より看護は人間と共にある普遍的な実践であり、学問としての歴史は浅いが、現在は、世界の多くの国において、学問化され教育体系が確立されつつある。看護学教育のグローバリゼーションも今後さらに進展していくものと思われる。そうした世界の水準を、学問的にも教育的にも実践的にも担保してゆく努力が、我が国の看護学教育に期待されている。」

年報編集部会長
健康科学講座教授　多久和典子
第24－25期　日本学術会議会員

平成28年度　石川県立看護大学年報　第17巻
2017 年 10 月 31 日　発行

編集：石川県立看護大学　自己点検・評価委員会
年報編集部会

発行：石川県公立大学法人　石川県立看護大学
〒929-1210　石川県かほく市学園台 1 丁目 1 番地
tel.076-281-8300　　fax.076-281-8319

「版権は石川県公立大学法人に帰属する。」

（この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。）